

東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターとの海洋教育促進拠点としての連携に関する協定

大牟田の海洋教育



「有明海や三池港を生かした 大牟田海洋教育プロジェクト」

～令和元年度 海洋教育に関するカリキュラムと実践～

大牟田市教育委員会
大牟田市海洋教育推進協議会
協力：東京大学大学院教育学研究科
附属海洋教育センター

平成24年1月に大牟田市内全小学校・中学校・特別支援学校がユネスコスクールに加盟し、「ユネスコスクールのまち おおむた」として持続可能な開発のための教育（ESD）を市をあげて取り組み始めてから9年が経過しました。その間、明治日本の産業革命遺産で三池炭坑関連資産に関する世界遺産学習や郷土学習、さらには、エコタウンとしての環境学習や少子高齢化に対応した福祉学習など、子どもたちが見出した地域課題の解決に向けてESDに主体的に取り組み、多くの成果を残すことができました。

また、17のSDGs達成に向けて、大牟田の地域課題の解決に向けて重点化した「大牟田版SDGs」を作成しました。「大牟田版SDGs」では、「4 質の高い教育をみんなに」と「17 パートナリシップで目標を達成しよう」を基盤として掲げ、6つの重点目標を設定して、学校教育のみならず、行政や各種団体が一体となってSDGs/ESDの推進を図って参りました。

このような市全体での実績が認められ、令和元年12月には教育委員会としては全国初となる「ジャパンSDGsアワード特別賞」を受賞することができました。これもひとえに、大牟田のESD推進に対して、これまでに様々な角度からご指導いただいた方々やご協力いただきました関係各位のお陰であると心から感謝しているところです。

このような中、本年度もみなと小学校、天領小学校、天の原小学校の3校は、東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターのご指導の下、海洋教育推進モデル校として、大牟田の西に広がる「宝の海 有明海」をテーマとした海洋教育の推進に精力的に取り組んで参りました。実質3年目を迎えた今年度は、これまで2年間の実践の上に立って、さらに教材を掘り起こし、新学習指導要領の改訂の主旨に沿った学習が展開できるようにと、様々な工夫を重ね、昨年に引き続き、その足跡をこの実践事例集にまとめました。

また、これまで実践を交流してきました佐賀県の玄海みらい学園・大志小学校、鹿児島県坊津学園に加え、同じ佐賀県の佐志小学校、鹿児島県の与論町教育委員会、沖縄県の糸満市教育委員会、竹富町教育委員会にも参加していただき、「九州・沖縄海洋教育連絡協議会」として、より広い交流を展開することができるようになりました。本年1月に開催しました「九州・沖縄海洋教育こどもサミット」では、海洋教育センターの田中智志センター長様にもご参会いただき、大牟田の3校に加え、九州各地から5校の参加を得て、8校で交流することができました。今回初めて取り組んでみましたパネルディスカッションでは、互いの取組のよさをたくさん認め合うなど、これまでにない交流の深まりも伺え、本教育のもつ意義を再確認することができました。

現在、世界的な環境問題として、地球温暖化やプラスチックゴミによる海洋汚染など、海に関するグローバルな問題が大きく指摘されています。このような中、ここで学んだ子どもたちは、これからも海に対する関心を持ち続け、持続可能な世界を創る担い手として様々なアプローチをしてくれることと信じています。来年度も、さらに研究実践を広げ、深めていく予定です。今後とも、ご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、これまで物心両面からご支援・ご指導いただきました東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターの及川幸彦先生をはじめ関係の先生方、さらには日本財団、笹川財団の皆様には、心から感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

令和2年3月

大牟田市教育委員会
教育長 安田 昌則

大牟田市教育委員会と東京大学海洋アライアンス海洋教育促進センター（現 東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター）との海洋教育促進拠点としての連携に関する協定のもと、大牟田市立みなと小学校、天領小学校、天の原小学校の3校が、大牟田市海洋教育推進モデル校として海洋教育に取り組んでから3年が過ぎました。

海洋教育では、「海と人との共生」という理念の実現を目指し、様々な研究や教育実践が積み重ねられてきています。大牟田市で進める海洋教育においては、大牟田の地域の自然や文化の特徴を生かし、子どもたちが、日本有数の干潟をもつ「有明海」の豊かな自然と恵みを知り、海に親しみ、森・川・海の環境を守っていくこと、そして、大牟田のまちの発展の礎となった世界文化遺産「三池港」の歴史や海を通じた世界・他地域とのつながりを知り、海を活用した港湾都市としてのまちづくりへの将来的なビジョンをもつことを大きなコンセプトとして取り組んで参りました。

また、推進モデル校であるそれぞれの学校が、市内を流れる「諏訪川」の上流域と下流域、そして「三池港」近隣に位置するという立地状況を活かし、森と川と海をつなげた流域での海洋教育（デルタ型海洋教育）を推し進めてきたところです。各校がそれぞれの学校の特色を生かした実践を行うとともに、3校合同による実践や学習交流を行いながら、子どもたちの「海と共に生きる」ことへの学びを深めるとともに、3校の子どもたち同士のつながりも深めてきました。

令和2年度から全面実施となる新学習指導要領の前文には、一人一人の児童が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすること、また、そのために必要な学習内容や方法、身に付けさせる資質・能力を明確にして、学校と社会が連携・協働して児童の育成を図っていくことの重要性が明示されています。また、2015年国連サミットで掲げられた「持続可能な開発目標(SDGs)」において、「海洋」が目標の14に位置づけられ、持続可能な開発のために「海の豊かさを守る」ための取組を全世界で行っていくことが求められています。このような中、海と人との共生のために自分にできることは何かを考え、自分にできることを身近なところから実行していくという海洋教育での学びは、まさに新学習指導要領が示すこれからの教育の方向性に合致するものであり、持続可能な未来を切り拓いていく子どもたちを育てることにつながるものと確信しています。

この冊子は、大牟田市教育委員会・大牟田市海洋教育推進協議会を中心として、東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターの皆様のご協力のもと、海洋教育で育てる資質・能力を明らかにしながら、海洋教育推進モデル校で取り組んできたカリキュラムと実践についてまとめたものです。これを大牟田における海洋教育推進の新たなステップとして、これからさらにカリキュラム開発や実践を積み重ね、海洋教育での学びが子どもたちの未来に向けての大きな力となっていくことを願っています。

令和2年3月

大牟田市立みなと小学校 校長 古賀 正広
大牟田市立天領小学校 校長 古賀 信弘
大牟田市立天の原小学校 校長 高口 直喜

目次

- はじめに
- 1 大牟田の海洋教育のコンセプト 1
 - ・海洋教育とは
 - ・海洋教育のねらい
 - ・海洋教育の4つの視点
 - ・大牟田での海洋教育の意義
 - ・大牟田における海洋教育の構造
 - ・海洋教育で育成する資質・能力
- 2 海洋教育推進モデル校の全体計画・年間計画 5
 - ・海洋教育推進モデル校（3校）の研究推進計画
 - ・みなと小学校
 - ・天領小学校
 - ・天の原小学校
- 3 海洋教育推進モデル校の海洋教育の実践 13
 - ・みなと小学校
 - ・天領小学校
 - ・天の原小学校
- 4 海洋教育推進モデル校の合同による実践 61
 - ・有明海の干潟観察（5月）
 - ・海洋教育推進モデル校学習交流会（7月）
 - ・「三池港」見学・クルーズ（11月）
 - ・海洋教育こどもテレビ会議（11月）
 - ・海まつり（12月）
- 5 他地域の海洋教育実践校との交流 71
 - ・海洋教育九州・沖縄連絡協議会（6月）
 - ・海洋教育こどもサミット in おおむた（1月）
 - ・全国海洋教育サミット（2月）
- 6 大牟田市海洋教育推進協議会の組織 76
- おわりに



1 大牟田の海洋教育のコンセプト

海洋教育とは

海洋教育は、「海と共に生きる」こと（海との共生）を基礎理念とする初等・中等教育段階における海洋に関する教育を指すものである。

海洋教育のねらい

海洋教育は、海洋と人間の関係についての国民の理解を深めるとともに、海洋環境の保全を図りつつ国際的な理解に立った平和的かつ持続可能な海洋の開発と利用を可能とする知識、技能、思考力、判断力、表現力を有する人材の育成を目指す。

（海洋政策研究財団「21世紀の海洋教育に関するグランドデザイン」より）

海洋教育の4つの視点

海に親しむ



海の豊かな自然や身近な地域社会の中での様々な体験活動を通じて、海に対する豊かな感受性や海に対する関心等を培い、海の自然に親しみ、海に進んで関わろうとする児童・生徒を育成する。

海を知る



海の自然や資源、海をとりまく人や社会との深いかわりについて関心を持ち、進んで調べようとする児童・生徒を育成する。

海を守る



海の環境について調べる活動やその保全活動などの体験を通じて、海的环境保全に主体的に関わろうとする児童・生徒を育成する。

海を活用する



水産物や資源、船舶を用いた人や物の輸送、また、海を通じた世界の人々との結びつきについて理解し、それらを持続的に利用することの大切さを理解できる児童・生徒を育成する。

大牟田での海洋教育の意義

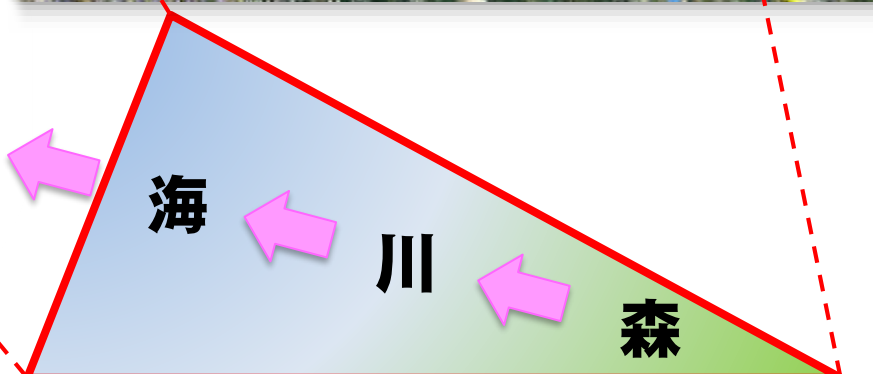
- 日本有数の干潟をもつ宝の海「有明海」の豊かな自然と恵み（水産物）を知り、海に親しみ、森・川・海の環境を守る（環境的側面）
- 大牟田のまちの発展の礎となった世界文化遺産「三池港」の歴史や海を通じた世界・他地域とのつながり（貿易）を知り、海を活用した港湾都市としてのまちづくりへのビジョンをもつ（社会・経済的側面）

海と人との共生

持続可能な地域・社会の創り手の育成

大牟田における海洋教育の構造

森と川と海をつなげた流域での海洋教育
（デルタ型海洋教育）



海洋（有明海・三池港）・諏訪川流域での学習交流

海洋教育で育成する資質・能力

学習指導要領における 育成すべき資質・能力

大牟田の海洋教育において 育成する資質・能力

生きて働く

知識
技能

の習得



有明海や三池港をもとに、海と人の共生のために必要となる自然・社会のひと・もの・ことやそのつながりについて多様性、相互性、有限性、公平性、連携性、責任性などの視点から理解するとともに、課題解決の方途について探究する技能を身につけることができるようにする。

未知の状況にも対応できる

思考力
判断力
表現力

等の育成



有明海や三池港での体験・調査などを通して、海と人や社会とのつながりについて多面的・総合的に考えるとともに、持続可能な地域・社会の未来像を予測し、その構築へ向けた行動の在り方について実現可能性の視点から考え、判断し、他者によりよく伝わるように表現することができるようにする。

学びを人生や社会に
生かそうとする

学びに向かう力
人間性

等の涵養



有明海や三池港についての学習を通して、海と人や社会との相互のつながりに関心をもち、つながりを尊重するとともに、海と人との共生のために主体的にかかわり、他者と協力しながらよりよく行動しようとする態度を身につけることができるようにする。

大牟田の海洋教育において 目指すこどもの姿

○海と人の共生にかかわるひと・もの・ことやそのつながりについて、以下の視点で理解する。

多様性：多種多様な生物がそれぞれに適した環境で生きていること。

相互性：生物やもの、ことは関係し合って（影響し合って）いること。

有限性：生物や環境は有限であり、その関係は変化し、戻ることではないこと。

公平性：共生が持続可能であるためには、開発や利用が全てのものや次の世代にも公平・公正でなければならないこと。

連携性：共生が持続可能であるためには、人やもの、ことが調和し、協力しなければならないこと。

責任性：共生が持続可能であるためには、人は責任をもって行動しなければならないこと。

○課題解決のために適切な手段を選び、目的に応じて調べ、整理する。

○事物やその関係を多角的（立場や影響）に捉え、総合的に判断し、よりよく伝わるように効果的に表現する。

○持続可能な共生の未来像を予測し、その実現に向けた行動の在り方を実現性や効果性の視点で考え（批判的思考）、順位付けたり取捨選択したりし、視覚的に表す。

○海と人の共生にかかわるひと・もの・ことやそのつながりに関心をもち、主体的にかかわろうとする。

○他の立場のひとやことに思いを巡らせてつながりを尊重し、協働しながらよりよく行動しようとする。

具体的な学習活動


3年「有明海の干潟観察」

→ P61


5年「三池港」見学・クルーズ

→ P65


干潟にすむ生き物調べ

【みなと3年】→ P15 


海水浴場のごみ調べ

【みなと4年】→ P19 


三池港の機能調べ

【みなと5年】→ P23 

漁師さん館長さん取材

【みなと6年】→ P27 

干潟にすむ生き物調べ

【天領3年】→ P31 

諏訪川環境調査

【天領4年】→ P36

海水浴場ごみ調べ

【天領5年】→ P40

有明海を通した町づくり

【天領6年】→ P44

海辺の生物とふれ合おう

【天の原3年】→ P48


三池港を調べよう

【天の原4年】→ P52

野間川環境調査隊

【天の原5年】→ P56

大牟田市の環境問題について考えよう

【天の原6年】→ P59 

3年「海まつり」

→ P69

6年「海洋教育子どもテレビ会議」

→ P67

ごみの量と種類分別

【みなと4年】→ P19 


リーフレット作成

【みなと5年】→ P24


共生のための行動協議

【みなと6年】→ P28


水質保全ポスター等作成

【天領4年】→ P35 


新聞・ポスター等作成

【天領5年】→ P39 

町づくりプラン作成

【天領6年】→ P43 

三池港清掃活動

【天の原4年】→ P51 

野間川の環境調べ

【天の原5年】→ P56

環境問題保護活動の計画

【天の原6年】→ P60

6年「海洋教育モデル校学習交流会」

→ P63


6年「海洋教育子どもサミット」

→ P72


うみまつり実施

【みなと3年】→ P15 


海の小物展示

【みなと4年】→ P19 


うみまつり実施

【天領3年】→ P31 

海の生きもの飼育

【天領3年】→ P31 

有明海環境保全の協力の呼びかけ

【天の原6年】→ P59 

「おおむた港まつり」参加【みなとPTA・児童・職員】

2 海洋教育推進モデル校の全体計画・年間計画

海洋教育推進モデル校(3校)の研究推進計画

月	みなと小学校	天領小学校	天の原小学校
4	○研究計画の立案 ○研究推進委員会	○研究計画の立案 ○研究推進委員会	○研究計画の立案 ○研究推進委員会
5	海洋教育推進協議会		
	海洋教育推進協議会ワーキンググループ会議		
6	有明海を学ぶ会取材(3年) みなと振興室取材(4年) みなと振興室取材(5年)	諏訪川力又一体験(4年)	3年「有明海の干潟観察」
	3年「有明海の干潟観察」		野間川の環境調査(5年)
	みなと振興室取材(5年)		
	海洋教育推進協議会		
	海洋教育九州・沖縄連絡協議会 in 博多		
7	浜辺の観察(1・2年)		有明海の生き物調べ(3年)
	海洋教育推進協議会		
	海洋教育推進協議会ワーキンググループ会議		
8	「第57回おおむた港まつり」 参加(PTA・児童・職員)	校内海まつり(3年) 「第57回おおむた港まつり」 参加(PTA・児童・職員)	
	海洋教育推進モデル校学習交流会		
	ユネスコスクール・ESD全国実践交流会 in 大牟田 海洋教育分科会		

月	みなと小学校	天領小学校	天の原小学校
9	○研究推進委員会	○研究推進委員会	○研究推進委員会 有明海汽水域の生物調査 (6年)
10	海洋教育推進協議会		
	海洋教育推進協議会ワーキンググループ会議		
	有明海の環境調査(4年)	諏訪川環境調査(4年)	
11	「三池港」見学・クルーズ		
	海洋教育推進協議会ワーキンググループ会議		
	三里漁協さん取材(6年) 湿地センター見学(6年)	旧三池海水浴場環境調査 (5年)	有明海の環境調査(4年)
	6年「海洋教育こどもテレビ会議」		
12	3年「海まつり」in 天領		有明海の清掃活動(4年)
	海洋教育推進協議会ワーキンググループ会議		
	海洋教育推進モデル校合同職員研修会		
1	海洋教育推進協議会ワーキンググループ会議		
	○研究推進委員会 「1ねじスクール・ESD子ども サミット」ポスター展示 「ユネスコスクール集会」 成果発表・ポスター展示	○研究推進委員会 「1ねじスクール・ESD子ども サミット」ポスター展示 「ユネスコスクール集会」 成果発表・ポスター展示	○研究推進委員会 「1ねじスクール・ESD子ども サミット」ポスター展示 「ユネスコスクール集会」 成果発表・ポスター展示
	海洋教育こどもサミット2020 in おおむた		
2	海洋教育推進協議会ワーキンググループ会議		
	第7回全国海洋教育サミット(東京大学)発表		
	「学習発表会」 成果発表・ポスター展示	「学習発表会」 成果発表・ポスター展示	「学習発表会」 成果発表・ポスター展示
3	○研究のまとめ	○研究のまとめ	○研究のまとめ

- 日本国憲法
- 教育基本法
- 学校教育法
- 学習指導要領
- 海洋基本法
- 海洋基本計画
- 福岡の教育ビジョン

学校教育目標

自他を大切にし、豊かな心と健康な身体を持ち、主体的に学びあえる児童の育成

かしこい子 (きまりを守り、よく考えて行動したり学んだりできる子ども)
 やさしく思いやりのある子 (他人を思いやり、友だちと協力して行動できる子)
 たくましい子 (運動に親しみ最後までやりぬく強い心を持った子)
 志を持った子 (将来の思いや願いを持ち、目標に向かって頑張る子)

本年度重点目標

- 自分で考え、進んで行動する子どもの育成
 - ・自分の考えをつくり、進んで表現できる子ども
 - ・友だちのことを考え、支え合える子ども
 - ・自分のめあてをもち、最後までがんばる子ども

- 子どもの実態
 - ・活動的である
 - ・仲間づくりが上手で友達が多い
 - ・実体験が乏しい
- 保護者の願い
- 教師の願い
- 地域の特性
 - ・世界遺産「三池港」

海洋教育のねらい

- 海洋と人間の関係についての国民の理解を深めるとともに、海洋環境の保全を図りつつ、国際的な理解に立った平和的かつ持続可能な海洋の開発と利用を可能とする知識、技能、思考力、判断力、表現力を有する人材の育成を目指す。この目的を達成するために、海洋教育は、海に親しみ、海を知り、海を守り、海を活用する学習を推進する。

本校の海洋教育目標

- 三池港や有明海に関心をもち、意欲的に課題を解決できる子どもを育てる。
- 活動内容に応じた追究方法やまとめ方を工夫しながら、協働して学習を進め、自分の考えを豊かに表現し、自らの生活の在り方を考える子どもを育てる。
- 国語科での学習を基に、まとめ、表現などの学習活動を取り入れ、目的や意図に応じて分かりやすく表現する力や考えを筋道立てて発表する力を高める。

- 各教科等との関連
- 各教科や道徳、特別活動での学習や体験を通して課題意識をつなぐ。
 - 総合的な学習の時間での学びを各教科等に生かす。
 - 生活科学習での活動の経験を生かす。

各学年の海洋教育の内容

3年	<p style="text-align: center;">「有明海の生き物を知ろう」</p> <p>干潟観察を通して有明海の生き物に関心をもち、資料などを基に有明海の生き物について調べ、まとめる。また、生き物の生態を生かしたゲームを考え、「うみまつり」を開く。</p>
4年	<p style="text-align: center;">「三池港の環境を守ろう」</p> <p>みなと振興室など、三池港の管理に携わる方の話から、三池港の環境について関心をもち、旧三池海水浴場などの清掃活動を通して、環境保全の大切さを学ぶ。また、清掃活動で拾った流木や貝殻などで小物をつくり、地域のバザーなどで販売し、三池港保全の費用に充ててもらう。</p>
5年	<p style="text-align: center;">「三池港ってどんな所？」</p> <p>身近にある世界遺産「三池港」への関心を深め、三池港の歴史や特徴、築港に関わった團琢磨などについて、みなと振興室の方の話やクルージング・見学を通して調べ、「三池港リーフレット」を作る。</p>
6年	<p style="text-align: center;">「有明海とともに生きる」</p> <p>有明海の漁獲量が減少しているという事実から、その現状や原因を調べるために三里漁業協同組合の漁師さんにお話を伺ったり、荒尾干潟水鳥・湿地センターに見学に行ったりし、有明海と共生するために必要なことについて考えをまとめる。</p>

- 地域との連携
- 各種教育施設や社会教育関係団体等との連携
 - 地域の教材や学習環境の積極的な活用
 - 『世界文化遺産「三池港」と有明海を学ぶ会』との連携

教材化の工夫

- 地域の教育資源の活用
 - ・地域のひと・もの・ことに進んでかかわりを持つため、校区周辺の自然や人材・行事などの学習素材を調査し整備する。
 - ・総合的な学習の時間や諸行事に協力・支援できる人材を募り整理する。
- 教材化の視点
 - ・各教科や道徳、特別活動との関連から地域のひと・もの・ことへ子どもの課題意識がつながるよう教材化する。
 - ・各教科等で得た知識や技能を総合的に発揮できるように教材化する。
 - ・人や自然とのふれあいや道徳などで培った心情をさらに深めるよう教材化する。

※『世界文化遺産「三池港」と有明海を学ぶ会』との連携をとる。

問題解決的な学習過程

- (1) 「課題をつかむ」段階
 - ・教科学習の発展として
 - ・行事などへの主体的なかかわりから
 - ・生活の中のかげつきから
 - ・様々な体験から
- (2) 「計画・追究する」段階
 - ・どこで、どのような方法で調べるか
 - ・だれに、どのようにして伝えるか
- (3) 「まとめ・表現する」段階
 - ・分かったことや感想を自分の言葉でまとめる。
 - ・まとめたことをもとに交流する。
 - ・活動をふりかえり、見直す。

※ 体験活動を適切に位置づける。

※ 言語活動の充実を図る。

指導方法・指導体制の工夫

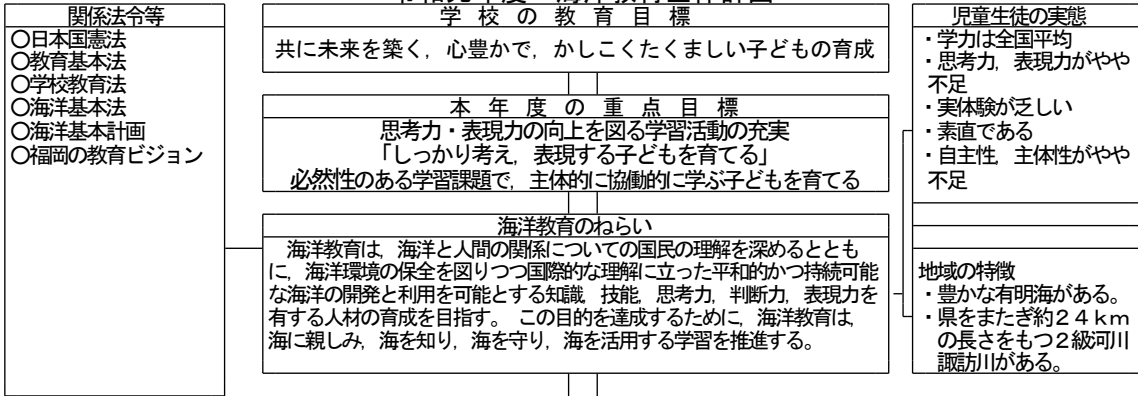
- 教師の適切な指導
 - ・児童生徒の学習状況に応じた適切な指導
- 学習形態の工夫
 - ・学級の枠を超えた学年での取組
 - ・学年の枠を超えた異学年での取組
 - ・課題別グループによる取組
 - ・表現方法別グループによる取組
- 指導体制の工夫
 - ・G Tの活用『世界文化遺産「三池港」と有明海を学ぶ会』との連携
 - ・T Tの活用(学年での連携、担任外教職員との連携)
- 学習環境の工夫
 - ・活動内容による場の設定の工夫(ランチルーム、体育館等)
 - ・調べ学習に対応できる学校図書館の資料の整備・充実化
 - ・調べ学習やまとめの学習で使用できるコンピュータソフトの整備・充実化
- 評価の工夫
 - ・自己評価、相互評価

※総合的な学習における評価方法等の工夫改善

		大牟田市立みなと小学校												
学年	令和元年度	海洋教育年間指導計画												
	単元名	関連等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3年生	有明海の生き物を 知ろう	海を知る 海に親しむ		「有明海の生き物を知ろう」 ・干潟観察会(合同) ・干潟の楽しさ		「有明海の生き物を知ろう」 ・タイラギの生態 ・フラスボの生態 ・ムツゴロウの生態 ・うみまつりをしよう								
		関連教科・学習等		社会:「わたしたちの市のようす」		社会:「まちでは、 たらくたたら」のり つくりのこと								
4年生	三池港の環境を 守ろう	海を守る 海に親しむ	総合:ゴミ・水ダイエット 作戦											
		関連教科・学習等	社会:「住みよいく らし」くらしとごみの しまつ	社会:「住みよいく らし」水はどこから	社会:「有明海の 干拓」	社会:「受け継が れる文化財」	社会:「福岡県と国 内の地域や外国との 関わり」							
5年生	三池港ってどん なところ	海を活用する 海に親しむ												
		関連教科・学習等	社会:「わたしたち のくらしと国土」旧 本は世界のどこに ある	社会:「わたしたち のくらしと国土」自 然条件と人々のくらし	社会:「工業生産を つなげる自動車 を支える人々」世界と つながる自動車	社会:「工業生産を つなげる自動車 を支える人々」世界と つながる自動車								
6年生	有明海とともに 生きる	海を活用する 海に親しむ												
		関連教科・学習等												

令和元年度 海洋教育全体計画

大牟田市立天領小学校



本年度の重点目標
<ul style="list-style-type: none"> ○ 宝の海である「有明海」や世界遺産である「三池港」に関心を持ち、課題を意欲的に解決できる子どもを育てる。 ○ 自分の問いをもち、課題について学ぶ道筋を理解しながら学習を進め、他者と対話しながら思考を深める主体的に学ぶ子どもを育てる。

各学年の海洋教育の内容	
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○有明海・見つけたよ海の生き物！ 干潟観察会や、有明海で取れる魚や消費されている魚についての調査活動を通して、干潟の楽しさを感じたり、生き物図鑑を作成したりして、有明海のよさを全校児童に伝える。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ○つながろう！つなげよう！わたしたちと諏訪川！ 諏訪川でのカヌー体験や水質検査を通して、地域の諏訪川や有明海のよさや課題などの現状を知り、価値を追求したり、自分達ができることを考えたりして、環境保全活動を行う。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ○「地域の宝を調べよう！～三池港を中心とした地域学習～」 世界遺産「三池港」や有明海の環境に関心をもち、歴史や役割を調べ、三池港のよさを見いだしたり、海洋環境を調べ、海洋環境を保全する価値を見いだしたりする活動を通して、海の活用に対する考えを深め、全校児童に発信する。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 海と人を通して見た大牟田のまち 有明海の海産物調べや水産業に関わる人との交流を通して、大牟田と海とのつながりを調べ、有明海や水産業を中心とした大牟田のまちづくりを提案し、交流する。

各教科	特別活動	道徳	総合
<p>〔国語〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海や川に関する本を読んだり、辞典を使って調べたりする力を育てる。 <p>〔算数〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長さや量などの数量的な見方の向上を図る。 <p>〔社会〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会の社会的事象の特色や相互の関連について考える力を高める。 <p>〔理科〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実体験を伴う活動を通して生物と環境のかかわりについての見方や考え方を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動で、自分の考えを適切に表現したり効果的な発表をしたりする力を養うとともに、友達の見解を正しく理解する力を養う。 ・身の回りの安全や防災について知り、自分や他の生命を尊重し、危険を予測し日常生活を安全に保つために必要な事項を理解する。 	<p>〔低学年〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生きることを喜び、生命を大切にすることを、郷土の自然に愛着をもつ。 <p>〔中学年〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にしたり、自然を大切にすることを養う。 <p>〔高学年〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重することや、自然の偉大さを知り、自然環境を守ろうとする態度を養う。 <p>〔共通〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの住む郷土を愛する心を養う。 	<p>〔学習方法に関して〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題解決に必要な情報を収集、整理し・分析する力を高める。 <p>〔自分自身に関すること〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探求活動の課程でじっくり考え、判断したり、表現したりする力を養う。 <p>〔他者や社会との関わりに関すること〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達等と共同して課題を解決しようとする力を高めたり、学校や地域の活動に進んで参加しようとする態度を養う。 <p>〔自己の生き方〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有明海に愛着をもち、海の生物を大切にしたり、自然環境を守っていかうと考えたりする。

地域・家庭との連携
<p>地域・家庭へ海洋教育への理解を図り、学習活動への協力を依頼したり、見てもらったりして、海洋教育への理解を深める。</p>

他校との連携
<p>天領小学校を拠点として、天の原小学校、みなど小学校の担当教師を中心に3校で会議をし、活動を計画・実施していく。</p>

令和元年度		海洋教育年間指導計画											
学年	単元名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3年生	有明海・見つけた海の生き物！	海に親しむ 海を知る	天領祭りを開こう！ ・干潟見学事前学習 干潟観察会 (合同) みなと小学校との交流学習	有明海の生き物を知ろう ・ムツゴロウなどの珍しい生き物の生態 ・ハゼやベッコウガイなどの身近な生き物の生態 ・生物と環境の関連	有明海の生き物を知ろう ・ムツゴロウなどの珍しい生き物の生態 ・ハゼやベッコウガイなどの身近な生き物の生態 ・生物と環境の関連	天領小海祭りをしよう ・生き物図鑑 ・有明海の生き物でつりゲーム							
		関連教科・学習等	社会「わたしたちのまちのようす」	社会「わたしたちの市のようす」	社会「わたしたちのまちのようす」	社会「地域の賑わい」	社会「地域の賑わい」	社会「地域の賑わい」	社会「地域の賑わい」	社会「地域の賑わい」	社会「地域の賑わい」	社会「地域の賑わい」	社会「地域の賑わい」
4年生	つながろう！ つながげよう！ 私たちと諏訪川と有明海	海を守る 海に親しむ	つながろう！私たちと諏訪川と有明海！ ・カヌー体験 ・生き物・植物教室	私たちが私たちに ・諏訪川の上流から下流までの水質検査 ・生き物観察 ・生活排水がどれくらい川の環境に影響を与えるのか実験	私たちが私たちに ・諏訪川の上流から下流までの水質検査 ・生き物観察 ・生活排水がどれくらい川の環境に影響を与えるのか実験	つながろう！私たちが私たちに ・諏訪川と有明海！ ・ポスター作り ・お手紙作り ・環境保全を呼びかける「川の日」イベント	つながろう！私たちが私たちに ・諏訪川と有明海！ ・ポスター作り ・お手紙作り ・環境保全を呼びかける「川の日」イベント	つながろう！私たちが私たちに ・諏訪川と有明海！ ・ポスター作り ・お手紙作り ・環境保全を呼びかける「川の日」イベント	つながろう！私たちが私たちに ・諏訪川と有明海！ ・ポスター作り ・お手紙作り ・環境保全を呼びかける「川の日」イベント	つながろう！私たちが私たちに ・諏訪川と有明海！ ・ポスター作り ・お手紙作り ・環境保全を呼びかける「川の日」イベント	つながろう！私たちが私たちに ・諏訪川と有明海！ ・ポスター作り ・お手紙作り ・環境保全を呼びかける「川の日」イベント	つながろう！私たちが私たちに ・諏訪川と有明海！ ・ポスター作り ・お手紙作り ・環境保全を呼びかける「川の日」イベント	つながろう！私たちが私たちに ・諏訪川と有明海！ ・ポスター作り ・お手紙作り ・環境保全を呼びかける「川の日」イベント
		関連教科・学習等	社会「住みよいく（く）しとごみのしまつ（ら）し」水はどこから	社会「住みよいく（く）しとごみのしまつ（ら）し」水はどこから	社会「住みよいく（く）しとごみのしまつ（ら）し」水はどこから	道徳「ふれあいの森」	道徳「ふれあいの森」	道徳「ふれあいの森」	道徳「ふれあいの森」	道徳「ふれあいの森」	道徳「ふれあいの森」	道徳「ふれあいの森」	道徳「ふれあいの森」
5年生	地域の宝を調べよう！～三池港を中心とした地域学習～	海を知る 海を利用する	私たちが三池港や有明海についてどれくらい知っているの？ ・三池港出前講座 ・船上からの海洋ゴミ観察	三池港の歴史や役割を知ろう ・三池港出前講座 ・船上からの海洋ゴミ観察 ・有明海や海の環境を知ろう ・ゴミ拾いと分類分け	三池港の歴史や役割を知ろう ・三池港出前講座 ・船上からの海洋ゴミ観察 ・有明海や海の環境を知ろう ・ゴミ拾いと分類分け	三池港の歴史や役割を知ろう ・三池港出前講座 ・船上からの海洋ゴミ観察 ・有明海や海の環境を知ろう ・ゴミ拾いと分類分け	三池港の歴史や役割を知ろう ・三池港出前講座 ・船上からの海洋ゴミ観察 ・有明海や海の環境を知ろう ・ゴミ拾いと分類分け	三池港の歴史や役割を知ろう ・三池港出前講座 ・船上からの海洋ゴミ観察 ・有明海や海の環境を知ろう ・ゴミ拾いと分類分け	三池港の歴史や役割を知ろう ・三池港出前講座 ・船上からの海洋ゴミ観察 ・有明海や海の環境を知ろう ・ゴミ拾いと分類分け	三池港の歴史や役割を知ろう ・三池港出前講座 ・船上からの海洋ゴミ観察 ・有明海や海の環境を知ろう ・ゴミ拾いと分類分け	三池港の歴史や役割を知ろう ・三池港出前講座 ・船上からの海洋ゴミ観察 ・有明海や海の環境を知ろう ・ゴミ拾いと分類分け	三池港の歴史や役割を知ろう ・三池港出前講座 ・船上からの海洋ゴミ観察 ・有明海や海の環境を知ろう ・ゴミ拾いと分類分け	三池港の歴史や役割を知ろう ・三池港出前講座 ・船上からの海洋ゴミ観察 ・有明海や海の環境を知ろう ・ゴミ拾いと分類分け
		関連教科・学習等	社会「住みよいく（く）しとごみのしまつ（ら）し」水はどこから	社会「住みよいく（く）しとごみのしまつ（ら）し」水はどこから	社会「住みよいく（く）しとごみのしまつ（ら）し」水はどこから	社会「世界とつながる日本の工業」	社会「世界とつながる日本の工業」	社会「世界とつながる日本の工業」	社会「世界とつながる日本の工業」	社会「世界とつながる日本の工業」	社会「世界とつながる日本の工業」	社会「世界とつながる日本の工業」	社会「世界とつながる日本の工業」
6年生	海と人を通して見えた大牟田のまち	海を利用する 海を守る	大牟田ではたらく人の思いをもったの？ ・近代化遺産見学 ・市長出前講座 ・三池港見学	大牟田ではたらく人の思いをもったの？ ・近代化遺産見学 ・市長出前講座 ・三池港見学	大牟田ではたらく人の思いをもったの？ ・近代化遺産見学 ・市長出前講座 ・三池港見学	大牟田ではたらく人の思いをもったの？ ・近代化遺産見学 ・市長出前講座 ・三池港見学	大牟田ではたらく人の思いをもったの？ ・近代化遺産見学 ・市長出前講座 ・三池港見学	大牟田ではたらく人の思いをもったの？ ・近代化遺産見学 ・市長出前講座 ・三池港見学	大牟田ではたらく人の思いをもったの？ ・近代化遺産見学 ・市長出前講座 ・三池港見学	大牟田ではたらく人の思いをもったの？ ・近代化遺産見学 ・市長出前講座 ・三池港見学	大牟田ではたらく人の思いをもったの？ ・近代化遺産見学 ・市長出前講座 ・三池港見学	大牟田ではたらく人の思いをもったの？ ・近代化遺産見学 ・市長出前講座 ・三池港見学	大牟田ではたらく人の思いをもったの？ ・近代化遺産見学 ・市長出前講座 ・三池港見学
		関連教科・学習等	社会「新しい時代の幕開け近代国家に向けて」	社会「わたしたちのまちのようす」	社会「わたしたちのまちのようす」	社会「わたしたちのまちのようす」	社会「わたしたちのまちのようす」	社会「わたしたちのまちのようす」	社会「わたしたちのまちのようす」	社会「わたしたちのまちのようす」	社会「わたしたちのまちのようす」	社会「わたしたちのまちのようす」	社会「わたしたちのまちのようす」

- 日本国憲法
- 教育基本法
- 学校教育法
- 海洋基本法
- 海洋基本計画
- 福岡の教育ビジョン

学校の教育目標

志を持って、自ら学び、心身を鍛え、人間性豊かな子どもの育成

- 学び方が身に付いた子ども
- 自己の思いや考えが表現できる子ども
- 思いやりの心を持ち、やさしく助け合う子ども
- 心身ともに健康で自信をもった子ども

本年度の重点目標

交流し、問題をよりよく解決する子どもの育成

- 課題解決の考えを持ち、表現できる子ども
- 学び方が身に付いた子ども

- 子どもの実態
- ・活動的である
- ・仲間づくりが上手で友達が多い
- ・実体験が乏しい
- 保護者の願い
- 教師の願い
- 地域の特性
- ・野間川的环境

海洋教育のねらい

海洋と人間の関係についての国民の理解を深めるとともに、海洋環境の保全を図りつつ国際的な理解に立った平和的かつ持続可能な海洋の開発と利用を可能とする知識、技能、思考力、判断力、表現力を有する人材の育成を目指すために、「海に親しみ、海を知り、海を守り、海を活用する」学習を通じ、海との共生を図るための資質・能力を育む。

本校の海洋教育目標

森・川・海をつなぐ海洋教育

「森・川・海」とのつながりに関心を持ち、海的环境保全という視点で協同的な学習を進め、海と自分の生活との関わり方を考えることができる子どもを育てる。

- 各教科等との関連
- 「海と共生」する資質・能力の育成の観点から
- 各教科・領域、道徳、特別活動の指導内容と関連させ、横断的な指導を行う。
 - E S Dの視点から、「学びの過程」や「学習成果」を家庭、地域に発信する。
 - 体験活動を重視した、学び方の育成を図る。

各学年海洋教育の時間の内容

3年	【川・海に親しむ】 ・海辺の生物とふれ合おう ・のりづくりをしよう
4年	【川・海を知る】 ・大牟田の文化遺産について調べよう ・三池港を調べよう(三池港クルージング) ・クルージング体験をしよう ・有明海清掃活動に参加しよう
5年	【川・海を守る】 ・野間川環境調査隊 ・森・川・海の繋がりを考えよう(海を守るための植林)
6年	【川・海を守る、活用する】 ・世界遺産見学 ・大牟田の環境問題について考えよう(有明海汽水域の生物調査) ・3校交流会 ・テレビ会議 ・合同サミット

- 地域との連携
- 他の学校との連携
 - ※市内モデル校3校での共同学習
 - 各種教育施設や社会教育関係団体等との連携
 - 地域の教材や学習環境の積極的な活用
 - 大牟田市役所環境企画課との連携

教材化の工夫

- 地域の教育資源の活用
 - ・地域のひと・もの・ことに進んでかかわりを持つため、校区や地域周辺の自然や人材・行事などの学習素材を調査し整備する。
 - ・総合的な学習の時間や諸行事に協力・支援できる人材を募り整理する。
- 教材化の視点
 - ・各教科や道徳、特別活動との関連から地域のひと・もの・ことへ子どもの課題意識がつながるよう教材化する。
 - ・各教科等で得た知識や技能を総合的に発揮できるように教材化する
 - ・人や自然とのふれあいや道徳などで培った心情をさらに深めるよう教材化する。

問題解決的な学習における学習過程

- (1)「課題をつかむ」段階
 - ・教科学習の発展として
 - ・行事などへの主体的なかかわりから
 - ・生活の中の気づきから
 - ・様々な体験から
- (2)「計画・追究する」段階
 - ・どこで、どのような方法で調べるか
 - ・だれに、どのようにして伝えるか
- (3)「まとめ・表現する」段階
 - ・分かったことや感想を自分の言葉でまとめる。
 - ・まとめたことをもとに交流する。
 - ・活動をふりかえり、見直す。

※ 体験活動を適切に位置づける。

※ 言語活動の充実を図る。

指導方法・指導体制の工夫

- 教師の適切な指導
 - ・児童生徒の学習状況に応じた適切な指導
- 学習形態の工夫
 - ・学年の枠を超えた異学年での取組
 - ・課題別グループによる取組
 - ・表現方法別グループによる取組
- 指導体制の工夫
 - ・G Tの活用
 - ・T Tの活用(学年での連携、担任外教職員との連携)
- 学習環境の工夫
 - ・活動内容による場の設定の工夫
 - ・調べ学習に対応できる学校図書館の資料の整備・充実
 - ・調べ学習やまとめの学習で使用できるICTの整備・充実(TV会議)
- 評価の工夫
 - ・自己評価、相互評価

※ 総合的な学習における評価方法等の工夫改善のための参考資料

		令和元年度 海洋教育年間指導計画										大牟田市天の原小学校		
学年	関連等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
3年生	海や川に 親しむ	海洋	海辺の生物とふれあおう(5) 豊かな自然(海)	川の生物を 飼ってみよう(5) 豊かな自然(川)										
	関連教科・ 学習等	※国語、社会、理科	※社会	※理科							※社会	※国語		
4年生	海や川の (現状を) 知る	海洋	有明海 清掃活動(6) 海辺の環境を知る	三池港 調べ(6) ◆クルージング	※大牟田の文化遺産調べ									
	関連教科・ 学習等	※社会、理科	※国語、理科	※社会	※社会、理科	※社会、理科	※社会、理科	※社会、理科	※社会	※社会	※社会、理科	※理科		
5年生	川・海を 守る	海洋	野間川環境調査隊(13) ※川の上流・下流域の環境 共同学習(天箱小)	森・川・海のつながりを考えよう (海を守るための植林)(6)	山・川の環境保全が海の 環境保全につながる									
	関連教科・ 学習等	※国語、社会	※社会	※理科	※社会、理科	※理科	※理科	※理科	※国語、理科	※社会				
6年生	海を 守る	海洋	世界の環境問題について調べよう(10) 地球温暖化による海洋環境の変化 【海洋教育学習交流会】	大牟田市の環境問題について調べよう (有明海汽水域の生物を観察)	生態系に及ぼす影響と防止 【海洋教育こどもサミット】									
	関連教科・ 学習等	※国語	※理科	※理科	※国語、理科	※国語、理科	※国語、理科	※理科	※国語、理科	※理科	※理科	※社会	※社会、理科	

3年「有明海の生き物を知ろう！」ストーリーマップ

○めざす子どもの姿

干潟観察会や、有明海でとれる魚や地域で消費されている魚についての調査活動を通して、干潟の楽しさを感じたり、有明海の生き物についての新聞を作成したりする。また、干潟や生き物の特徴をいかしたゲームを考え、「うみまつり」を開催することができるようにする。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	課題設定											
	課題追究											
	行動・発信・振り返り											
総合的な学習の時間	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>干潟の様子を調べよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 干潟観察会に参加し、干潟で遊ぶ楽しさを感じたり、有明海に生息する生き物についての関心をもったりする。 ・干潟で遊ぶのは楽しいな。 ・干潟は深いところと浅いところがあるな。 ・ほかにどんな生き物が棲んでいるのかな？ ・どんな種類の貝や魚がとれるのかな。 <p style="text-align: right;">配時④</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>干潟の生き物を調べよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 有明海の干潟に棲む生き物や、それぞれのなど形態・生態の特徴について調べる。 ・ゲストティーチャーに教えてもらおう。 ・図書室の本や図鑑で調べてみよう。 ・家の人や魚屋さんに聞いてみよう。 ・インターネットで調べてみよう。 <p style="text-align: right;">配時⑥</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>「うみまつり」の準備をしよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 有明海の生き物について調べたことを新聞にまとめる。 ○ 干潟や、調べた生き物の特徴をいかしたゲームを企画する。 ・魚つりクイズ 的当て ○×クイズ等 ・有明海の生き物新聞を発表しよう。 ・グループごとに準備をしよう。 <p style="text-align: right;">配時⑨</p> </div> </div>											
教科等との関連	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>社会「わたしたちのまちのようす」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 校区を探索し、校区にはどんなものがあるのかを調べ、校区について知る。 ○ 校区の中には近代化遺産である三池港がある事を知る。 <p style="text-align: right;">【関連：A-②、B-①】</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>社会「わたしたちの市のようす」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大牟田市の形や大きさ、海に近い所や山に近い所などについて調べ、大牟田市の特徴を知る。 <p style="text-align: right;">【関連：A-①】</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>社会「のり作り」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大牟田市でさかんな海苔作りについて、どのようにしてさかんになったかやのり作りの工程、よいのりを作る工夫などについて調べ、のり作りにかかわる人々の思いや努力を知る。 <p style="text-align: right;">【関連：A-①】</p> </div> </div>											
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>社会「わたしたちの地域の年中行事」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大牟田市に残る年中行事について調べ、みなど小学校校区でおこなっている「港まつり」について知る。 <p style="text-align: right;">【関連：A-②、B-③】</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>教科等関連の視点の表記</p> <p>内容の関連→A 方法の関連→B ・強化する→① ・付加する→② ・補充する→③ 例) 内容の補充 ↓ 【関連：A-①</p> </div> </div>											

課題設定

課題追究

行動・発信



- 干潟の様子を観察
- 干潟の生き物を観察



干潟の面白さや楽しさ、干潟にすむ生き物を発見したよ。もっとくわしく調べてみよう。



- 干潟にすむ生き物について調査
- 調べたことをもとにうみまつりの計画



干潟にすむ生き物についてくわしく教えてもらったよ。うみまつりの準備をしよう。



- 天領小学校と合同でうみまつりの開催
- まとめたことの発表、ゲームの運営



海の生き物の特徴を生かしたゲームをつくって、みんなに楽しんでもらったよ。



《海を知る》
3年 単元名「有明海の生き物を知ろう」(22時間)

1 単元の目標

干潟観察会や有明海で採れる魚の調査を通して、干潟の楽しさを感じたり、様々な生物が海で生活していることに気付いたりする。また、調べたことを基に有明海の生き物図鑑を作成したり、干潟の生き物の特徴を生かしたゲームを考え、「うみまつり」を開催したりすることができるようにする。

《知識・技能》

干潟観察を通して考えた課題に応じて、有明海にすむ生き物の種類や生態について調べ、様々な生物が様々な生態で有明海に生きていることを理解する。

《思考力・判断力・表現力等》

生き物について調べたことを基に、生き物にはそれぞれの種に応じた多様な生態があることを考え、お互いの生態に応じた環境の中でしか生きられないことを捉えて、発表物に表現する。

《学びに向かう力・人間性等》

有明海にすむ様々な生態の生き物に関心を持ち、同じグループの友だちと協働しながら調べ、人間も含め、多様な生態があることを基に、それぞれの生物の生活や命を尊重する。

2 単元の指導計画

配時	学 習 活 動	☆外部連携 ※指導上の留意点
4 時 間	<p>干潟の楽しさを体験したり、生き物を調べたりしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 干潟観察会に参加し、干潟で遊ぶ楽しさを感じたり、有明海に生息する生き物について関心をもったりする。(4) ・干潟で遊ぶのは楽しいな。 ・どんな生き物がすんでいるのかな。 ・干潟は深いところと浅いところがあるな。 ・どんな種類の貝や魚がとれるのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 社会科で校区を探検し、校区には世界遺産である三池港があることを知らせておく。 ※ 三池海水浴場までの移動手段(バスの手配)を確保しておく。 ☆ 「世界文化遺産「三池港」と有明海を学ぶ会」の方々に干潟で生き物の説明をしていただく。
14 時 間	<p>干潟の生き物を調べよう。 </p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 有明海の干潟にすむ生き物やそれぞれの形態・生態の特徴について調べる。(6) ・GTに教えてもらおう。 ・図書室の本や図鑑、インターネットで調べよう。 ・家の人や魚屋さんに聞いてみよう。 <p>うみまつりの準備をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生き物について調べたことをカードにまとめ、有明海の生き物カードを作成する。(8) ○ 生き物の特徴を生かしたゲームを企画する。 本時 12・13/22 ・魚つきクイズ・的当て ・○×クイズ・新聞の説明 ・のり体験等 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 「世界文化遺産「三池港」と有明海を学ぶ会」の方々に生き物の生態について説明していただく。 ※ 社会科において、大牟田市でさかんな海苔作りについて学習し、海苔作りの工程、仕事をする人の思いや努力を知らせておく。
3 時 間	<p>うみまつりを開催しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 天領小学校の児童と一緒にうみまつりを開催する。(2) <p>学習を振り返ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の振り返りを行い、学習の価値を実感する(1) ・魚つきクイズが気だったから、頑張って調べたりクイズを考えたりして良かった。 ・生き物カードを読んでもくれる人がいて嬉しかった。 ・いろいろな生き物について知ることが出来て、有明海の生き物が好きになった。もっと調べてみたいな。 ・GTへお礼のお手紙を書こう。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 天領小と日程を調整する。 ☆ 「世界文化遺産「三池港」と有明海を学ぶ会」の方々に感謝の手紙を書かせる。

《海を知る》
3年 単元名「有明海の生き物を知ろう！」(12・13 / 22時間)

3 本時の目標

荒尾干潟観察で分かったことや調べたことを基に、有明海の生き物について知らせる「うみまつり」の内容や準備について話し合い、これからの具体的な取り組みについて見通しがもてるようにする。

4 本時の指導計画

配時	学 習 活 動	☆外部連携 ※指導上の留意点
20分	<p>荒尾干潟観察会で分かったことをまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 荒尾干潟観察会で見つけた生き物について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・有明海にはいろいろな種類のカニがいる。 ・ムツゴロウに似たトビハゼがいるよ。 ・小さなヤドカリがたくさんいたよ。 ・テッポウエビのはさみは大きかった。 	<p>※ 荒尾干潟には、生き物がたくさんいることに目を向けさせ、観察した生き物に興味をもたせるようにする。</p>
60分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>有明海の生き物について知らせるための「うみまつり」の計画を立てよう。</p> </div> <p>「うみまつり」の内容を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 有明海の生き物について知らせるために、できそうなことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・観察して分かったことを新聞にまとめよう。 ・生き物について知ってもらうために、有明海にいる生き物の魚釣りクイズをしよう。 ・有明海の生物を的的に描いて、的当てをしよう。 ・有明海の生物に関する○×クイズをしよう。 ○ まつりの内容を決定し、グループごとに準備する。 <ul style="list-style-type: none"> ・干潟の生き物についてのまとめカードを生かして、新聞を作ろう。 ・有明海の生物を画用紙で作り、裏にクイズを書いて解いてもらおう。 ・サッカーゴールに12枚の的を作り、有明海の生物を描いてみよう。 ・有明海の生物について調べ、みんなが参加できるクイズを作ろう。 	<p>※ 課題解決に必要な条件を提示し、自分たちにできる内容を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有明海の生き物について伝えられるか。 ・参加者全員が楽しめるか。 ・祭りまでに準備できるか。 <p>☆ 実施可能かどうか児童で判断が難しい内容については教師からアドバイスする。</p>
10分	<p>学習を振り返ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習を振り返り、今後の取り組みへの意欲をもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・クイズやゲームを通して、有明海の生き物について知ってもらえるといいな。 ・天領小のみんなが楽しめるような祭りをしたいな。 	<p>※ 本時学習で今後の見通しがもてたことを確認し、「うみまつり」実施への意欲を高めるようにする。</p>

【他教科等との関連項目】

社会科「わたしたちのまちのようす」(4月～6月)

- 校区を探検し、校区にはどんなものがあるかを調べ、校区について知る。
- 校区の中には、近代化遺産である三池港があることを知る。

社会科「わたしたちの市のようす」(7月～9月)

- 大牟田市の形や大きさ、海に近い所や山に近い所などについて調べ、大牟田市の特徴を知る。

社会科「のり作り」(10月～12月)

- 大牟田市でさかんな海苔作りについて、さかんになった理由や海苔作りの行程、よいのりを作る工夫などについて調べる。
- 海苔作りにかかわる人々の思いや願い、努力を知る。

社会科「地域に残る年中行事」(1月～2月)

- 大牟田市に残る年中行事について調べ、みなと小学校校区で行っている「港まつり」について知る。

4年 「三池港・有明海の環境を守ろう！」 ストリーマッピング

○ めざす子どもの姿

身近にある世界近代化遺産である三池港の景観や環境に関心をもち、旧三池海水浴場などの清掃活動や、清掃で拾った廃材や流木・貝殻を使用した小物の制作を通して環境保全の大切さを実感し、三池港や有明海に対する愛着を深めることができる。

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

課題設定

三池港や有明海の環境を守るために、自分たちには何ができるだろう？

- 社会科の学習や1学期の総合「ゴミ・水ダイエット作戦」での学習を振り返り、三池港のゴミや三池港周辺の水質について考える。
 - ・釣り糸や針がありそうだ。
 - ・お菓子の袋や缶などもありそうだ。
 - ・三池港の水は、テレビでみる他の海よりも汚そうだ。
- GT(みなと振興室の方)のお話を聞き、三池港・有明海の環境保全について関心をもち、環境保全のために自分たちに出来ることを考える。
 - ・自分たちでゴミ拾いをしよう。
 - ・捨てないように呼びかけられるポスターをかこう。
 - ・拾ったゴミを使って何か作れないかな。

配時①

配時②

課題追究

三池港の清掃活動・ごみ調査をしよう！

- 三池港広場・旧三池海水浴場の清掃活動を行い、ゴミの調査をし、まとめる。
- 三池港でのゴミの削減を呼びかけるポスターを作成する。

配時⑦

集めた廃材や貝殻などで小物を作ろう！

- 貝殻や流木などを使ってどんな物が作れるか調べ、小物を作成する。
 - ・図書室のワークコーナーで調べよう。
 - ・インターネットで調べよう。
 - ・GTの方に教えてもらおう。

配時⑥

行動・発信・振り返り

三池港の環境保全を呼びかけよう！

- 作成したポスターを校内や大牟田市役所、地区公民館に掲示してもらおう。

時間外

学習を振り返ろう！

- 学習の振り返りを行い、自分たちの学習の価値を実感する。
 - ・三池港がきれいになって、小物作りが三池港の役に立って嬉しかった。
 - ・ポスターを多くの人に見てもらい、ゴミのない三池港にしていきたいと思った。

配時①

【1学期】

《総合》 「ゴミ・水ダイエット作戦」

- ゴミの上手な減らし方や水の上手な使い方などに関心をもち、新聞やポスターをつくりを通して、環境保全や水資源の保全を呼びかけ、自分の生活を見直したり、これからの生活を考えたりする。

【関連：A-②、B-①】

【1学期】

《社会》 「住みよいくらし」

- 生活ごみの処理のされ方やごみ減量のための地域・自治体の取組を調べ、自分たちができることを考える。
- 水道の送水や使用・処理のされ方、ダムや森林の役割を調べ、水を大切にするために自分たちにできることを考える。

【関連：A-①】

【2学期】

《社会》 「有明海の干拓」

- 有明海の干拓がなぜ行われてきたか、どのようなすめられたのかを調べ、有明海沿岸地域で暮らす人々の生活や思いについて考える。

【関連：A-②】

【2学期】

《社会》 「受け継がれる文化財」

- 大牟田の石炭産業関連の3施設が、なぜ世界文化遺産に選ばれ、今も残されているのかを調べ、地域の人々の生活を支える、地域の発展の礎になった文化財の歴史的な意味と文化遺産を保存する人々の働きと願いについて考える。

【関連：A-②】

【3学期】

《社会》 「福岡県と国内の地域や外国との関わり」

- 三池港など海上交通による福岡県と国内他地域や外国とのつながりについて調べ、自分たちの住む地域と外国との結びつきについて考える。

【関連：A-①】

教科等との関連
 内容の関連
 方法の関連
 強化する
 付加する
 補完する
 内容の補完
 例) 内容の補完
 【関連：A-①】

課題設定

課題追究

行動・発信



- 海の環境問題、環境保全の大切さの理解
- ゴミの分別方法への理解



- 元三池海水浴場のゴミ調査
- ゴミの量と種類の調査、原因の追究



- ポイ捨て禁止を呼びかけるポスター作成
- 海で拾った貝殻を使った小物づくり



海にはゴミの問題があることが分かったよ。ゴミをきちんと処理することは大切なことだ。



実際に、海にはたくさんのごみがあったよ。中でも水に浮かぶ浮遊ごみが多いみたいだ。



ゴミのポイ捨て禁止を呼びかけるポスターや、貝殻を使った小物を作って掲示したよ。



《海を守る》

4年 単元名「三池港・有明海の環境を守ろう」(17時間)

1 単元の目標

身近にある世界近代遺産である三池港の景観や環境に関心をもち、元三池海水浴場の清掃活動や、清掃で拾った廃材や流木・貝殻を使用した小物の制作・展示を通した三池港保全への協力呼びかけを通し、環境保全の大切さを実感し、三池港に対する愛着を深めることができるようにする。

《知識・技能》

元三池海水浴場のごみの量や種類を調べ、ごみは川や海を流れ着いているものであることから、自分だけでなく海域や流域周辺の人たちと協力してごみを無くさなければならないことを理解する。



《思考力・判断力・表現力等》

海のごみの種類からごみの出所について考え、浮遊ごみの多さから流れ着いているものであることを判断し、海域や流域周辺に訴えるために相応しい方法を考えて作成したり呼びかけたりする。

《学びに向かう力・人間性等》

多様な生態をもつ有明海がごみによって崩されていることに関心をもち、友だちと協働しながら原因を調べ、有明海を守るために地域の一員として自分にできることを考えて行動する。

2 単元の指導計画

配時	学 習 活 動	☆外部連携 ※指導上の留意点
3時間	<p>三池港・有明海の環境を守るために、自分たちには何ができるだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 社会科や総合「ゴミ・水ダイエット作戦」の学習を振り返り、三池港・三池港周辺のゴミや水質について考える。(1) <ul style="list-style-type: none"> ・釣り糸や針がありそうだ。 ・お菓子の袋や缶などもありそうだ。 ○ G.Tの話聞き、三池港の環境保全に関心をもち、環境保全のために自分たちに出来ることを考える。(2) <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちでゴミ拾いをしよう。 ・ゴミを捨てないよう呼びかけるポスターをかこう。 ・拾ったゴミを使って何か作れないかな。 	<p>※ 社会科や総合的な学習の時間で学習した地域の環境に関する学習を想起させ、身近にある三池港や有明海の環境に目を向けさせる。</p> <p>☆ 「大牟田市みなと振興室」へ協力依頼し、三池港の環境保全のための取組について話してもらう。</p>
13時間	<p>三池港・有明海の清掃活動・ごみ調査をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 三池港「あいあい広場」や三池海水浴場の清掃活動とゴミの調査を行い、調査して分かったことをまとめ、自分たちにできることを考える。(3) 	<p>※ 三池港までの移動手段(バスの手配)を確保しておく。</p> <p>※ ゴミを分別して集めるためのビニール袋、安全のための軍手等の準備を事前に行う。</p> <p>☆ 「世界文化遺産「三池港」と有明海を学ぶ会」の方々に海岸漂着物を使った小物作りについてアドバイスしてもらう。</p>
1時間	<p>三池港・有明海の環境保全の協力を呼びかけよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ユネスコスクール集会や学習発表会で、作成した小物を展示し、環境保全の協力を呼びかける。(時間外)  ○ 作成したポスターを校内や大牟田市役所、三川地区公民館に掲示してもらう。(時間外) <p>学習を振り返ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の振り返りを行い、学習の価値を実感する。(1) <ul style="list-style-type: none"> ・ポスターを多くの人に見てもらい、ゴミのない三池港・有明海にしていきたいと思った。 	<p>※ 保護者や地域の方が参加する集会や発表会で自分たちが作った小物を展示するとともに、掲示したポスターをもとに環境保全への協力呼びかけを行わせる。</p> <p>☆ 大牟田市役所や三川地区公民館へポスター掲示についての許可申請と広報依頼をしておく。</p>

《海を守る》
4年 単元名「三池港・有明海の環境を守ろう」(6/17時間)

3 本時の目標

三池海水浴場の清掃活動でのゴミの調査で分かったことをもとに、有明海や三池港の環境をよりよいものにしていくために、自分たちがこれからできることについて考え、環境保全の具体的な取組方法について見通しがもてるようにする。

4 本時の指導計画

配時	学 習 活 動	☆外部連携 ※指導上の留意点
10分	<p>三池港・有明海のゴミ調査で分かったことをまとめよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までのゴミ調査の結果について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・海岸には、ペットボトルやビニール袋が落ちていた。 ・海岸に流されてきたゴミが多い。 ○ 海岸や港にゴミがたくさんある原因について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルや空き缶など海岸で捨てる人が多いから。 ・川から流れてきたゴミが海岸に流れ着いたから。 	<p>※ 荒尾干潟には、生き物がたくさんいることに目を向けさせ、観察した生き物に興味をもたせるようにする。</p>
30分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>三池港や有明海の環境を守るために、自分たちが取り組める活動について考え、計画を立てよう。</p> </div> <p>「三池港・有明海環境保全隊」の活動計画を立てよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 三池港や有明海の環境保全のために自分たちにできそうなことについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが、海や川にゴミを捨てない。 ・地域の人達にゴミをすてないように呼びかける。 ・海岸で拾ったゴミや漂着物を再利用して、きれいな海をイメージした小物作りをする。 ○ これからの取組活動について話し合い、計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちは絶対ゴミを外に捨てないようにする。 ・環境保全のポスターを作って、三川地区公民館や三池港海水浴場、市役所などに掲示させてもらう。 ・拾った貝殻や流木などを使って楽しい小物を作り、学習発表会やユネスコスクール集会のときにポスターと一緒に展示し、環境保全を呼びかける。 	<p>※ 課題解決に必要な条件を提示し、自分たちにできる内容を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有明海の生き物について伝えられるか。 ・参加者全員が楽しめるか。 ・祭りまでに準備できるか。 <p>☆ 実施可能かどうか児童で判断が難しい内容については教師からアドバイスする。</p>
5分	<p>学習を振り返ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の振り返りを行い、今後の取組への意欲をもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・小物販売が三池港・有明海の環境保全の役に立ったら嬉しいな。 ・ポスターを多くの人に見てもらい、ゴミのない三池港にしていきたい。 	<p>※ 本時学習で今後の見通しがもてたことを確認し、「うみまつり」実施への意欲を高めるようにする。</p>

【他教科等との関連項目】

社会科「住みよいくらし」(1)くらしとごみのしまつ(4月)

- 暮らしの中で出るごみはどのように処理されるのかを調べる。
- ごみを減らすために、地域や自治体で行っていることを調べ、自分たちには何が出来るかを考える。

社会科「住みよいくらし」(2)水はどこから(5月)

- 水はどこから送られてくるか・どのように使用・処理されているのか・ダムや森林はどんな役割を担っているか調べる。
- 水を大切に使うために、自分たちには何が出来るかを考える。

総合的な学習の時間「ゴミ・水ダイエット作戦」(4~6月)

- ゴミの上手な減らし方や水の上手な使い方、リサイクルなどに関心もち、資料やGTの話しをまとめた新聞やポスターを作成することを通し、環境保全や水資源の保全を呼びかけ、自分の生活を見直したり、これからの生活を考えたりする。

5年 「三池港ってどんなところ？」ストーリーマップ

めざす子どもの姿

身近にある世界文化遺産である三池港について関心をもち、三池港の歴史や担っている役割を調べたり、三池港のよさを見いだしたりすることで三池港への愛着を深め、大牟田の人たちに三池港をもっと好きになってもらえるような三池港紹介パンフレットを作成し、発信することができる。

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

課題設定

大牟田の人たちは、三池港についてどのように思っているのだろうか？

- 保護者にアンケートをとったり、みなと振興室の方の話を聞いたりすることで、自分たちと大牟田市民のイメージの違いを知る。
 - ・大牟田の好きなものランキングで3位には入りそう。
 - ・多くの人が遊びに行ったことがあると思うな。
 - ・三池港のランキングってそんなに低いのか…。
- 大牟田の人に、もっと三池港を好きになってもらうために何ができているかを考えよう。
 - ・三池港のすごさを知ってもらおう。
 - ・景色だっけきれいだよ。
 - ・パンフレットを作って地域に配ろう。

配時①

【1学期】

社会「自然条件と人々の暮らし」

【関連：A-① B-①】

- 暖かい地方や寒い地方、高地や低地に暮らす人々の暮らしについて調べ、国土の自然環境に適応し、それを生かしながら生活していることを知る。

教科等との関連

課題追究

三池港の歴史や役割を知ろう！

- みなと振興室の方に来てもらい、三池港の歴史や園琢磨についてのお話を聞く。配時③
- 三池港に見学やクルージングに行き、実際のものを見ながら説明を受けることで、理解を深める。配時④

三池港の魅力を見つけよう！

- 景色のよさ、釣り場、夜景など、世界遺産に関わるものとは違う魅力を見いだす。配時③
- ・みなと振興室の人にきいてみよう。
- ・お家の人に聞いてみよう。

三池港を紹介するパンフレットを作ろう！

- 調べたことをもとにテーマを決め、三池港紹介パンフレットを作る。配時⑤

【2学期】

社会「世界とつながる日本の工業」

【関連：A-①】

- 日本の自動車の世界とどのように広がっていくのかを調べ、工業生産に従事している人びとの工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸などの働きを知り、それらが国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考える。

行動・発信・振り返り

お家の方や地域の方を招待して、発表会をしよう！

- 三池港紹介パンフレットをもとに、自分たちが見いだした三池港の魅力を保険者や地域の方に伝える。配時②

学習を振り返ろう！

- 学習の振り返りを行い、自分たちの学習の価値を実感する。
 - ・三池港についてくわしく知れて、もっと好きになった。
 - ・パンフレットを多くの人に読んでもらって、三池港を好きになってほしい。

配時①

【3学期】

社会「国土の自然とともに生きる」

【関連：A-①】

- 森林と人々の暮らしや、自然災害の防止、環境保全やそれらに関わる人々を調べ、人々の生活には国土の自然環境が密接に関わっていることを知る。

教科等関連の
視点の表記

- 内容の関連→A
- 方法の関連→B
- ・強化する→①
- ・付加する→②
- ・補充する→③

例) 内容の補充
↓
【関連：A-
(例)】

課題設定

課題追究

行動・発信



- 三池港調査のための課題づくり
- 三池港の機能や歴史についての概要調査



校区にある三池港は世界文化遺産なんだな。どんな価値があるのかな。調べてみよう。



- 三池港の港内調査、海洋船見学
- 三池港の価値を知らせるリーフレット作成



昔の技術を使って作られていることが分かるよ。今でも私たちの生活を支えているね。



- 学習発表会でのリーフレット展示
- 全国海洋教育サミットでのリーフレット展示



三池港の良さについてまとめたリーフレットをたくさんの人に読んでもらったよ。



《海を活用する》
5年 単元名「三池港ってどんなところ？」(21時間)

1 単元の目標

身近にある世界近代遺産である三池港の役割や歴史に関心を持ち、三池港見学や三池港クルージングなどを通し、三池港に対する自分なりの価値を見出し、三池港に対する愛着を深めることができるようにする。

《知識・技能》

「三池港の価値」「三池港と自分たちの生活の関わり」という視点で三池港について調査し、三池港が大牟田の発展を考えて計画的に造られ、今でも生活と密接に関わっていることを理解する。

《思考力・判断力・表現力等》

三池港の歴史や現在の機能から三池港の価値について考え、大牟田市をはじめとする地域の生活と密接にかかわってきたことを捉え、そのことをリーフレットなどの表現物に表す。

《学びに向かう力・人間性等》

三池港の歴史や自分たちの生活との結び付きに関心を持ち、目的に応じて友だちと協働的に調べたりまとめたりして、三池港や三池港のある自分たちの地域への誇りや愛情をもつ。

2 単元の指導計画

配時	学 習 活 動	☆外部連携 ※指導上の留意点
3 時 間	<p>大牟田の人たちは三池港をどう思っているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者へのアンケートや、みなと振興室の方の話から大牟田市民の三池港に対するイメージを知る。(2) <ul style="list-style-type: none"> ・三池港ってあんまり知られていないのか…。 ○ 大牟田の人にもっと三池港を好きになってもらうには何ができるか考える。(1) <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちも三池港のことをもっと詳しく知ろう。 	<p>※ 三池港を広く知ってもらいたいという願いをもたせるため、三池港についてアンケートをとらせたり、話していただいたりする。</p> <p>☆ 「大牟田市みなと振興室」へ協力を依頼し、三池港を訪れる観光客数の推移や、イベントでの反応を話していただくようにする。</p>
15 時 間	<p>三池港の歴史や役割を知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ みなと振興室の方から、三池港の歴史や建造に関わった團琢磨、世界遺産の価値を教えてください。(3) ○ 三池港クルージングや三池港見学に行き、実際の開門や航路を見ながら説明を受け、理解を深める。(4) <p>三池港の魅力を見つけよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 三池港と自分たちの生活の関わりを話し合う。(3) <ul style="list-style-type: none"> ・三池港に運ばれる物資が生活を支えているね。 <p>三池港を紹介するパンフレットを作ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 調べたことをもとにパンフレットを作る。(5) 	<p>☆ 「大牟田市みなと振興室」へ協力を依頼し、歴史・価値などについて話していただくようにする。</p> <p>☆ 「国土交通省九州地方整備局博多港湾・空港整備事務所」へ協力を依頼し、クルージングを通して三池港について説明していただくようにする。</p> <p>※ 多様な価値を見いださせるために、世界遺産以外の三池港のよさやすごさについて話し合わせる。</p>
3 時 間	<p>お家の方や地域の方を招待して、発表会をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 三池港紹介パンフレットをもとに、自分たちが見いだした三池港の魅力を保護者や地域の方に伝える。(2) <p>学習を振り返ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の振り返りを行い、学習の価値を実感する。(1) <ul style="list-style-type: none"> ・三池港について詳しく知れて、もっと好きになった。 	<p>☆ 三川地区公民館やみなと振興室の方にも来ていただくよう協力を要請する。</p> <p>☆ 三川地区公民館・大牟田市役所へパンフレットの設置を依頼しておく。</p>

本時 14/21



《海を活用する》
5年 単元名「三池港ってどんなところ？」(14/21時間)

3 本時の目標

世界近代遺産である三池港の役割や歴史に関心をもち、三池港見学や三池港クルージングなどを通し、三池港に対する自分なりの価値を見いだし、三池港に対する愛着を深めることができるようにする。

4 本時の指導計画

配時	学 習 活 動	☆外部連携 ※指導上の留意点
10分	<p>これまでに学んだ三池港の魅力について整理しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ みなと振興室の方のお話や見学・クルージングから感じた魅力について確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・100年から今も使われている港である。 ・閘門やハミングバードの羽、航路の形にも意味がある。 ・團琢磨さんの未来を思う気持ちが込められている。 ○ 歴史的な価値以外のことについて確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・三池港に運ばれるさまざまなものは私たちの生活に役立てられている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>三池港のよさをたくさんの人に知ってもらうには、どんな内容のリーフレットにすればいいだろう。</p> </div>	<p>※ 歴史的な価値と機能的な価値の二つの価値があることを視覚的に捉えることができるように、分類しながら板書する。</p>
30分	<p>リーフレットの構成を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ リーフレットの構成を個人で考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・どうして世界遺産になったかを伝えよう。 ・閘門の動く仕組みについて書こう。 ○ パンフレットの構成を交流する。 <p>リーフレットに書くことを決めよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 歴史的価値と機能的な価値について伝える内容を決め、自分のパンフレットの構想をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・閘門の役割と閘門の近くで魚釣ができることについて伝えよう。 ・ハミングバードの形の秘密と、三池港に沈む夕焼けの美しさについて伝えよう。 	<p>※ 個人で考えたことについて発表させ、歴史的な価値と機能的な価値の両方の魅力を伝える方がいいことに気付かせる。</p>
5分	<p>学習を振り返ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の振り返りを行い、今後の取組への意欲をもつ。 	<p>※ 本時学習で、今後の見通しがもてたことを確認し、課題解決への意欲を高めるようにする。</p>

【他教科等との関連項目】

社会「自然条件と人々の暮らし」（5月）

- 温かい地方や寒い地方、高地や低地に暮らす人々の暮らしについて調べ、国土の自然環境に適応し、それを生かしながら生活していることを知る。

社会「世界とつながる日本の工業」（10～11月）

- 日本の自動車が世界とどのように広がっていくのかを調べ、工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸などの働きを知り、それらが国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考える。

社会「国土の自然とともに生きる」（2～3月）

- 森林と人々の暮らしや、自然災害の防止、環境保全やそれらに関わる人々を調べ、人々の生活には国土の自然環境が密接に関わっていることを知る。

6年 「有明海とともに生きる」ストーリーマップ

めざす子どもの姿

有明海の漁獲量減少という問題点に関心をもち、三里漁業協同組合や荒尾干潟水鳥・湿地センターの方々に話を聞くなどして原因を調べ、人間の生活や開発が海に大きな影響を与えていることを理解することができる。さらに、それらの原因を解決し、これから海と人とが共生していくために必要なこと、行動できることを自分なりに考えることができる。

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

課題設定	課題追究	行動・発信・振り返り
<p>私たちの生活と深く関わっている有明海にはどんな問題があるだろう？</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの海洋教育の学習を振り返って、有明海と私たちの生活との密接な結び付きをまとめ、現在の有明海の問題に気付く。 ・有明海の干潟はとも有名だね。「ラムサール条約湿地」になっているところもあるよ。 ・有明海は海苔の養殖が盛んだよ。有明海苔は全国的にも有名だね。 ・ムツゴロウやフラスボなど、日本では有明海にしかないはずらしい生き物がいるよ。 ・有明海で獲れる魚の量は30年前に比べ1/6になっているんだね。どうしてかな。 <p>配時④</p>	<p>漁獲量が減少している理由について、海と関わる人たちに聞いてみよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 漁獲量が減少している原因について漁師さんや湿地センターの方に話を聞き、整理する。 ・地元漁師さんや学者さんなどに話を聞いてみよう。 ・ダムや堰によって砂が堰き止められ、砂が海まで流れ込まなくなっているんだな。 ・浄水場で水がきれいになりすぎた結果、栄養のない水が海に流れ込んでいっているんだな。 ・温暖化によって、海水が温められていることも原因なんだね。 <p>配時⑧</p>	<p>海洋教育こともサミット 1月</p> <p>多くの人が有明海の問題に関心をもつことが大切だね。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちにも継続して出来る取組を考えよう。 <p>学習を振り返ろう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の振り返りを行い、自分たちの学習の価値を実感する。 ・私たちが学習を進めることで、漁師さんたちが喜んでいらしたね。 ・多くの人に私たちの考えが納得してもらえた。 <p>配時①</p>
<p>特別活動「修学旅行」 【関連：A-②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 外国との貿易や交流をもとにまちの繁栄を築いてきた長崎市を見学し、海上交通・貿易の拠点となる港の働きや外国とのつながりについて考える。 	<p>社会「新しい時代の幕開け」「近代国家に向けて」 【関連：A-③、B-①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大日本帝国憲法の発布や、日清・日露戦争、不平等条約の改正、科学の発展などについて調べ、明治中・後期から大正期にかけて殖産興業等により国力が充実し、国際的地位が向上したことを知る。 	<p>国語「町の未来をえがこう」 【関連：B-①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 町づくりについて複数の資料から読み取った情報を効果的に活用し、目的と意図を明確にしたプレゼンテーションの構成と必要資料を考え、町づくりについてプレゼンテーションする。
<p>社会「世界の日本の日本」 【関連：A-①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 世界の国々やそのつながり、平和や環境を守るための取組について調べ、国際社会の中で、互いを尊重し合いながら、だれもが安心して生き生きと暮らすことができる社会を実現するためには、何が大切なかを考え、これから実行したいことや学びたいことを宣言文にまとめる。 	<p>教科等関連の視点の表記</p> <p>内容の関連→A 方法の関連→B 強化する→① 付加する→② 補充する→③</p> <p>例) 内容の補充 ↓ 【関連：A-①、②、③】</p>	

課題設定

課題追究

行動・発信



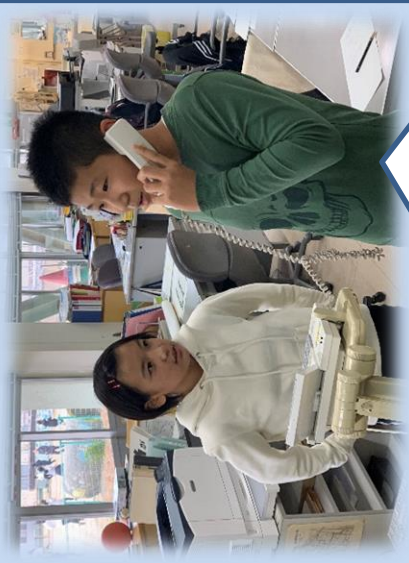
- ・有明海の価値と漁獲量減少の問題への気付き
- ・原因追究のための計画づくり、依頼



- ・漁師さんへのインタビュー
- ・荒尾干潟水鳥・湿地センター見学



- ・海洋教育子どもサミットinおおむたでの発表
- ・全国海洋教育サミットでの発表



有明海は私たちの生活にとっても身近なのに、魚が獲れる量が大きく減っているんだな。



人の生活や陸の開発が海に大きな影響を与えて、バランスを崩していることが分かった。



人と海が共生するために大切だと考えたことをたくさんの人に聞いてもらったよ。



《海を活用する》
 6年 単元名「有明海とともに生きる」(25時間)

1 単元の目標

有明海の漁獲量減少の問題に関心をもち、その原因について見学やインタビューなどで調べて整理し、人間(陸)の生活や開発が海へ大きな影響を与えている(陸と海のバランスを崩している)ことを明らかにする。そして、そのことを基に、人と海が共生するためにどう行動するべきか考える。

《知識・技能》

漁獲量減少の原因調査という目的に応じて適切に調べたり整理したりし、川の護岸やダム、堰の建設などの開発、二酸化炭素排出などの生活が海に悪影響を与えていることを理解する。

《思考力・判断力・表現力等》

漁獲量減少の様々な要因を結び付けて考え、人の生活が複合的に関係して海に悪影響を与えていることを明らかにし、その複合的に結びついた要因について図などを用いて表現物にまとめる。

《学びに向かう力・人間性等》

漁獲量の減少やそれに伴う漁師さんの困窮の様子に関心をもち、様々な要因を友だちと協働的に調べたり整理したりし、人と海が共生するために自分にできることを考えて行動する。

2 単元の指導計画

配時	学 習 活 動	☆外部連携 ※指導上の留意点
2 時間	<p>有明海の現状について知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの海洋教育で学んだことを振り返る。(1) <ul style="list-style-type: none"> ・海苔養殖が盛んで、ムツゴロウなど珍しい生物が生きている、価値のある海だ。 ・三池港によって大牟田は発展し今も生活を支えている。 ○ 漁獲量が30年前より1/6になっている現状を知る。(1) <ul style="list-style-type: none"> ・なぜそうなってしまったのかな。調べてみよう。 	<p>※ 有明海の漁獲量減少の問題に強い関心をもつことができるように、これまでの海洋教育での有明海の魅力を十分に振り返った上で、それと対比する形で問題点を示すようにする。</p>
18 時間	<p>漁獲量減少の原因を調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 調査方法を考える。(1) <ul style="list-style-type: none"> ・有明海を知る漁師さんや研究している学者さんに聞く。 ○ 三里漁業協同組合の漁師さんにインタビューする。(4) ・有明海の水がきれいになりすぎているんだな。 ・干潟の面積がどんどん減ってきているんだな。 ○ 荒尾干潟水鳥・湿地センターを見学し館長さんにインタビューする(5) ・川の開発によって砂が流れ込まなくなっているんだ。 ・川の流れる勢いが弱まり、海水がかき混ざらないんだ。 ・海水温が上がって、海の生態系が変わってきている。 <p>調べたことを整理し、自分たちにできることを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 調べたことを整理し、できることを話し合う。(8) 本時 14・15/25 ・海に栄養と砂を流すためにはどうすればいいかな。 ・調べたことや自分たちにできることをまとめて、発信の準備をしよう。 	<p>☆ 有明海の現状や変化の様子について知ることができるよう、三里漁業協同組合の方をお招きする。</p> <p>☆ 環境悪化の原因について知ることができるように、荒尾干潟水鳥・湿地センターを見学し、館長さんにインタビューする。</p> <p>☆ センターへのバスを手配する。</p>
5 時間	<p>調べたことや、自分たちにできる行動を発信しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「海洋教育子どもサミットinおおむた」や「全国海洋教育サミット」で発信する。(4+時間外) <ul style="list-style-type: none"> ・ポスターセッションで自分たちの考えを発信しよう。 ・他の学校の海への取組を聞いて、参考にしよう。 ○ 学習の振り返りを行い、学習の価値を実感する(1) <ul style="list-style-type: none"> ・これからも自分にできることを実行していこう。 ・みんなが有明海的环境に関心をもってほしいな。 	<p>☆ 文化会館へのバスを手配する。</p> <p>※ 各サミットを通して子どもの考えを深めることができるように、事前にサミット内でのめあてを立てさせておく。</p>



《海を活用する》
6年 単元名「有明海とともに生きる」(14・15/25時間)

3 本時の目標

見学やインタビューを通して調べたことを整理し、人（陸）の生活や開発が複合的に関係して海に悪影響を与えていることを明らかにし、そのことから自分たちにできることを考えることができる。

4 本時の指導計画

配時	学 習 活 動	☆外部連携 ※指導上の留意点
10分	<p>調べたことを確認しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの学習で調べたことを振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・川の開発によって栄養や砂が流れ込まなくなっている。 ・川の流れる勢いが弱まり、海水がかき混ざらない。 ・海水温が上がって、海の生態系が変わってきている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>漁獲量減少の原因を明らかにし、自分たちにできることを考えよう。</p> </div>	<p>※ 整理する段階で原因の複合的な関係に着目しながら考えることができるように、それぞれの原因について写真や図などを用いて視覚的に分かりやすく板書する。</p>
70分	<p>調べたことを基に、漁獲量減少の原因を整理しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グループで調べたことを出し合い、原因となる事柄をグループピングして整理する。 ○ 整理したことを全体で共有し、原因を大きくまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・山の開発や川の開発が海に栄養や砂を流れ込ませないようにしているのに、餌となる稚貝が育たない。 ・川から流れ込む水の勢いの弱まりによって、海の水がかき混ざらず、海底が低酸素化している。 ・温暖化によって海水温が上昇し、有明海にはいなかった魚が増えてきて、バランスを崩している。 <p>これから自分たちにできることを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大きくまとめたことを基にグループに分かれ、それぞれ自分たちにできることを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・まず、多くの人に有明海の問題に関心をもってもらう。 ・ダムや堰を壊すわけにはいけないので、これから造るものについては海との共生を考えなくてはならない。 ・自分たちも洗剤の量や暖房の使用など、気をつけることができる。また、募金活動や清掃活動にも参加したい。 	<p>※ 原因を大きくまとめることができるように、グループごとに適時アドバイスしていく。具体的には以下の現象と原因を関係付けていくようにする。 (現象(変化の様子))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・干潟の面積減少 ・干潟のヘドロ化 ・海底の低酸素化 ・魚種の変化 ・稚貝の減少(タイラギの減少) <p>(変化の要因(原因))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山林開発 ・ダム建設、浄水場建設、護岸 ・二酸化炭素排出量増加 <p>→川をせき止めることで、砂や栄養が海に届かない。また水が浄水され無機質化している。</p>
10分	<p>これからの見通しを立てよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習を振り返り、今後の活動の見通しをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・調べたことと考えたことをポスター形式(模造紙)に整理するんだね。 ・海洋教育こどもサミットに向けて発表の準備をしよう。 	<p>※ 本時学習で今後の見通しがもてたことを確認し、「海洋教育こどもサミット」実施への意欲を高めるようにする。</p>

【他教科等との関連項目】

社会科「新しい時代の幕開け」「近代国家に向けて」(9月)

- 大日本帝国憲法の発布や、日清・日露戦争、不平等条約の改正、科学の発展などについて調べ、明治中・後期から大正期にかけて殖産興業等により国力が充実し、国際的地位が向上したことを知る。

国語「町の未来をえがこう」(11月)

- 町づくりについて複数の資料から読み取った情報を効果的に活用し、目的と意図を明確にしたプレゼンテーションの構成と必要資料を考え、町づくりについてプレゼンテーションする。

社会「世界の中の日本」(2月)

- 世界の国々やそのつながり、平和や環境を守るための取組について調べ、国際社会の中で、互いを尊重し合いながら、だれもが安心して生き生きと暮らすことができる社会を実現するためには、何が大切なのか考え、これから実行したいことや学びたいことを宣言文にまとめる。

○めざす子どもの姿

干潟観察会で興味を持った有明海の生き物について調査活動を通して、干潟の楽しさを感じたり、有明海の生き物に対しての関心を高めたりする。次に、生き物のよさを図鑑や発信する活動を通して、本物と触れ合うことの価値を見直し、生き物を飼育するために、さらに調べ学習を行うことができる。さらに、環境保全をしている人々や有明海の社会的事象、絵本と結びつけながら、生命尊重と環境保全を関連させながら自分なりの思いをもつことができる。

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

課題設定

干潟の楽しさを伝えたい、生物を調べたい、「海まつり」の準備をしよう！

- 干潟見学前学習会を行い、生息する生き物や、安全について学習をする。
 - ・干潟で安全に活動するには、長靴などを履かないといけないね。
- 干潟観察会に参加し、干潟で遊ぶ楽しさを感じたり、有明海に生息する生き物についての関心を持ったりする。
 - ・ほかにどんな生き物が棲んでいるのかな？
- 有明海の干潟に棲む生き物や、それぞれの形態・生態の特徴について、GTから話を聞いたり、図鑑で調べたりする。
 - ・実際に見ることでできなかった生き物は図鑑やインターネットで調べてみよう。

配時⑥

課題追究

「海まつり」をしよう！

- 生き物について調べたことを画用紙にまとめ、有明海の生き物図鑑を作成・紹介する。
 - ・ハクセシオオマネキの雄と雌の特徴を分かりやすく描きたいね。
- 干潟や、調べた生き物の特徴をいかしたゲームや工作物を作る・実践する。
 - ・有明海の生き物でつりゲームを作るのはどうかな。

配時⑧

「海まつり」を振り返り、改善しよう！

- 海祭りにきた人からの感想をもとに、よりよい海まつりにするためにどう改善したらいいのか話し合い、自分たちの活動を計画・実践する。
 - ・本物をもっとみたいという意見も多かったので、生き物を展示できればいいね。
- 海の生き物を飼おう！
- 海の生き物の飼い方を調べ、生き物への愛着をもつ。
 - ・ムソゴロウやトビハゼなどは、どんな環境で生きているのかな。
 - ・環境を守っていくことが大切だね。

配時①

配時⑥

行動・発信・振り返り

「天領小海まつり」を開催しよう！

- 天領小の児童や干潟観察会と一緒に参加したみなと小学校の友達等を招待し、「天領小海まつり」を開催する。

配時③

学習を振り返ろう！

- 学習の振り返りを行い、自分たちの学習の価値を実感する。
 - ・生き物図鑑を読んでもくれている人がいて、うれしかった。質問にも答えることができたよ。
 - ・有明海の生き物を実際に見たり、触ったり、捕まえたりでできて楽しかった。海が好きになったね。
 - ・海の環境をまもるために自分たちにできることに取り組みむことが大切だね。

配時①

教科等との関連

《社会》
「わたしたちのまちのようす」
【関連：A-③】
○校区を探検し、校区にはどんなものがあるのかを調べ、校区について知る。
○校区の中には近代化遺産である三池港がある事を知る。

《社会》
「わたしたちの市のようす」
【関連：A-③】
○大牟田市の形や大きさ、海に近い所や山に近い所などについて調べ、大牟田市の特徴を知る。

《社会》
「海苔作り」
【関連：A-②】
○大牟田市でさかんな海苔作りについて、どのようにしてさかんになったかや海苔作りの工程、よいのりを作る工夫などについて調べ、海苔作りにかかわる人々への思いや努力を知る。

《社会》
地域に残る年中行事
【関連：A-②】
○大牟田市に残る年中行事について調べ、みなと小学校校区に残る「港まつり」について知る。

教科等関連の視点の表記
内容の関連→A
方法の関連→B
・強化する→①
・付加する→②
・補充する→③
例) 内容の補充
↓
【関連：A-①】
（※）

【3学期】

【2学期】

【1学期】

有明海・見つけたよ海の生き物！

課題設定

課題追究

行動・発信



- ・ 干潟事前学習会
- ・ 海の生き物と山のつながり



- ・ 全校に向けての海祭り
- ・ 海祭りに向けてのゲーム・工作作り



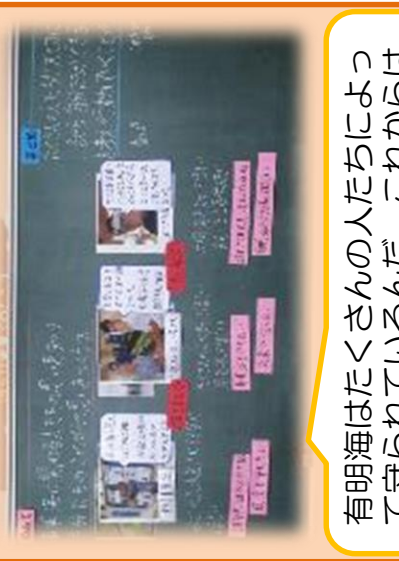
- ・ みなと小学校を招待した海祭り



本物のカニや貝に見つけたよ。いろいろ生き物がいたね。



よりよい海祭りにするために、本物の生き物を紹介しよう。環境を守ることも伝えたいね。



有明海はたくさんの人たちによって守られているんだ。これからは海の環境を守る行動をしていきたい。

《海に親しむ・海を知る・海を守る》
3年 単元名「有明海・見つけたよ海の生き物」(34時間)

1 単元の目標

干潟観察会や、有明海でとれる魚や地域で消費されている魚についての調査活動を通して、干潟の楽しさを感じたり、有明海の生き物図鑑を作成したりする。また、有明海の楽しさや海を守るため自分たちにできることを伝えるために、新聞や有明海の生き物の特徴をいかしたゲーム等を考え、「天領小海まつり」を開催する。

《知識・技能》

有明海の生き物についての生態と環境のつながりを理解するとともに、飼育したい生き物について知り、水槽の環境を整えて飼育することができる。

《思考力・判断力・表現力等》

有明海の生き物のよさを考え、多様な生き物が生息することのできる有明海のよさやたくさんの人が環境保全に取り組んでいることを考え、身近な人に伝えることができる。

《学びに向かう力・人間性等》

進んで有明海に生息する生き物にふれあい、生息する生き物たちのよさを感じ、意欲的に生き物を最後まで飼育したり、身近な人に環境を守ることを発信したりしようすることができる。

2 単元の指導計画

配時	学 習 活 動	☆外部連携 ※指導上の留意点
9時間	<p>干潟の楽しさを伝えたり、生き物を調べたりして、海まつりの準備をしよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ネイチャーガイド柿川先生の話聞き、干潟や有明海について知る。(2) <ul style="list-style-type: none"> ・有明海には、いろいろな生き物があるんだな。 ○ 干潟の観察をする。(2) <ul style="list-style-type: none"> ・干潟にはいろいろな生き物があることを知れて楽しいな。 <p>干潟の生き物を調べよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ それぞれの形態・生態の特徴についてGTから話を聞いたり、図鑑で調べたりする。(5)  ・ムツゴロウは藻を食べるんだ。藻ってなに？ 	<p>☆ネイチャーガイド (柿川先生)</p> <p>※前時のネイチャーガイドの話や生き物について調べたことについて想起させることを通して、干潟観察への意欲を高めさせる。</p> <p>※家庭とも連携し、インターネット等での調べ学習の深化を図る。</p>
20時間	<p>「天領小海まつり」をしよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生き物について調べたことを画用紙にまとめ、有明海の生き物図鑑を作成する。(8) <ul style="list-style-type: none"> ・ハクセンシオマネキの雄と雌の特徴を分かりやすく描きたいね。 ・有明海の生き物でつりべームを作るのはどうかな。 <p>「天領小海まつり」を振り返り、改善しよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ アンケートをもとに、よりよい海祭りにするための活動を考え、計画・実践する。(2) <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートから、本物のムツゴロウやシオマネキを見せたいね。 <p>海の生き物を飼おう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 海の生き物飼う方を知り、生き物への愛着をもつ (10)  ・生き物が生きていくには環境が大切だ。守ろう！ 本時26/34 	<p>※全校児童に開催日時を連絡し、参加を要請する。</p> <p>※他学年の参加した子どもからアンケートをもらい、課題を話し合うことができるようにする。</p> <p>☆夜明茶屋からムツゴロウやワラスボなどを購入する。</p>
5時間	<p>「天領小海まつり」を開催しよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 天領小の児童や干潟観察会と一緒に参加したみなと小の友達やGTの方を招待し、「天領小海まつり」開催する。(4)  <p>学習を振り返ろう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習を振り返り、自分たちの学習の価値を実感する。(1) <ul style="list-style-type: none"> ・生き物図鑑を読んでくれている人がいて、嬉しかった。質問にも答えることができたよ。 ・有明海の生き物を実際に見たり、触ったり、捕まえたりできて楽しかった。海に興味をもったね。 	<p>☆みなと小学校に海祭りにきてもらうように招待状を準備しておく。</p> <p>※相手意識をもって話すことができるようにする。</p> <p>※本単元を通して、今後の見通しがもてたことを確認し、課題解決への意欲を高めるようにする。</p>

《海に親しむ・海を知る・海を守る》
3年 単元名「有明海・見つけたよ海の生き物」(26/34時間)

3 本時の目標

有明海にいる生き物に対する自分たちの愛着や思いと、有明海を大切にしている魚屋、水族館、地域の方々の思いを関連付けながら考える活動を通して、様々な人たちがふるさと有明海的环境を守ろうとしていることに気づくとともに、自分達にできることを考えることができる。

4 本時の指導計画

配時	学 習 活 動	☆外部連携 ※指導上の留意点
10分	<p>前時の学習をふりかえり、本時のめあてをつかもう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ これまでに育ててきた海の生き物の様子を発表し、自分たちの考えをつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・はじめは海の生き物を飼いたいという思いだけだったな。 ・飼っていると、だんだんと大切に思う思いが強くなった。必ず海に返したいな。 ○ 海に携わる人の活動を知り、本時のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>有明海に関わる人々の思いを知り、自分たちはこれから有明海とどのようにつながっていきたいかを考えよう。</p> </div>	<p>※図鑑などで調べるだけではわからなかった海の生き物のよさや生活の様子を友達にわかりやすく説明するために、「苦労や工夫」「飼うことでわかったこと」「生き物への思い」の3つの観点で紹介する。</p>
30分	<p>有明海を大切にしている人々と関係づけながらこれからの海について考えるとともに、これから自分がどのように思いを持つことが必要なのかを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 海に関わる人々が海とどのように関わっているのかを話し合う。 <ol style="list-style-type: none"> ①地域の方々 <ul style="list-style-type: none"> ・海や川の学習のきっかけは柿川先生だったな。柿川先生は海や川の生き物たちを守りたいという思いを持って生きているんだ。 ②柳川水族館の方々 <ul style="list-style-type: none"> ・有明海の干拓事業で多くの生き物が死んだんだ。その状況をどうにかしようと、水族館の方々は海の生き物を知ってもらおう活動を通して、海を守ろうとしているんだ。 ③魚屋 <ul style="list-style-type: none"> ・海の生き物の魅力を伝えて、海の生き物たちを守っているんだ。 ○ 有明海を大切にしている人々の思いと自分たちの思いの共通点を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・環境を大切に、海の生き物を大切にしたいという思いは同じだね。 	<p>※有明海に親しみ、守る意識を高めるために、環境問題と関連付けながらGTの話の聞いたり、海に関わる人たちの思いを提示したりする。そして、わたしたちの有明海は多くの人に関わり合いながら守られていることに気づかせ、これからどのような思いを持ちたいかを話し合わせる。</p>
5分	<p>学習を振り返ろう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の振り返りを行い、今後の取組への意欲をもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・海は多くの生き物を育て、命をつなげていく場所なので、大切にしていきたい。 ・生き物を飼うことに夢中だったけど、本当にそれでいいのかな。 ・飼っている生き物たちを早く海に返そうかな。 	<p>※これからどんなことを大切にしていきたいかを振り返り、今後の自分の考えを創るために、環境破壊された海と豊かな有明海の動画を見せる。</p>

【他教科等との関連項目】

社会科「わたしたちのまちのようす」(4月)

- 校区を探検し、校区にはどんなものがあるかを調べ、校区について知る。
- 校区の中には近代化遺産である三池港があることを知る。

社会科「わたしたちの市のようす」(6月)

- 大牟田市の形や大きさ、海に近い所や山に近い所などについて調べ、大牟田市の特徴を知る。

社会科「海苔作り」(12月)

- 大牟田市でさかんな海苔作りについて、どのようにしてさかんになったかや海苔作りの工程などについて調べ、海苔作りにかかわる人々の思いや努力を知る。

社会科「地域に残る年中行事」(1月)

- 大牟田市に残る年中行事について調べ、みなと小学校校区に残る「港まつり」について知る。

○めざす子どもの姿

諏訪川でのカヌー体験や水質検査を通して、地域の諏訪川や有明海の様子や課題などの現状を知り、諏訪川や有明海の価値を追究したり、自分たちができていることを考えたりして、川や海を守るために自分ができることを実践しようとする。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----

課題設定

つなごろう！わたしたちと諏訪川

○カヌー体験をすることで諏訪川に関心をもつ。
・近くにある諏訪川で遊べるなんて知らなかった。
・遊んでみると、川の汚れやにおいが気になったね。
・諏訪川で遊べることを友達や家族に教えたい。

配時②

○GT(まなばん館)のお話を聞き、諏訪川の近くにいる生き物や植物についての話を聞く。
・たくさんの生き物や植物が住んでいるんだね。
・季節によって住んでいる生き物が違うんだ。
・昔はたくさん生息していた生き物も、環境の変化で数が減ったりして悲しいね。

配時②

総合的な学習の時間

課題追究

考えよう！私たちがと諏訪川と有明海！

○川の水源から有明海までの水質調査をし、課題を話し合う。
・水遊びができる場所は他にもあるのかな。
・水の汚れで生物の種類は変わるのかな。
○川の生物指標をもとに、川の汚れを調べたり、水を汚す生活排水の効果について調べたりする。
・水の汚れの原因はなんだろう。どんなものがたくさんよごしているのかな。
・醤油が川に流れると、どれくらいの生き物に影響をあたえるのだろうか。
○人間のくらしが海洋環境に与える影響について話し合い、保全に対する意識を高める取り組みについて考える。
・自分達ができることはなんだろう。
・お手紙やポスターで伝えていきたいね。

配時⑦

行動・発信・振り返り

つなげよう！私たちがと諏訪川と有明海！

○自分達ができることを出し合い、よりよくなるように話し合う。
・ポスターをよりよくなるためには、どんな工夫をすれば見た人によりよく伝わるのかな。
・お手紙には自分達の思いをはっきりわかるように見出しを付けよう。

時間外

○全校児童や地域の方々、学習を進めていく中でお世話になった人々を呼んで、環境保全を呼びかける「川の日」しよう。
・調べた事を模造紙にまとめて伝えよう。排水の実験もすると、分かりやすいね。

時間外

学習を振り返ろう！

○川と共に生きるためにできることを考え、行動する。
・地域のみんなにも伝えることができようかな。
・これからは山・川・海を守るために、水をきれいに使っていきたいな。

・配時①

【1学期】

《社会》 「水はどこから」 【関連：A-②】
○水道の水はどこから送られてくるか、どのように使用・処理されているのか、ダムや森林はどんな役割を担っているかを調べる。
○水を大切に使うために、自分たちには何が出来るかを考える。

【通年】

《理科》 「季節と生き物」「自然の中の水」 【関連：A-②】
○GTの話を聞く活動を通して自然の豊かさが減少していることについて知る。
○水はいろいろな姿を変えながら、絶えず間なく循環しているという見方・考え方をもち。

【2学期】

《国語》 「報告します、みんなの生活」 【関連：A-②】
○全校の暮らしと海洋教育の関係を調べるためにアンケートを作り、調べてわかったことと考えたことを、資料を使って表現する。

【3学期】

《道徳》 「ふれあいの森」 【関連：A-②】
○保全活動を通して、自然愛護の心情とどんな取り組みができるか考える。

教科等との関連

教科等関連の視点の表記
内容の関連→A
方法の関連→B
・強化する→①
・付加する→②
・補充する→③
例) 内容の補充
↓
【関連：A-①】

つながろう！つなげよう！私たちと諏訪川

課題設定

課題追究

行動・発信



- ・カヌー体験
- ・水辺の生き物についての話



諏訪川のよさと課題を発見。環境について考え、知らせよう。



- ・水質検査
- ・生き物調べ
- ・ゲストティーチャーの話



川の上流、中流、下流で水の汚れ方が違うね。



- ・壁新聞やペープサートづくり
- ・保護者や地域への発信



水の汚れは、少し意識するだけでずい分変わってくる。学校でも家でも、みんなが今できることを取り組むことが大切。



≪海に親しむ・海を守る≫
 4年 単元名「つながろう！つなげよう！私たちと諏訪川と有明海」(40時間)

1 単元の目標

諏訪川でのカヌー体験や水質検査等の体験・探求活動を通して、本校に隣接する地域の諏訪川や有明海のよさや課題などの現状を知り、その価値を追求したり、自分たちができることを考えたりして、川や海の環境を守るために自分ができることを実践することができる。

《知識・理解》

地域の川の環境及び海とのつながりを学習することを通して、それらの環境が人間生活を豊かにしていることを理解し、その探求の技能を身につける。

《思考力・判断力・表現力等》

川や海と人間生活との関連性を探究したり、諏訪川の環境を守るために自分たちができることを考えたりしながら表現する。

《学びに向かう力・人間性等》

川や海を守るために自分ができることから行動し、広めようとする。

2 単元の指導計画

配時	学 習 活 動	☆外部連携 ※指導上の留意点
8時間	<p>つながろう！わたしたちと諏訪川</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ オリエンテーション(1) ○ 有明海とつながっている諏訪川に興味・関心を持つために、カヌー体験をする。(2) <ul style="list-style-type: none"> ・川の水が濁っている。 ・ゴミがいっぱい落ちている。 ○ GTの話聞き、諏訪川の近くにいる生き物や植物についての話を聞き、生き物の多様性について考える。(2) <ul style="list-style-type: none"> ・川の流域によって住んでいる生き物が違うな。 ・初めてこんな生き物が諏訪川にいることを知った。 ○ 体験活動を振り返る活動を通して、さらに調べたいことや確かめたいことを話し合う。(3) <ul style="list-style-type: none"> ・川と海が本当につながっているか調べたい。 ・諏訪川がどれくらい汚れているのかを知りたい。 	<p>※社会科や三年生での総合的な学習の時間で学習した地域の環境に関する学習を想起させ、身近にある三池港や有明海の環境に目を向けさせる。</p> <p>☆「駿馬地区公民館」へ協力依頼し、諏訪川のカヌー体験・環境教室をしてもらう。</p> <p>☆カヌー教室での保護者の監視依頼や駿馬地区公民館までの移動手段(バスの手配)を確保しておく。</p>
10時間	<p>考えよう！私たちと諏訪川と有明海</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 諏訪川の上流から下流、有明海の水質検査を通して、諏訪川の課題や調べていきたいことを考える。(7) 本時 11/40 <ul style="list-style-type: none"> ・上流、中流、下流の生き物の違いを調べたい。 ・川の水が汚れる原因を調べたい。 ・下流に近づくほど水が汚くなるのはなぜだろう。 ○ 下流に行くほど川の水が汚いということから、自分たちに何ができるかを考える。(3) <ul style="list-style-type: none"> ・油汚れなどは拭いて流そう。 ・こまめに水は止めよう。 	<p>☆環境保全課に連絡をして、水質検査の道具を借りる。</p> <p>☆ネイチャーガイドの柿川先生へ水質調査の依頼をし、水質検査や環境教室をしてもらう。</p>
22時間	<p>つなげよう！私たちと諏訪川と有明海</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分たちが考えたできることを、全校児童や地域の方々を呼んで、環境保全を呼びかける。(21) <ul style="list-style-type: none"> ・実演をして、油汚れ等は拭いて流すことを呼びかける。 ・生き物が流域によって違うことを画用紙で伝える。 ○ 学習の振り返りを行い、自分たちの学習の価値を実感し、自分達にできることを行動する。(1) <ul style="list-style-type: none"> ・諏訪川の水が有明海に流れるから、きれいにすることを呼びかけることができよかったな。 	<p>※保護者や地域の人々を招いて、環境保全を呼びかける。</p>



《海に親しむ・海を守る》

4年 単元名「つながろう！つなげよう！私たちと諏訪川と有明海」(11/40時間)

3 本時の目標

諏訪川でのカヌー体験や水質検査を通して、諏訪の現状を知り、諏訪川の価値を追求したり、諏訪川や有明海をもっとよくするために自分達ができることを考えたりして、自分の課題を見つけることができる。

4 本時の指導計画

配時	学 習 活 動	☆外部連携 ※指導上の留意点
10分	<p>諏訪川と出会う</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までの諏訪川の見学やカヌー体験について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・上流は水がきれいだった。 ・下流に近づくにつれて水が汚くなっている気がする。 ・場所によって住んでいる生き物が違うな。 ○ 上流・中流・下流の水質検査がどう違うかを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活排水が流れているから、中流が一番汚いと思う。 ・上流が水が透明だったので一番きれいだと思う。 ・汚れが海に流れていくから、有明海も汚いのかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 諏訪川の上流・中流・下流で水質は違うのかを調べよう。 </div>	<p>※流域ごとの川の様子やカヌー体験が想起できるように、写真をまとめて提示する。</p> <p>※川にゴミが落ちていたことや生き物が違ったことだけでなく、流域によって水の色が違ったことに目を向けさせる。</p>
30分	<p>諏訪川の水質調査をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 上流・中流・下流の水質検査をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・上流は透明な水で、きれいだった。 ・下流の水は茶色でとても汚かった。 ・下流へと近づくにつれて、水も汚くなっている。 ・私たちの生活が水を汚しているのかな？ ○ 柿川先生の話を聞き、検査結果の理由について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・川の水と森（森林）はつながっているんだ。 ・水を守るためには、木も守らないといけないんだな。 ・私たちの生活が川の水を汚していたんだ。 ・この汚い水がどんどん海に流れていくんだな。 ○ これから自分達にできることを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・水のきれいさによって住んでいる生き物も違うから、その生き物を守りたいな。 ・川をきれいにするためには、私たちの生活排水を減らすことが必要だと思う。 	<p>☆諏訪川見学に行くときに、各流域の水をペットボトル1本分ずつ汲んでくる。</p> <p>☆柿川先生に水質調査・講話の依頼を事前しておく。また、水質検査の道具を環境保全課に借用依頼をする。</p> <p>※生活排水が流れる所から川の水が汚れるということから、自分達にできることは何かを話し合わせる。</p>
5分	<p>学習を振り返ろう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の振り返りを行い、今後の取組への意欲をもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・川の水が流域によってこんなに違うことを初めて知った。 ・私たちの生活が水を汚しているんだな。 ・川をきれいにする呼びかけをこれからしたいな。 	<p>※本時学習で、今後の見通しがもてたことを確認し、課題解決への意欲を高めるようにする。</p>

【他教科等との関連項目】

社会科「住みよいくらし」

- 暮らしの中で出たごみはどのように処理されるのかを調べる。
- ごみを減らすために、地域や自治体で行っていることを調べ、自分たちには何が出来るかを考える。

社会科「水はどこから」

- 水道の水はどこから送られてくるか・どのように使用・処理されているのか・ダムや森林はどんな役割を担っているかを調べる。
- 水を大切に使うために、自分たちには何が出来るかを考える。

理科「季節と生き物」「自然の中の水」

- GTの話を聞く活動を通して、自然の豊かさが減少していることについて知る。
- 水はいろいろと姿を変えながら、絶え間なく循環しているという見方・考え方を持つ。

国語「報告します、みんなの生活」

- 全校の暮らしと海洋教育の関係をj知るためにアンケートをつくり、調べて分かったことを資料を使って表現する。

道徳「ふれあいの森」

- 保全活動を話し合う活動を通して、自然愛護の心情やどんな取り組みができるか考える。

5年 海洋教育ストーリーマップ ○単元名「地域の宝を調べよう！～三池港を中心とした地域学習～」 ○海洋教育のキーワード「海を守る・海を活用する」 ○配時 18

○めざす子どもの姿

校区にある世界遺産「三池港」や有明海とその他の海の環境について関心をもち、三池港の歴史や担っている役割を調べ、三池港のよさを見出したり、海洋環境を調べ、海洋環境を保全する価値を見いだしたりして、2つの視点で対話することを通して、海の活用に関する考えを深めて新聞を作成し、発信することができる。

7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月

課題設定

私たちが三池港や有明海についてどれくらい知っていたの？
 ○みなと振興室の方に来てもらい、三池港出前講座を通して、自分達が知らないことの多さに気づく。
 ・三池港には大きなコンテナを運ぶ船が入るんだ。
 ・外国との貿易もしているんだね。
 ・昔は石炭でエネルギーを作っていたけれど、今は環境に優しい太陽光発電やバイオマス発電などをやっているんだね。
 ○フェリーから有明海のゴミを見て、海の様子を知れる。
 ・船の上から見たらあまりゴミは無いように見えただけれど、砂浜ではどのくらいあるのかな。
 ○海洋利用と海洋環境保全のグループを選び、自分の課題をつかむ。
 配時①
 配時①
 配時①

課題追究

三池港の歴史や役割を知ろう！
 ○三池港見学やクルージングに行き、実際のものを見ながら説明を受けることで、理解を深める。
 ・閘門は開閉式になっていて、大きな船も入れられるように工夫されていたんだ。
 ・三池港の景色は、趣があっかってこっぴい煉瓦積みだね。
 ・今でも建築当初から動く船があるなんてすごいね。
 配時④
有明海や海の環境を知ろう！
 ○旧三池海水浴場に行き、ゴミ拾いをしてゴミの分類をすることを通して、プラスチックゴミの多さに気づき、海のゴミ問題をインターネットで調べる。
 ・流木などの自然物もあるけれど、プラスチックゴミなど人工物が圧倒的に多いね。
 ・もしかしたら川からのゴミがここまで流れついているのかもしれない。
 ・世界では、プラスチックが詰まっている鯨や、糸が絡まって餌を食べられない生き物たちがいるんだね。
 配時④

行動・発信・振り返り

三池港・有明海・海の新聞を作って考えを広げよう！
 ○海洋活用のグループと海洋環境保全グループで対話し、お互いのはたらきが必要なのに気づき、考えを深め、全校原簿に発信する。
 ・三池港みたいに海洋を活用する場合は、環境に対して対策を考えることが大切だね。
学習を振り返ろう！
 ○学習の振り返りを行い、自分たちの学習の価値を実感する。
 ・世界遺産である三池港をこれからも今の形で残るようにしていきたいね。
 ・海で遊ぶときは、ゴミを出さないことも大切だね。
 配時⑥
 配時①

【2学期】

教科等との関連

《社会》
「世界とつながる日本の工業」
 【関連：A-②】
 ○日本の自動車や世界とどのようなつながりがあるのかを調べ、工業生産に必要としている人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸などの動きを知り、それらが国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考える。

【2学期】

《理科》
「流れる水のはたらき」
 【関連：A-②】
 ○浸食・運搬・堆積の3つの流れる水の働きによって土などの物体が流されたことと理解したりという影響を受けるということを考え、日常生活場面に置き換えて考える。

【1学期】

《国語》
「立場を決めて討論しよう」
 【関連：A-①】
 ○互いの主張やその理由を明確にしながら具体例を用いながら意見を述べる。

【2学期】

《国語》
「和の文化を受けつぐ～和菓子さぐる～」
 【関連：A-①】
 ○伝えたいことを効果的に伝えるために、内容や目的に合わせて資料を用いて説明することができる。

教科等関連の視点の表記
 内容の関連→A
 方法の関連→B
 ・強化する→①
 ・付加する→②
 ・補完する→③
 例) 内容の補完
 ↓
 【関連：A-①】

地域の宝を調べよう～三池港を中心とした地域学習～

課題設定



- 三池港の学習
- 市の取り組みへの協力



身近な世界遺産の三池港をよく知らなかった。三池港を調べ、よさを伝えよう。

課題追究



- 三池港見学
- 三池港や海水浴場でのゴミ拾い



世界遺産の場所にゴミがたくさん落ちていた。新聞やポスターなどでみんなに知らせたい。

行動・発信



- 新聞やポスターを作成し掲示



たくさんの人に三池港のよさを知ってもらい、大切にしてください。



≪海に知る・海を活用する≫
5年 単元名「地域の宝を調べよう！」
 ～三池港を中心とした地域学習～(18時間)

1 単元の目標

校区にある世界遺産「三池港」や有明海とその他の海の環境について関心をもち、三池港の歴史や担っている役割を調べ、三池港の良さを見出したり、海洋環境を調べ、海洋環境を保全する価値を見出したりして、2つの視点で対話することを通して、海の活用に関する考えを深めて新聞を作成し、発信することができる。

《知識・理解》

地域にある世界近代遺産である三池港の役割や歴史の学習を通して、三池港の歴史や建造に関わった団琢磨、世界遺産の価値を理解し、その探究の技能を身につける。

《思考力・判断力・表現力等》

三池港に対する自分なりの価値を探求したり、三池港の魅力を発信するために自分たちができることを考えたりしながらパンフレットに表現する。

《学びに向かう力・人間性等》

三池港や海を守るために自分ができることから行動し、広めようとする。

2 単元の指導計画

配時	学 習 活 動	☆外部連携 ※指導上の留意点
3時間	<p>私たちは三池港や有明海についてどれだけ知っていたの？</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ フェリーから有明海のゴミを見て、海の様子を知る。(時間外) <ul style="list-style-type: none"> ・海にはペットボトルや発泡スチロールの破片が浮いていたよ。 ・船の上からだとゴミはあまりないようだけど、砂浜はどうなんだろう。 ○ みなと振興室の方に来てもらい、三池港出前講座を通して、自分達が知らないことの多さに気付く。(1) <ul style="list-style-type: none"> ・社会科の学習で、日本は外国と貿易をしていることは学んでいたけど、三池港も様々な国と貿易を行っているんだ。(1) ・昔は石炭でエネルギーをつくっていたけど、今は環境のことを考えて太陽光など地球に優しい方法でエネルギーをつくっているんだね。 ○ 海洋利用と海洋環境保全のグループに分かれ、課題をつかむ。(1) 	<p>※フェリーで様子を観察する際に、クイズを三択で提示しておく。</p> <p>☆「大牟田市みなと振興室」へ協力依頼し、三池港の環境保全のための取組や三池港の貿易の現状について話をしてもらう。</p>
8時間	<p>三池港の歴史や役割を知ろう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 三池港見学やクルージングに行き、実際のものを見ながら説明を受けたり、歴史をインターネットで調べることで、理解を深める。(4) <ul style="list-style-type: none"> ・閘門は開閉式で、干潮の時でも、船を停めておくことができるような工夫があるんだな。 ・三池港の景色は昔ながらの素晴らしい風景だな。 <p>有明海や海の環境を知ろう！ 本時 9/18</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 旧三池海水浴場に行き、ゴミ拾いをしてゴミを分類することを通して、プラスチックゴミの多さに気づき、海のゴミ問題をインターネットで調べる。(4) <ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックのゴミが一番多かった。 ・他の海も三池海水浴場と同じように、プラスチックのゴミが多いんだ。 	<p>※三池港までの移動手段(バスの手配)を確保しておく。</p> <p>※ゴミを分別して集めるためのビニル袋、安全のための軍手等の準備を事前に行う。</p>
7時間	<p>三池港・有明海・海の新聞を作って考えを広げよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 海洋利用グループと海洋環境保全グループで対話をし、お互いの働きが必要なことに気づき、考えを深め、新聞を作り発信する。(6) <ul style="list-style-type: none"> ・三池港みたいに海洋を活用する場合は、環境を守るための対策を考えながら取り組まないといけないんだな。 ・世界遺産である三池港をもっと大牟田のシンボルとして活用することができればよいのではないか。 <p>学習を振り返ろう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の振り返りを行い、自分たちの学習の価値を実感する。(1) <ul style="list-style-type: none"> ・三池港の素晴らしさを知ってもらうために、イベントなどをたくさん行って、それに積極的に参加したい。 ・有明海を美しく残していくために、まずは自分達がゴミを捨てないように心がけることが大切だと思う。 	<p>☆三池港で仕事をしている方々やボランティアに携わる方々を呼び、討論を聞いてもらうようにする。</p> <p>※事前に内容を考えておき、それに伴う資料を準備させておく。</p> <p>※これからの三池港やそこで働く施設をどのようにして守っていくのかという観点から振り返りを行う。</p>



《海を知る・海を活用する》

5年 単元名「地域の宝を調べよう！」

～三池港を中心とした地域学習～(9/18時間)

3 本時の目標

三池海水浴場で拾ってきたゴミを分類することで、有明海にあるゴミの現状について知り、他の海ではどのようなゴミが多く落ちているのか課題を設定し、調べるための意欲をもつことができる。

4 本時の指導計画

配時	学 習 活 動	☆外部連携 ※指導上の留意点
5分	<p>海水浴場に落ちていたゴミで一番の多いのは何か予想を立てよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ゴミの種類で何が一番多いか予想を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・僕が拾ったのはペットボトルが多かった気がするからペットボトルだと思う。 ・プラスチックが多い気がする。 ○ 海岸や港にたくさんのゴミがある原因について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・釣りをして、使った道具を捨てていく人がいるから ・ペットボトルや空き缶などを海岸で捨てる人が多いから ・川から流れてきたゴミが海岸に流れ着いたから <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">三池海水浴場に落ちていたゴミを分類し、有明海のゴミの現状を知ろう。</p>	<p>※前時まで整理したゴミの種類と量についての調査結果を表にまとめて提示する。</p> <p>※ゴミが三池港・海水浴場で捨てられたものだけでなく、川や海から流れてきて漂着した物もあることに目を向けさせるようにする。</p>
30分	<p>ゴミを分類して現状を知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 拾ってきたゴミを分類する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルは意外と少ないな。 ・リサイクルに出せるものは少ないよ。 ・輪がたくさん落ちていたけど何に使われているものなんだろう。 ・輪はプラスチックでできているよ。 ・プラスチックが一番多いな。 ○ 原因・疑問点を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルなどのリサイクルできるものは簡単にゴミ箱に捨てることができるから少ないのかな。 ・プラスチックのゴミが多いのはなぜだろう。 ・有明海以外の海はどのようなのだろうか。 ・インターネットを使って調べよう。 	<p>※「大牟田市みなと振興室」からの三池港環境保全の取組についての話を振り返らせ、自分たちの力でできることは何かに焦点化して話し合わせる。</p> <p>※自分自身でできること、他者へ働きかけることに整理して話し合わせる。</p> <p>☆環境保全に役立てるためには、どこへ寄付すればよいかについては教師からアドバイスする。</p> <p>☆ポスター掲示ができる場所については教師からアドバイスする。</p>
5分	<p>学習を振り返ろう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の振り返りを行い、今後の取組への意欲をもつ。 ・他の海についても調べたい。 ・こんなにゴミがあるとは思わなかった。これからも有明海を残していくためにも何か取り組みがみつようだな。 	<p>※本時学習で、今後の見通しがもてたことを確認し、課題解決への意欲を高めるようにする。</p>

【他教科等との関連項目】

社会科「世界とつながる日本の工業」（11月）

- 工業生産を支える貿易や運輸の働きを知り、それらが国民生活に大きな影響を与えていることを理解する。

理科「流れる水のはたらき」

- 侵食・運搬・堆積の3つの流れる水のはたらきが日常生活ではどこで働いているのか考える。

国語科「和の文化を受けつぐ-和菓子をさぐる」

- 伝えたいことを効果的に伝えるために、内容や目的に合わせた資料を用いて説明できる。

国語科「立場を決めて討論しよう」

- 互いの主張やその理由を明確にして具体例も用いながら説明する。

6年 海洋教育ストーリーマップ ○単元名「海と人を通して見えた大牟田のまち」 ○海洋教育のキーワード「海を守る・海を活用する」 ○配時 19 + α (国語と関連)

○めざす子どもの姿

大牟田市が抱える課題に目を向け、大牟田市長や青年会議所の方々、三池港で働く方々、世界遺産・文化財室の方々との交流から学んだ事をいかにしながら、日本や外国の町作りの事例を調べ、有明海や三池港の魅力を活かした町作りを考え、まちづくりを進めている方々に提案することができる。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
課題設定											
<p>大牟田ではたらく人はどんな思いをもっているの？</p> <p>○市長や世界遺産・文化財室、青年会議所、三池港で働く方との交流を通して、大牟田に対する考えや、大牟田市の課題を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔はたくさんの方が大牟田に来て働き、活気のある町だった。けれど、どんどん人口が減っているね。 ・大牟田の町は三池港があったり栄えたり、有明海の恵みをたくさんもらっていたりしたんだね。 ・近代化遺産は大牟田の誇れる宝だ。大牟田の町は、かつて、これからの時代を引っ張っていく町だった。 <p style="text-align: right;">配時⑥</p>											
課題追究											
<p>團琢磨さんのようにこれからの大牟田のまちを考えよう！</p> <p>○大牟田の抱えている課題から、課題を解決できそうな事例を調べ、これまでの海洋教育の内容や、有明海、三池港などを関連させたまちづくりを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が多いという課題から、栄養価も高い海苔を作った栄養食を提供する店があってもいいと思う。 ・空き家が多いという課題から、空き家水族館を作って、観光地化するというと思う。 ・干満の差を利用した干潟公園を作ると、町のイメージアップになるよ。 <p style="text-align: right;">配時⑥</p>											
行動・発信・振り返り											
<p>「まちづくりフェスティバル」を開催しよう！</p> <p>○青年会議所、産業振興課や観光おもてなし課の方を招待し、「まちづくりプレゼン大会」を開催する。</p> <p style="text-align: right;">配時③</p> <p>学習を振り返ろう！</p> <p>○学習の振り返りを行い、自分たちの学習の価値を実感する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが考えたまちづくりが、これからの大牟田のまちづくりのヒントになった。これからはアイデアを出したり、自分も活気ある町作りに協力したりしていきたい。 <p style="text-align: right;">配時①</p>											

【1学期】	【2学期】	【3学期】
<p>《社会》 「新しい時代の幕開け～近代国家に向けて」</p> <p>【関連：A-②】</p> <p>○大日本帝国憲法の発布や日清・日露戦争、不平等条約の改正、科学の発展などについて調べ、明治中・後期から大正期にかけて国力が充実し、国際的地位が向上したことを知る。</p>	<p>《国語》 「資料をいかして呼びかけよう」</p> <p>【関連：B-①】</p> <p>○複数の資料から情報を読み取り、資料を効果的に活用して自分の考えを表す文章を書くことができる。</p>	<p>《社会》 「私たちの暮らしを支える政治」</p> <p>【関連：A-①】</p> <p>○区役所が計画や予算案を作り、議会の承認を受けて取り組みをしていることや、公共的な事業は、義務である国民が納める税金によって使われていることを知る。</p>
<p>☆海洋教育学習交流会 7月</p> <p style="text-align: right;">配時⑥</p>	<p>☆海洋教育テレビ会議 11月</p> <p style="text-align: right;">配時③</p>	<p>☆海洋教育こどもフォーラム 1月</p>
<p>教科等との関連</p> <p>教科等関連の視点の表記 内容の関連→A 方法の関連→B ・強化する→① ・付加する→② ・補完する→③ 例) 内容の補完 ↓ 【関連：A-①】</p>		

海と人を通して見えた町

課題設定

課題追究

行動・発信



- 三池港クルージング
- 国語「町の幸福論」



私たちの住む大牟田には、こんなに課題があるんだ。どうしたら賑わう大牟田になるか考えていこう。



- 3校TV会議
- インターネット、本（GTとの意見交換）



他の学校が川のこと等を勉強していて、初めて知る有明海のことがたくさんあったな。



- 海洋教育子どもサミットin大牟田
- 海洋教育全国サミット



自分たちが考えた「町づくりのプラン」を実行するために、今自分たちができることに取り組んでいこう。



《海に親しむ・海を守る》
 6年 単元名「海と人を通して見えたまち」(19+α時間)

1 単元の目標

大牟田市が抱える課題に目を向け、大牟田市長や青年会議所の方々、三池港で働く方々、世界遺産・文化財室の方々との交流から学んだ事をいかしながら、日本や外国の町作りの事例を調べ、有明海や三池港の魅力をいかした町作りを考え、まちづくりを進めている方々に提案することができる。

《知識・理解》

有明海の魅力と人間生活のつながりを学習することを通して、有明海の魅力が人間生活を豊かにしていることを理解し、その探究の技能を身につけている。

《思考力・判断力・表現力等》

有明海と町づくりとのつながりを探求したり、大牟田を盛り上げていくために有明海を活かした町おこしプランを考えたりしながら表現する。

《学びに向かう力・人間性等》

自分たちが考えた町づくりプランを実行するために、今の自分にできることから行動し、広めようとする。

2 単元の指導計画

配時	学 習 活 動	☆外部連携 ※指導上の留意点
6 時 間	<p>大牟田ではたらく人はどんな思いをもっているの？</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市長や世界遺産・文化財室、青年会議所、三池港で働く方との交流を通して大牟田に対する考えや大牟田市の課題を知る。(6) ・大牟田の町は三池港があって栄えたていたんだ。 ・昔はたくさんの人が大牟田に来て働き活気のある町だったんだ。 ・三池港の水は、テレビなどで見る他の海よりも汚れていそうだ。 ・近代化文化遺産は大牟田の誇れる宝だね。 ・時代とともに、だんだんと人口が減ってきているね。 ・人口が減ることで、空き屋が増える問題がでてきた。 	<p>※総合的な学習の時間で学習した海洋に関する学習を想起させ、身近にある三池港や有明海的环境に目を向けさせる。</p> <p>☆「青年会議所や世界遺産・文化財室、大牟田市みなと振興室」へ協力依頼し、それぞれの取組や願いについて話をしてもらう。</p>
9 時 間	<p>暖琢磨さんのようにこれからの大牟田のまちを考えよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大牟田の抱えている課題から、課題を解決できそうな事例を調べ、これまでの海洋教育の内容や有明海の家産物、三池港などを関連させたまちづくりを考える。(6) 本時 10/19 ・高齢者が多いという課題から、栄養価の高い海苔を使った栄養食を提供する店があってもいい。 ・干満の差を利用した干潟公園を作ると、観光客が多く訪れてくれそうだ。 <p>自分ができること何か考えよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分達が考えた町の提案から、できることを考える。(3) ・プラスチックのゴミが海や川に流れないようにしよう。 <p>海洋教育テレビ会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分達が考えたまちづくりプランを他校に発信し、交流する。 	<p>※国語「資料をいかして呼びかけよう」「町の未来をえがこう」と関連させて指導し、学びが深まるようにする。</p> <p>※インターネットや図書の本などを活用させるとともに、事前に複数の資料を用意しておく。</p> <p>☆TV会議が円滑に進めることができるように、事前に他校の発表内容を子ども達に知らせ、質問の内容を考えておく。</p>
4 時 間	<p>「まちづくりプレゼン」を開催しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 青年会議所、産業振興課や観光おもてなし課の方を招待し、「まちづくりプレゼン会」を開催して、三池港・有明海的环境保全を呼びかける。 ・実現するためには、自分達が考えたことよりもたくさんの予算と時間がかかるんだ。 ・青年会議所の方々が自分達の考えを取り入れて会社に活用してくれるそうだ。 <p>海洋子どもサミット</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分達の学習内容を他校の子ども達と交流し合う。 <p>学習を振り返ろう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の振り返りを行い、自分たちの学習の価値を実感する。 ・自分達が考えたまちづくりのヒントになった。これからもアイデアを出したり活気あるまちづくりに協力したりしていきたい。 	<p>☆事前に青年会議所や大牟田市広報課に連絡をし、発表資料を送付しておく。</p> <p>※ワークショップ型の交流にすることで、全員が発表できるようにし、GTには興味のあるものを聞くことができるようにする。</p> <p>☆海洋子どもサミットに向けて学校間で連絡を密にし、交流の仕方などを決めておく。</p>



《海に親しむ・海を守る》

6年 単元名「海と人を通して見えたまち」(10/19時間)

3 本時の目標

大牟田市の課題を調べて考えたまちづくりプランをもとに、まちづくりプランがよりよいものになるために話し合い、お互いの意見を取り入れたりしながら具体的なまちづくりプランをつくることができるようにする。

4 本時の指導計画

配時	学 習 活 動	☆外部連携 ※指導上の留意点
10分	<p>自分が調べてつくったまちづくりプランを、同じ大牟田の課題を調べた友達に提案しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人口減少・ゴミ問題・空き家問題などの各課題ごとにグループを作り、自分の考えたまちづくりプランを提案する。 <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少を止めるためには、観光客を呼べるような公園を作る。 ・ゴミ問題を解決するためにはポイ捨ての合い言葉を作るといい。 ・空き家問題を解決するために、空き家を水族館にするといい。 ・高齢者が多いので海苔などを使ったお弁当屋さんをつくりたい。 ・ペットボトルや空き缶などを海岸で捨てる人が多いからクリーンアップ運動などのイベントをするといい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>同じ課題から考えたまちづくりプランを話し合い、よりよいまちづくりプランをつくろう。</p> </div>	<p>※前時までには考えたまちづくりプランを画用紙にまとめ、視覚化させることで、話し合いを円滑に進めさせるようにする。</p> <p>※共通点や差異点、関連づけさせられるような考え、考えと考えを包括し、新しい考えをつくることのできるのかなどの視点を持たせ、交流させる。</p>
30分	<p>グループで話し合い、よりよいまちづくりプランをつくろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ お互いの考えについて話し合い、まちづくりプランを作ろう。 <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少の課題では、観光客を呼び、大牟田に住んでもらいたい。そこで、干潟公園を作って、観光スポットを作ろうと考えた。友達が考えた海産物を利用した料理を海浜公園の近くに設置すると、より観光客を呼ぶことができると思う。 ・ゴミ問題の課題を解決するためには、投票ゴミ箱を作ろうと思っていたけれど、合い言葉も一緒にゴミ箱に書くともっと良いと思う。 ・高齢者が多くなっていくので、健康に長生きしてもらいたい。栄養価の高い海産物のよさをもう一度見直し、海苔を使った料理をしようと考えた。友達が調べたアサリも栄養が高いので、アサリと海苔を使った料理を作り、お弁当にしたらどうかな。 ・マイクロプラスチックは世界的な問題で、有明海も同じようなことが言えると思う。プラスチックゴミを出さないために使い捨てストローを使わないようにしようと思う。友達もたくさんプラスチックゴミの減少方法を調べていたので活用しよう。 	<p>※ホワイトボードや模造紙を使って自由に意見を交流できるように、交流するためのツールを用意しておく。</p> <p>※具体的なまちづくりなのか、実現可能なまちづくりなのか、お互いで議論させる。</p> <p>※個人が使った資料をグループで持ち寄り、さらに複数の資料からまちづくりプランを考える。</p>
5分	<p>学習を振り返ろう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の振り返りを行い、今後の取組への意欲をもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・今日は同じ課題を持つ人と交流し、お互いの意見を取り入れながらまちづくりを考えることができた。 ・他のグループはどんなまちづくりを考えたのかな。 	<p>※本時学習で、今後の見通しがもてたことを確認し、課題解決への意欲を高めるようにする。</p>

【他教科等との関連項目】

社会科「新しい時代の幕開け～近代国家に向けて」(9月～10月)

- 大日本帝国憲法や日新・日露戦争などについて調べ、明治中期・後期から大正期にかけて国力が充実したことを知る。

国語科「資料をいかして呼びかけよう」

- 複数の資料から情報を読み取り、資料を効果的に活用して、大牟田市の課題について自分の考えをつくる。

国語科「町の未来をえがこう」

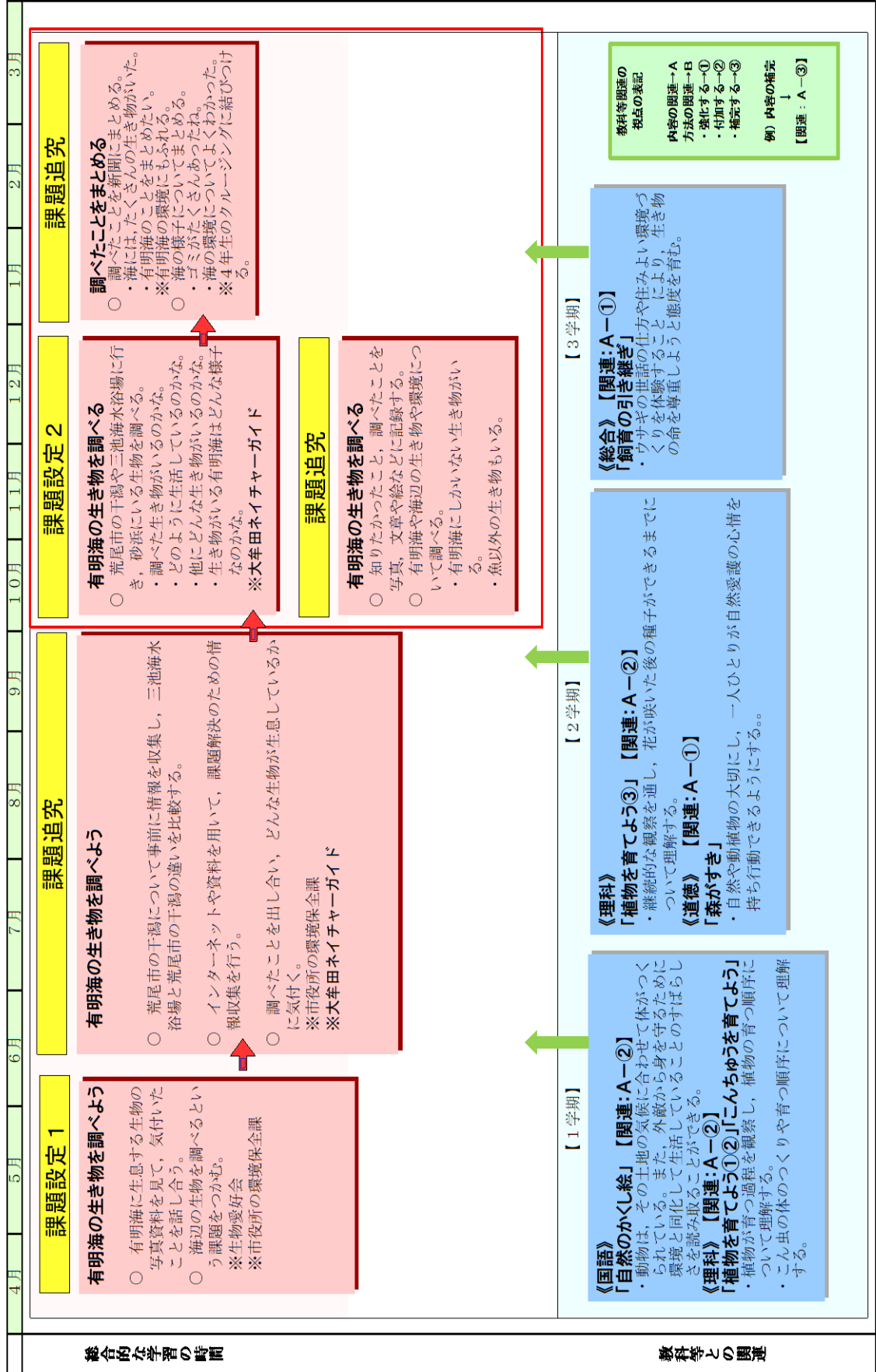
- 複数の資料から読み取った情報を、大牟田のまちの課題を解決するために活用し、資料を効果的に活用して発表する。

社会科「私たちの暮らしを支える政治」(12月)

- 市民の願いが市の政策になるまでには、市役所が計画や予算案をつくり、議会の承認を受けて取り組みをしていることや、公共的な事業は、義務である国民が納める税金によって使われていることを知る。

3年「海辺の生物を調べよう」ストーリーマップ

○めざすこと：三池海水浴場と荒尾市の干潟を調べ、荒尾市の豊かさに親しみ、有明海のよさを調べて、友達に発信する。



海辺の生き物を調べよう

課題設定

課題追究

行動・発信



・有明海の干潟や生き物についての
ゲストティーチャーの話



有明海にどんな魚や貝がいるのか
なあ。干潟ってどんな所だろう。行っ
てみたいなあ。



・干潟体験
・ゲストティーチャーの話



こんな生き物、はじめて見た。
何だろう。



・有明海特有の生き物の調査と記録
・有明海の海岸の様子の記録



有明海の干潟って、いろいろな生き
物がいるんだね。
干潟に来てはじめて分かったことが
たくさんあったね。

《海に親しむ》
3年 単元名「海辺の生物とふれ合おう」(5時間)

1 単元の目標

三池海水浴場を調べる活動を通し、有明海の豊かさに親しみ、有明海のよさを調べて、友達に発信することができるようにする。

《知識・技能》

有明海の生き物についての生態と環境のつながりを理解するとともに、干潟の生き物にはそれぞれ特徴があり、多種多様に存在していることを知ることができる。

《思考力・判断力・表現力等》

多様な生き物が生息することのできる有明海のよさやそこにすむ生き物の特徴を、身近な人に伝えることができる。

《学びに向かう力・人間性等》

進んで有明海に生息する生き物にふれあい、そこにすむ生き物たちのよさを感じ、生き物新聞を通して意欲的に見つけた生き物の種類や特徴を発信しようとするすることができる。

2 単元の指導計画

配時	学 習 活 動	☆外部連携 ※指導上の留意点
1時間	<p>有明海には、どのような生き物がすんでいるのだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生活経験より、有明海の生き物について話し合う。(1) <ul style="list-style-type: none"> 野間川には、小さな魚がいたよ。 ・海には海の魚がたくさん住んでいそうだね。 ・貝もいるよ。貝取(潮干狩り)にいったことがあるよ。 ○ 有明海に住む生き物や干潟についてG Tの話聞き、海辺の生き物探しについての関心を高める。(1) <ul style="list-style-type: none"> ・思っていたより、いろいろな生き物がいそうだな。 ・たのしみだなあ。はやく行きたいなあ。 	<p>※有明海は「干潟」と呼ばれる特別な海であることを伝え、干潟やそこに生息する生き物への関心を高める。</p> <p>☆「有明海を守る会」へ協力依頼をし、干潟や有明海に住む生物について話をさせていただく。</p>
2時間	<p>海辺の生き物について調べよう！ 本時 2・3/5</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 干潟へ行き、有明海に住む生き物について調べる。(1) <ul style="list-style-type: none"> ・泥の下に何かいるよ。 ・これは何かな。ゲスト・ティーチャーの方に後で聞いてみよう。 ・これ、図鑑でみたことあるよ。本物を見るのは、初めてだなあ。 ・他にもいろいろいそうだなあ。もっと、さがしてみよう。 ○ 収集した生き物を持ち寄り名前や簡単な生態を調べる。(1/2) <ul style="list-style-type: none"> ・わあ、すごいなあ。こんなに集まったよ。 ・あれは、何かなあ。ぼくが見つけた生き物にはなかったよ。どうやって見つけたのかな。 ・あっ、それ、わたしも見つけたよ。 ・有明海にしかない生き物もいるんだな。 ・干潟って、特別な海なんだな。 ○ G Tより、有明海(干潟の海)やそこに生息する生き物についての話を聞く。(1/2) <ul style="list-style-type: none"> ・もっと、さがしたいな。 ・学校で、もっと調べてみたいなあ。 	<p>※事前に安全指導と準備物の確認を行い、安全の確保に努める。</p> <p>☆「有明海を守る会」へ協力依頼し、生き物探しへの同行と、収集した生き物についての話をさせていただく。</p>
2時間	<p>有明海で見つけた生き物をまとめよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 干潟で調べた有明海の生き物を新聞にまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・海には、たくさんの生き物がいました。 <p>学習を振り返ろう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習を振り返り、自分たちの学習の価値を実感する。(1) <ul style="list-style-type: none"> ・有明海の干潟には、どんな生き物がすんでいるのか伝えることができました。 ・有明海にしかない生き物もいるから、有明海を大切にしたい。 	<p>※伝えたい相手・内容を意識させて新聞にまとめさせる。</p> <p>※新聞を見せた感想などをもとに、今までの学習活動を振り返らせ、学習の価値づけをする。</p>



<<海を守る>>
 3年 単元名「海辺の生物とふれ合おう」(2・3/5時間)

3 本時の目標

前時に学習した有明海とそこに住む生き物について、生き物調べを通して郷土の「宝の海」である有明海と有明海特有の生き物に親しみ、海洋教育への関心を高めることができるようにする。

4 本時の指導計画

配時	学 習 活 動	☆外部連携 ※指導上の留意点
10分	<p>有明海の生き物調べをしよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの学習を振り返り、本時学習のめあてを確かめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・有明海の生き物調べをします。楽しみだなあ。 ・干潟って特別な海だから、海についても調べたいなあ。 ・けがをしないように、気をつけて調べます。道具はだいじょうぶです。 ○ ゲスト・ティーチャーの方々を紹介され、注意事項（安全面、探し方等）を確かめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;"> 有明海の生き物探しをしよう。 </div>	<p>※事故やけがが無いように、事前に安全面の指導と準備物の確認を行う。</p>
70分	<p>海辺の生き物を調べよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小グループに分かれて、生き物探しをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・わあっ、これは何だろう。いっぱいいるよ。 ・この前、ゲスト・ティーチャーの方に写真で見せてもらった生き物を見つけたよ。あっ、それと同じだね。 ・ここにも、いるよ。あっちにも行ってみようよ。 ○ 収集した物を持ち寄り、GTの方々の説明を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ・へえ。あれは、有明海にしかないお魚（貝）なんだ。どうしてなんだろう。わけを知りたいなあ。 ・もっとさがしてみたいなあ。 ・学校で、もっと調べてみたいなあ。 	<p>※同行のGT「有明海を守る会」の方々と引率教師で各グループに分担して付き、安全確保に努める。</p> <p>☆GTの方々より、収集した生き物について説明して頂き、有明海の生き物についての理解を深める。</p>
10分	<p>学習を振り返ろう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の振り返りを行い、今後の取組への意欲をもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったなあ。また、来たいなあ。 ・学校に帰ったら、忘れないようにまとめたなあ。 ・お家の人にも教えてあげよう。 ○ 次時学習の計画を話し合う。 	<p>※本時学習の感想から次時の見通しを持たせて、次時学習への意欲付けをする。</p>

【他教科等との関連項目】

理科「植物を育てよう①②③」「こんちゅうを育てよう」（4月～7月）

- 植物が育つ過程を継続的に観察し、開花し種子ができるまでの育つ順序について理解する。こん虫の体のつくりや育つ順序について理解する。

国語「自然のかくし絵」（5月）

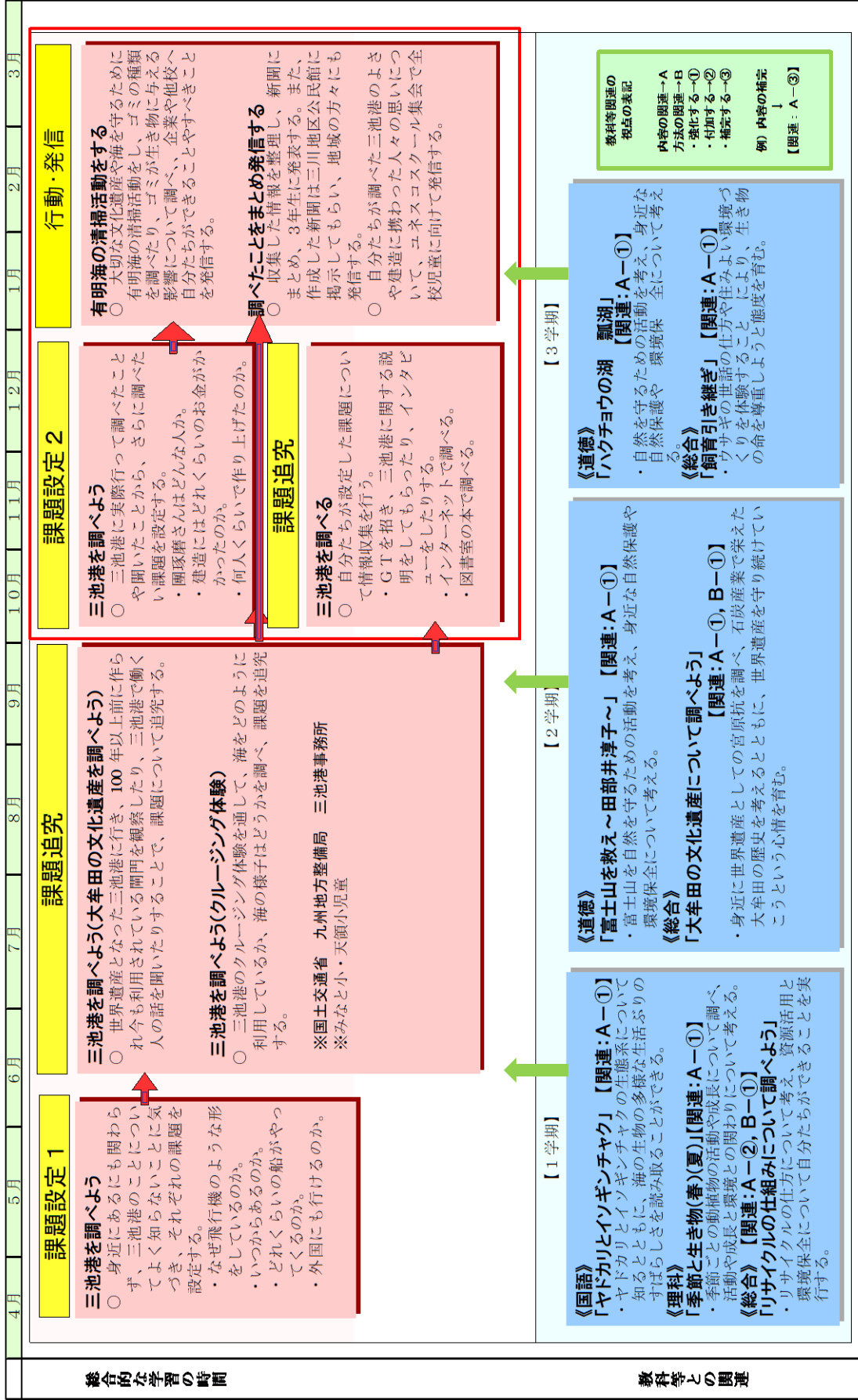
- 動物は、その土地の気候に合わせて体がつくられており、外敵から身を守るために環境と同化して生活していることの素晴らしさを読み取ることができる。

総合「飼育の引き継ぎ」（1月）

- ウサギの世話の仕方や住みよい環境づくりを体験することにより、生き物の命を尊重しようとする態度を育む。

4年「三池港を調べよう」ストーリーマップ

○めざすことの意味：世界遺産「三池港」について関心をもち、その役割や歴史について調べ、三池港のよさ（すごさ）や建造に携わった人々の思いに気づき、それについて新聞にまとめて発信することができる。



三池港を調べよう

課題設定

- ・大牟田の文化遺産を調べよう
- ・三池港についての課題作り



どうしてハチドリのような形をしているのかな。



何のために門があるんだろう。

課題追究

- ・三池港見学
- ・有明海クルージング



大きな船を港に入れるために、閘門で深さの調整をするんだね。



海洋環境整備船って、どうして掃除をしているのかな。

行動・発信

- ・有明海の環境調査と清掃活動



こんなにあったよ。あっちにも落ちているよ。いっぱいあるなあ。



このゴミは、どこからやって来るのかな。



《海を知る》
4年 単元名「三池港を調べよう」(7時間)

1 単元の目標

世界遺産「三池港」について関心を持ち、その役割や歴史について調べることを通して、三池港の価値や建造に携わった人々の思いに気づき、それについて新聞にまとめて発信することができるようにする。

《知識・理解》

世界遺産である三池港の歴史や役割を理解するとともに、三池港のクルージングや海上環境整備船の見学を通して、三池港周辺のごみの問題で環境が変化していることを理解することができる。

《思考力・判断力・表現力等》

三池港の歴史と大牟田の発展の関連性を探究したり、有明海の環境を守るために自分たちができることを考えたりすることができる。

《学びに向かう力・人間性等》

三池港を守るために意欲的に清掃活動を行い、環境を守っていこうとする意欲を高めることができる。

2 単元の指導計画

配時	学 習 活 動	☆外部連携 ※指導上の留意点
2時間	<p>三池港について話し合おう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 三池港について知っていることを出し合い、学習計画にせまる。 <ul style="list-style-type: none"> ・3年生で、干潟の生き物探しに行ったよ。(1) ・遠くに棒がいっぱいたっていたよ。 ・家族で釣りや潮干狩りにいったことがあるよ。 ・子ども大牟田検定ガイドブックで、三池港の写真を見たことがあるよ。 ○ 船に乗り、海から港湾施設と海岸を見学することや、海上環境整備船を見学することを知り、学習の見通しを持つとともに、三池港や閘門について下調べ(事前学習)をしておく。(1) 	<p>※3年生での有明海の生き物探しを想起させ、4年生での海洋教育学習に対する関心を高める。</p>
2時間	<p>三池港を調べよう！ 本時3・4/7</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 天領小学校の体育館で、三池港や海上環境整備船について事前学習を受ける。(1) <ul style="list-style-type: none"> ・三池港は、石炭を運ぶために造られたんだね。 ・閘門の仕組みって、すごいなあ。 ・早く行って、乗りたいなあ。見たいなあ。 ○ 三池港をクルージングし、海上から三池港を調べる。(1) <ul style="list-style-type: none"> ・これが閘門かあ。近くで見ると、本当に大きいなあ。 ・あれが、人工島？はじめて見た。 ○ 海上環境整備船に乗船して話を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ・これ、図鑑でみたことあるよ。本物を見るのは、初めてだなあ。 ・大きなシャベルだな。1回でどれくらいのゴミが取れるのかな。 ・どこからこんなにゴミが出るんだろう。 ・学校で、もっと調べてみたいなあ。 	<p>※事前に安全指導と準備物の確認を行い、安全の確保に努める。また、3校合同での学習となるので、事前に乗船・見学割をししておく。</p> <p>☆国土交通省(九州地方整備局・三池港事務所)へ協力依頼をし、三池港クルージングと海上環境整備船への乗船・見学をさせて頂き、説明をして頂く。</p>
3時間	<p>三池港のゴミ問題について考えよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 有明海クルージングを振り返り、三池港のゴミの問題について見通しを持ち、調べる計画を立てる。(1) <ul style="list-style-type: none"> ・三池港のごみを拾ってきれいにしたいなあ。 ・海には、たくさんのゴミがありそうだ。どんなゴミがあるのか調べたいなあ。 ○ 有明海(旧三池海水浴場)へ行き、清掃活動を行い、単元学習を振り返る。(2) <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな、ゴミがあるなあ。 ・どこから出たゴミかなあ。分別しながら拾ってみよう。 ・次は、ゴミがどこから出るのかを調べてみたいなあ。 	<p>※安全面に十分配慮しながら、清掃道具の準備と事前指導を行う。</p> <p>※今までの学習活動を振り返らせ、学習の価値づけをする。</p>



《海を知る》
4年 単元名「三池港を調べよう」(3・4/7時間)

3 本時の目標

クルージング船に乗って海から三池港を眺めながらGTの話の聞いたり、海上環境整備船の説明の聞いたりして、三池港が世界遺産になった理由に納得したり、「宝の海」のはずの有明海にゴミがたくさん流れていることに疑問を持ったりしながら、海洋教育への関心を高めることができるようにする。

4 本時の指導計画

配時	学 習 活 動	☆外部連携 ※指導上の留意点
10分	<p>三池港を調べるための説明を聞こう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの学習を振り返り、本時学習のめあてを確かめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・三池港を、船に乗って海から見学するのが楽しみだなあ。 ・海上清掃船って、本当に必要なのかなあ。 ○ ゲスト・ティーチャーの方々を紹介され、三池港や海上環境整備船に関わる説明と見学上の諸注意を受ける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">世界遺産にもなっている三池港の役割や歴史を調べよう。</p> </div>	<p>※天領小学校での合同座学が計画されているため、事前に三池港について概要や用語等を学習しておく。</p>
70分	<p>三池港を調べよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小グループに分かれて、クルージング船に乗って三池港を見学する。 <ul style="list-style-type: none"> ・三池港って、とても広いなあ。 ・わあっ、閘門は写真で見たより、とても大きいなあ。 ・あんな大きな船も入ってこれるんだ。閘門の仕組みってすごいなあ。 ○ 小グループに分かれて、海上環境整備船を見学する。 <ul style="list-style-type: none"> ・図鑑で見るより大きなシャベルだなあ。こんな大きなシャベルで何を取るんだろう。 ・すごい。どこからこんなにゴミが出るんだろう。 ・学校で、もっと調べてみたいなあ。 ・大雨の時には、川から木やごみがたくさん流れてきたんだね。 	<p>※引率教師で各グループに分担して付き、安全確保に努める。</p> <p>☆GT（国土交通省）の方々より、海上環境整備船の仕組みや役割、ゴミの現状（量や種類）等について説明して頂き、有明海のごみや海上の清掃活動についての理解を深めることができるようにする。</p>
10分	<p>学習を振り返ろう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の振り返りを行い、今後の取組への意欲をもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・三池港は広がったなあ。閘門は大きかったなあ。 ・有明海のたくさんのゴミの出所について調べてみたいなあ。 ・学校に帰ったら、忘れないようにまとめたなあ。 ・お家の人にも教えてあげよう。 ○ 次時学習の計画を話し合う。 	<p>※本時学習の感想から次時の見通しを持たせて、次時学習への意欲付けをする。</p>

【他教科等との関連項目】

理科「季節と生き物(春)(夏)」（4月、6月）

- 植物ごとの動植物の活動や成長について調べ、活動や成長と環境との関わりについて調べる。

国語「ヤドカリとイソギンチャク」（5月）

- ヤドカリとイソギンチャクの生態系について知るとともに、海の生物の多様な生活ぶりの素晴らしさを読み取ることができる。

総合「飼育の引き継ぎ」（1月）

- ウサギの世話の仕方や住みよい環境づくりを体験することにより、生き物の命を尊重しようとする態度を育む。

5年「森・川・海」のつながりから環境問題を考えよう ストリーマップ

○ぬぎすこどもの森：校区を流れている野間川を調査することで、川の環境の変化が自分達の生活と深く関わっていることに気付き、地域の環境を守るために自分達にできることを考えるとともに、川が海に与える影響を調べ、海の環境を守るためには森の環境を守らなければならないことに気付き、森・川・海をつながりを見出すことができる。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合的な学習の時間	<p>課題設定 1</p> <p>野間川の水や生き物を調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> メダカの学習から、身近に感じていたメダカが絶滅危惧種であることを知り、地域を流れる野間川の水質や生き物について調べたいという思いを持つ。 川を探検したり、水質調査をしたりして課題を確かむ。 市役所の環境保全課 地域の方々の話 <p>行動・発信・振り返り</p> <p>川を守る活動を考え実践しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 明らかにした課題をもとに「自分で」「みんなで」出ることを話し合う。 故事や洗濯など、生活の中でできることを取り組みよう 友達と協力しながら工夫して実践活動に取り組み。 家族にも伝えて取り組みよう。 ポスターをかって校内にはったり地域のお店や公民館にはってもらうたりしよう。 											
	<p>課題追究</p> <p>川の汚れの原因を調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> インターネットや資料を用いて、課題解決のための情報収集を行う。 調べたことを出し合い、川の汚れの原因に気付く。 市役所の環境保全課 下流の方が、家や工場が多いからだね。 生活排水が大きな原因になってるね。 <p>行動・発信・振り返り</p> <p>川を守る活動を考え実践しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 明らかにした課題をもとに「自分で」「みんなで」出ることを話し合う。 故事や洗濯など、生活の中でできることを取り組みよう 友達と協力しながら工夫して実践活動に取り組み。 家族にも伝えて取り組みよう。 ポスターをかって校内にはったり地域のお店や公民館にはってもらうたりしよう。 											
	<p>課題設定 2</p> <p>川の環境を守ることが海の環境を守ることを調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 川は海につながるから、海の環境にも目を向け、生物や水質について調べたいという思いを持つ。 海の環境も昔と変わっているのかな。 海の環境を守る取り組みについて調べてみたいな。 <p>課題追究</p> <p>海の環境を調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 海の変化と生き物のくらしについて調べる。(海辺の生き物や環境の調査に行くことを計画) 埋め立てや護岸工事が海の生き物に影響を及ぼしててるよ。 川から流れる生活排水で赤潮などの環境問題が起きてるよ。 											
教科等関連の	<p>課題追究</p> <p>海の環境を調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 海の近くに住む人々に話を聞く。 海の近くに住む人々は海の恵みを利用して暮らしているんだね。 海に近い学校と交流をする。 川の環境を守ることが、海の環境を守ることにつながっているね。 <p>森の環境を調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 豊かな海を育むための森の役割について調べる。(水源観察に行くことを計画) 海の朱鷺は森の環境と大きくかかわっているんだね。 海の生き物を守るために、漁師さんか森づくりをすることがあるんだね。 <p>行動・発信・振り返り</p> <p>森と川を守る活動を考え実践しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ポスター、新聞づくり 野間川上流の清掃活動 ESD 発表会 											
	<p>【1 学期】</p> <p>《国語》</p> <p>「動物の体と気候」【関連：A-②】</p> <ul style="list-style-type: none"> 動物は、その土地の気候に合わせて体がつくられていることを知り、環境と動物とのつながりに目を向けることができる。 <p>《社会》</p> <p>「食料生産を支える人々」【関連：A-②】</p> <ul style="list-style-type: none"> 気候の特色や土地を生かした水産業や農業が日本各地で営まれていることに気付き、自然との関わりの大切さについて考える。 <p>【2 学期】</p> <p>《国語》【関連：A-①】</p> <p>「和の文化について調べよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本に昔から伝わり、受け継がれてきた文化について知り、これからも守っていくようとする態度を育てる。 <p>《理科》</p> <p>「流れる水のはたらき」【関連：A-②】</p> <ul style="list-style-type: none"> 流水のはたらきと土地の変化の関係について条件を制御し、調べて、川の動きについて理解を深める。 <p>《道徳》</p> <p>「世界初のトンボ保護区づくり」【関連：A-①】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生物を守っていくために、一人ひとりが行動に移していくことの大切さを感じる。 <p>【3 学期】</p> <p>《社会》</p> <p>「国土の自然とともに生きる」 【関連：A-②】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地球には様々な環境問題が起きていることに気付き、環境を守るための取り組みについて考える。 <p>《道徳》</p> <p>「ひとふみ十年」 【関連：A-①】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然の生態を知り、自然と共に生きていくことの大切さを感じ取る。 <p>教科等関連の</p> <p>視点の表記</p> <p>内容の関連→A 方法の関連→B ・強化する→① ・付加する→② ・補充する→③</p> <p>例) 内容の補充 【関連：A-③】</p>											

森・川・海のつながりから環境問題を考えよう

課題設定

課題追究

行動・発信



- ・野間川の環境調査
- ・ゲストティーチャーの話



有明海につながっている校区の野間川の様子がよく分かりました。



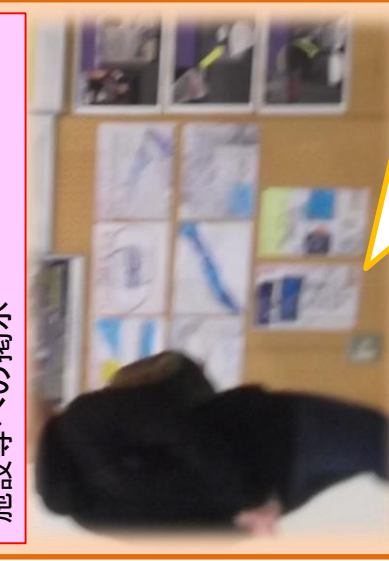
- ・森・川・海のつながりにあついて調べるための環境学習



海を守るためには、川も森も大切にしなければならなかった。



- ・集会等での全校児童への呼びかけ
- ・ポスターの作成と校内や地域の諸施設等への掲示



わたしたちの「宝の海」有明海の環境と一緒に守っていきましょう。そのために川を守る方法を教えます。



《海を守る》
5年 単元名「野間川環境調査隊」(19時間)

1 単元の目標

校区を流れている野間川を調査することで、川の変化が自分達の生活と深く関わっていることに気付き、地域の環境を守るために自分達にできることを考えたとともに、川が海に与える影響を調べ、海の環境を守るためには森の環境を守らなければならないことも気付き、森・川・海のつながりを見いだすことができる。

《知識・理解》

野間川の環境を調査し、海とのつながりを学習することを通して、それらの環境を人間の生活によって汚染していることを理解することができる。

《思考力・判断力・表現力等》

川や海と人間の生活との関連性を探究し、野間川の環境を守るために自分たちができることを考えて発信することができる。

《学びに向かう力・人間性等》

野間川の環境に関心をもって意欲的に調査し、進んで環境問題の解決に取り組もうとすることができる。

2 単元の指導計画

配時	学 習 活 動	☆外部連携 ※指導上の留意点
11時間	<p>野間川の水や生き物を調べよう！ </p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 4年生での清掃活動を振り返り、課題意識を持つ。(2) <ul style="list-style-type: none"> ・海辺にはたくさんのゴミが流れ着いていたね。 ・分別しながら拾ったら、川から流れ出たような物もあったね。 ○ 校区を流れる野間川の水質や生き物を調べる。(3) <ul style="list-style-type: none"> ・川の上流と中流では、水の透明度が違ったね。 本時 3~5/18 ・CODバックテストでも、汚れていくのが分かったね。 ・きれいな川にだけすむ魚がいるかどうかでも違いが分かったね。 ○ 川の汚れの原因を調べる。(4) <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットや関連資料で原因が分かったよ。 ・市役所の環境保全課の方々に実態を教えてもらったよ。 ○ 川を守る活動を考え、発進する。(2) <ul style="list-style-type: none"> ・炊事や洗濯など、生活の中で自分にできることを取り組もう。 ・ポスターをかいて校内に貼ったり、地域のお店や公民館に貼らせてもらおう。 	<p>※4年生での「有明海清掃活動」を振り返らせ、家庭から出たゴミが海まで流れ着いていたことを想起させる。</p> <p>☆「大牟田市役所環境保全課」へ協力を依頼し、河川の流域の環境の変化について話を頂く。</p> <p>☆校区の店舗や公民館に協力依頼し、啓発活動のためのポスターを貼らせて頂く。</p>
5時間	<p>森・川・海のつながりを考えよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 川と海の間隔について知る。(1) <ul style="list-style-type: none"> ・川も海も昔と変わっているのかな。 ・海を守る取り組みについて調べてみたいなあ。 ・社会科で、水産業の人達は海を守るために森を大切にしていること学習したね。 ○ 森の環境を調べよう。(4) <ul style="list-style-type: none"> ・海の栄養は、森の環境と大きく関わっているんだね。 ・海の生き物を守るために漁師さんが森づくりをしているんだね。 	<p>※社会科の学習と関連させ、森の役割や森と海の間隔についての学習を深めていく。</p>
3時間	<p>有明海の環境保全の協力を呼びかけよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 福祉の集いや学習発表会で、作成した物を掲示したり、配ったりして有明海の環境保全の協力を呼びかける。(2+時間外) <p>学習を振り返ろう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習を振り返り、自分たちの学習の価値を実感する。(1) <ul style="list-style-type: none"> ・有明海を守るために大切なことを、地域の方や家庭、全校児童にも伝えることができた。 ・みんなが実行し、野間川や有明海がきれいになって、干潟や生き物が守られるといいなあ。 	<p>※地域の人々に呼びかけるために校区の「福祉のつどい」で発表する。</p> <p>※地域の方の感想などをもとに、今までの学習活動を振り返らせ、学習の価値づけをする。</p>



《海を守る》
5年 単元名「野間川環境調査隊」(3~5/19時間)

3 本時の目標

野間川の環境調査から、森と川と海のつながりの大切さに気づき、森の専門家の話を通して、森・川・海のつながりが環境問題に関係していることについて理解を深める。

4 本時の指導計画 (※移動30分 総合90分 調整15分)

配時	学 習 活 動	☆外部連携 ※指導上の留意点
10分	<p>川と海との関係について考えよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの学習を振り返り、川が海と深いつながりを持っていることを想起し、本時学習への関心を高める。 <ul style="list-style-type: none"> ・川の汚れやごみが海に流れ込んでいるよね。 ・野間川の水はきれいなんだろうか。ごみはあるのかな。 ・野間川の環境はどうなっているのかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;">野間川の環境を調べよう。</div>	<p>☆整った学習環境で森林学習ができるように「大牟田市環境保全課」に協力依頼をし、現地に移動して学習を行う。</p>
70分	<p>野間川の環境を調べよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グループに分かれて野間川の下流と中流の環境を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・環境指標生物を見つけよう。 ・川の水の透視度を調べよう。 ・CODパケットテストをしよう。 ○ 野間川の下流と中流の調査結果を比べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・下流の方が汚れていたね。 ・すんでいる生き物の種類や数が違っていたよ。 ・下流の周りには家が多かったよ。 	<p>☆「大牟田市環境保全課」の方々を招き、水質調査の説明をして頂く。</p> <p>※引率教師で各グループに分担して付き、安全確保に努める。</p> <p>☆「大牟田市環境保全課」の方々から、水質調査の結果を解説して頂く。</p>
10分	<p>学習を振り返ろう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の振り返りを行い、今後の取り組みへの意欲をもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・川の保護活動も海を守るために大切なことを、家族や地域の人達に伝えたい。 ・川をきれいにする活動をしたい。そして、みんなに呼びかけたい。 ・ポスターを作って貼らせてもらったらどうかな。 ・どこかで発表したいなあ。 	<p>※本時学習で、今後の見通しを確認し、野間川の保護活動への意欲を高まるようにする。</p> <p>※発表や呼びかけが「啓発」活動につながることを知らせ、さらなる意欲化を図る。</p>

【他教科等との関連項目】

理科「流れる水のはたらき」(10~11月)

- 流水のはたらきと土地の変化の関係について条件を制御して調べ、川の働きについて理解を深める。

国語「動物の体と気候」(4月)「和の文化について考えよう」(11月)

- 動物は、その土地の気候に合わせて体がつくられていることを知り、環境と動物とのつながりに目を向けることができる。
- 日本に昔から伝わり、受け継がれてきた文化について知り、これからも守っていくとする態度を育てる。

社会「食料生産を支える人々」(6~9月)「国土の自然とともに生きる」(2月)

- 気候の特色や土地を生かした水産業や農業が日本各地で営まれていることに気づき、自然との関わりの大切さについて考えことができる。
- 地球には様々な環境問題が起きていることに気づき、環境を守るための取り組みについて考えることができる。

6年 「大牟田市の環境問題について調べよう」 ストリーマーマップ

○めざすことものの姿：1学期に世界の地球温暖化について調べたことから、大牟田市の温暖化について関心を持ち、二酸化炭素排出量を調べたり、温暖化によって影響を受けた身近な動植物について調べたりして、温暖化が海に及ぼす影響について森や川とのつながりから捉え、自分たちにできることを考えて行動し、その取り組みを発信することができる。

総合的な学習の時間	9月	10月	11月	12月	
教科等との関連	<p>【課題設定】 温暖化の影響によって大牟田の自然環境はどのように変化しているのだろうか。③④</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1学期に学習した世界の環境問題について想起し、大牟田にも環境問題があるのか語り合う。 ・ 5年生で学習した川の環境では、下流に行くにしたがって生活排水で汚れていたね。 ・ 近くの森が最近なくなってきた。 ・ 有明海も汚れてきているのかな。 ○ 温暖化の影響で変化してきた自然環境について市役所の方から話を聞き課題をつかむ。 ・ 大牟田はで平均気温が0.9度上昇している。 ・ 本来生息していない動植物が見られるようになった。 ・ このままでは、今のような生活はできなくなりそうだ。 ・ 何か、対策をとっているのかな。 ・ 自分たちにできることは。 	<p>【課題追究1】 温暖化の原因について知っていることや予想を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 二酸化炭素が大きなき原因になっている。 ○ 市役所の方の話を聞いて、温暖化のメカニズムを知る。 ・ 冷房やテレビ、水道、自動車など、自分たちの普段の生活の中から二酸化炭素が出ている。 ・ 二酸化炭素が大気にたまり、温暖化の原因となっている。 <p>日常生活でどのくらい電力を使い、二酸化炭素を出しているか調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「省エネナビ」を教室に設置し、電気による二酸化炭素の排出量を計測する。 ・ 1日のグラフ、月ごとのグラフにまとめると。 ・ 蛍光灯が学校生活の中では一番電力を使い、二酸化炭素を出している。 	<p>【課題追究2】 温暖化が自然に及ぼす影響について調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 温暖化が有明海に及ぼす影響について調べる。 ・ 塩性湿地を訪れ、有明海特有の生物を見学したり市役所の方の話を聞いたりしよう。 ○ 大牟田の川や森に及ぼす影響について調べる。 ・ 市役所の方の話から、自分が興味を持ったことについて詳しく調べよう。 	<p>【課題追究3】 温暖化を防ぐ活動を考え、実践しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「自分で」「みんなので」できることを考え、実践する。 ・ ふくおかエコエッチングシートを利用して、自分たちにできることを分たろう。 ○ 学校、家庭、地域に自分たちが調べたことや取り組みできたことを発信しよう。 ・ 節電の方法をポスターに書いて学校や地域にばらそう。 ・ 自然エネルギーについて調べて知らせよう。 ・ ESD発表会 	<p>【国語】 「資料を生かして呼びかけよう」【関連:B-①】 ・ 資料の効果を考えながら、自分考えを明確に呼びかけられる。【関連:B-①】 「海のいのち」 ・ 登場人物の自然に対する考え方を読み取り、ブックトークを通して、自分自然に対する考え方を友だちに伝えることができる。</p> <p>【理科】 「水よう液の性質」【関連:A-②】 ・ 身近な水溶液の性質について調べ、生活排水が川に及ぼす影響について考える。 「土地のつくりと変化」【関連:A-②】 ・ 地層の成り立ちについて調べ、川から流れた土が海で地層になっていることを知り、川や海を大切に守っていくこうとする態度を養う。</p> <p>【国語】 「町の未来をえがこう」【関連:B-①】 ・ 複数の資料を讀んで、情報を活用すると共に、意図が伝わるように、資料を効果的に活用して発表する。 【道徳】 「女みこしの誕生(郷土資料)」【関連:A-①】 ・ 郷土をよりよく発展させていくために、困難なことに対して立ち向かっていくすばらしさを感じ得る。</p> <p>【道徳】 「タマゾン川」【関連:A-①】 ・ 自然環境に關する課題について理解し、自ら自然環境を大切にしたいこうとする態度を育てる。</p> <p>教科等関連の 復元の表記 内容の関連→A 方法の関連→B ・強化する→① ・付加する→② ・補充する→③ 例) 内容の補充 ↓ 【関連:A-③】</p>

大牟田の環境問題について調べよう

課題設定



- ・世界の環境問題からの課題づくり
- ・大牟田の環境問題と生態系への影響についてのゲストティチャーの話



地球温暖化が進むと、有明海や大牟田の町はどうなってしまっただろう。

課題追究



- ・塩性干潟の生き物調べ
- ・二酸化炭素による液性の変化調べ
- ・3校合同TV会議



ほかの小学校が調査している内容や環境を守る取り組みについての情報交換ができました。

行動・発信



- ・海洋教育子どもサミットin大牟田
- ・海洋教育全国サミット
- ・温暖化による環境問題と課題解決のための提案の発表



みなさん、私たちと一緒に地球環境を守っていきましょう。

《海を守る》
6年 単元名「大牟田市の環境問題について調べよう」(18時間)

1 単元の目標

1学期に世界の地球温暖化について調べたことから、大牟田市の温暖化について関心を持ち、二酸化炭素排出量を調べたり、温暖化によって影響を受けた有明海の生物について調べたりして、温暖化が海に及ぼす影響について捉え、自分たちにできることを考えて行動し、その取り組みを発信することができるようにする。

《知識・理解》

地球温暖化や海洋の酸性化が二酸化炭素の排出量の増加が原因であることやその環境の変化が大牟田市や有明海の生態系に与えている影響を理解することができる。



《思考力・判断力・表現力等》

自分たちが調べた大牟田の環境問題やその解決のためにできることを効果的に発信することができる。

《学びに向かう力・人間性等》

温暖化による環境の変化に関心をもち意欲的に調査し、進んで課題解決に取り組もうとすることができる。

2 単元の指導計画

配時	学 習 活 動	☆外部連携 ※指導上の留意点
3時間	<p>温暖化の影響によって大牟田の自然環境はどのように変化しているのだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1学期に学習した世界の環境問題について想起し、大牟田にも環境問題があるのか話し合う。(1) <ul style="list-style-type: none"> ・川の環境では、下流に行くにしたがって生活排水で汚れていた。 ・木が最近減っている気がする。 ・有明海も汚れてきているのかな。 ○ 温暖化の影響で変化してきた自然環境について、市役所の方から話を聞き課題をつかむ。(2)  <ul style="list-style-type: none"> ・大牟田は平均気温が0.9度上昇している。 ・本来生息していない動植物が見られるようになった。 	<p>※世界の環境問題の主なものが温暖化であったことを想起させ、大牟田市の環境問題についての関心を高める。</p> <p>☆「大牟田市環境保全課」へ協力依頼し、温暖化による大牟田の自然環境の変化について話をしてもらおう。</p>
14時間	<p>温暖化が自然に及ぼす影響について調べよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 温暖化のメカニズムについて知る。(2) <ul style="list-style-type: none"> ・二酸化炭素が大気にたまり、温暖化の原因となっている。 ・冷房やテレビ、水道、自動車など、自分たちの普通の生活の中から二酸化炭素が出ている。 ○ 日常生活でどのくらい電力を使い、二酸化炭素を出しているか調べる。(1) <ul style="list-style-type: none"> ・1日のグラフ、月ごとのグラフにまとめる。 ・蛍光灯が学校では一番電力を使い、二酸化炭素を出しているな。 ○ 温暖化が有明海に及ぼす影響について調べる。(6) <ul style="list-style-type: none"> ・有明海汽水域には有明海にしかない貴重な生物がいるんだな。 ・海水面の上昇により、干潟がなくなってしまうかもしれない。 <p>温暖化を防ぐ活動を考え、実践しよう！ 本時 13/18</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分たちにできる省エネ活動を考え必要な物を準備する。(5) <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームやテレビ、動画の視聴時間を見直そう。 ・休み時間に人がいない教室の電気を消すように呼びかけて、実行している学級を表彰しよう。 	<p>☆「大牟田市環境保全課」へ協力依頼し、温暖化のメカニズムについて話をしてもらおう。</p> <p>※「省エネナビ」を教室に設置し、電気による二酸化炭素の排出量を計測する。(3ヶ月間)</p> <p>☆「大牟田市環境保全課」「ネイチャーガイド」へ協力依頼し、貴重な生物がいること、温暖化による海への影響について、話をしてもらおう。</p> <p>※自分たちが毎日実行できることを考えさせ、必要な物を準備する。</p>
1時間	<p>有明海の環境保全の協力を呼びかけよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 福祉の集いや学習発表会で呼びかけたり、作成した物を掲示したりして有明海の環境保全の協力を呼びかける。(時間外)  <p>学習を振り返ろう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習を振り返り、自分たちの学習の価値を実感する。(1) <ul style="list-style-type: none"> ・温暖化による有明海の影響を地域の方や家庭、全校児童にも伝えることができた。 ・誰もが実行し、温暖化が軽減され有明海の干潟や生物が守られるといいな。 	<p>※チラシ、ポスター、ステッカー、カードを作り、各クラスや家庭、地域や全国の方に配付し、広める。また、学習発表会や福祉の集い等でも呼びかける。</p> <p>※地域の方の感想などをもとに、今までの学習活動を振り返らせ、学習の価値づけをする。</p>



《海を守る》

6年 単元名「大牟田市の環境問題について調べよう」(13/18時間)

3 本時の目標

これまでに学習してきた川の汚染や温暖化による有明海への影響について、「海の環境保全」の視点から自分たちにできることについて考える。また、取り組みを広めるために、全校児童や家庭、地域の方々へ伝える方法について話し合い、これからの具体的な取組について見通しをもつことができようにする。

4 本時の指導計画

配時	学 習 活 動	☆外部連携 ※指導上の留意点
10分	<p>大牟田の環境を守る活動を考え、実践しよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの学習を振り返り、課題意識を持ち、自分たちにもできることを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・このままではわたしたちの有明海が「宝の海」から「ゴミの海」に変わってしまうね。 ・川の汚染や地球温暖化を防ぐために、何か呼びかける方法はないかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>大牟田の環境を守るために、自分たちが取り組める活動について考え、計画を立てよう。</p> </div>	<p>※自分たちの思いを校区や大牟田市に暮らすみんなに広げることが「啓発」になることを確認させる。</p>
30分	<p>「わたしにもできる大牟田市の環境保護活動」の計画を考えよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分たちにできることを考え、環境保護活動に取り組むことを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの生活を見直して、節電できることを考えよう。 ・ペットボトルやビニルごみを減らすには、どうするといいか考えよう。 ・各学級に節電を呼びかけて、協力してくれた学級を表彰しよう。 ・多くの人に呼びかけるにはどういう発表をするといいか。 ○ 活動内容を決定し、小グループに分かれて、今後の具体的な準備や計画について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ポスターの言葉と絵を役割分担して作ってこよう。 ・発表原稿を考えよう。 ・レイアウトについて、参考になるポスターを探してこよう。 ・各学級へ呼びかける節電の取り組みを考えて、表彰状を作ろう。 ・自分たちにできる取り組みを学級で提案しよう。 	<p>※課題解決に必要な条件を提示し、条件を満たすかどうかの視点をもとに内容を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的(発信)に沿っているか ・実行できそうな活動内容か ・期日までに自分達で準備可能か ・必要な材料や情報が入手可能か <p>※実施可能かどうか児童では判断が難しい内容については、教師からアドバイスする。</p> <p>☆制作物の材料や用具の調達、専門的な情報の収集については、他校や関係機関等へ協力を依頼する。</p>
5分	<p>学習を振り返ろう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の振り返りを行い、今後の取組への意欲をもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・気にかけて電気をこまめに消してくれると嬉しいな。 ・呼びかけを通して、多くの人に環境問題を知ってほしい。 ・多くの人に環境保護活動に取り組んでほしい。 	<p>※今後の見通しを確認し、大牟田の環境保護活動の呼びかけへの意欲が高まるようにする。</p>

【他教科等との関連項目】

理科「水よう液の性質」「土地のつくりと変化」(9月・11月)

- 身近な水溶液の性質について調べ、生活排水が川に及ぼす影響について考える。地層のでき方について調べ、川から流れた土が海で地層になっていることを知り、川や海を大切に守っていこうとする態度を養う。

国語「町の未来をえがこう」(11月)

- 複数の資料を読んで、情報を活用すると共に、意図が伝わるように、資料を効果的に活用して発表する。

道徳「タマゾン川」(1月)

- 自然環境に関する課題について理解し、自ら自然環境を大切にしていこうとする態度を育てる。

有明海干潟観察会



1 目的

有明海の干潟観察を通して、有明海の自然や生息する生物について調べる活動を通して、海に親しみ、海に進んで関わろうとする子どもを育てる。

2 日時 令和元年5月17日（金） 13時30分～16時00分

3 活動場所 荒尾漁協（熊本県荒尾市荒尾27）前 荒尾干潟

4 参加児童

○大牟田市立みなと小学校3年生 34名

○大牟田市立天領小学校3年生 92名

5 指導者

○大牟田市立みなと小学校 3年生担任1名 主幹教諭1名

○大牟田市立天領小学校 3年生担任3名 主幹教諭1名

※ゲストティーチャー 「世界文化遺産『三池港』と有明海を学ぶ会」
「ネイチャーガイドオオムタ 自然案内人」5名

※地域の「子ども見守り隊」の方々 12名

6 日程

13:30 学校出発（貸切バスにて参加者・指導者等の目的地への移動）

13:50 目的地（荒尾漁協前 荒尾干潟）着

13:55 オリエンテーション

14:10 生き物観察・採取

14:50 生き物調べ（採取した生き物についてゲストティーチャーから解説）

15:20 手洗い、片付け、帰校準備

15:30 目的地出発

15:50 学校着（帰校後、ゲストティーチャー等へのお礼の言葉）

7 活動グループ

1班：天領小3年1組（担当 柿川GT） 4班：みなと小3年1組（担当 佐藤GT）

2班：天領小3年2組（担当 伴GT） 5班：みなと小3年2組（担当 松永GT）

3班：天領小3年3組（担当 中嶋GT）

8 準備物

児童：長靴、軍手、着替え用の靴下、水筒、タオル、赤白帽子、着替え入れ用の袋

教師：生き物採取用バケツ（グループ各6）、荷物置き用ブルーシート、救急用具
ガンツメ又はスコップ（児童各1）

《外部連携及び事前準備等》

○「世界文化遺産『三池港』と有明海を学ぶ会」への事前指導（有明海の生き物について）と干潟観察でのゲストティーチャー依頼

○地域「子ども見守り隊」への見守り協力依頼

○目的地移動への貸切バスの手配

○荒尾漁協への干潟観察実施についての事前連絡（手洗い場の使用許可）

海洋教育のねらいの一つである「海の自然に親しみ、海に進んでかかわろうとする子ども達を育てる」ために、天領小学校・みなと小学校の3年生が有明海の荒尾干潟へ干潟観察会に行きました。

干潟観察会では、『世界文化資産「三池港」と有明海を学ぶ会』『ネイチャーガイドオオムタ 自然案内人』の方々をゲストティーチャーとして招き、子ども達と一緒に干潟の生き物採集をしていただき、有明海に生息する様々な生き物の生態について教えていただきました。また、地域の方々にも子ども達の安全見守りをおねがいいただき、子ども達は体験的に「海」について学び、様々な生き物が生息する「海」の素晴らしさを感じ取ることができたようです。



荒尾漁協前の荒尾干潟に天領小・みなと小の子ども達が集合。干潟観察の説明を受けます。



南北約9.1km，東西約3.2kmにもなる広大な荒尾干潟に子ども達も驚きました。



ゲストティーチャーの方々、地域ボランティアの方々と一緒に、干潟観察のスタートです。



潮だまりの中や石と石とのすき間などに、いろいろな生き物が隠れています。



泥に足がはまり込まないように注意深く歩き進みながら、干潟の生き物を探します。



泥の中にも、貝やカニなどいろいろな生き物が潜り込んで生きていました。



先生達も地域ボランティアの方々も、子ども達と一緒に生き物探しに夢中です。



干潟からは、カニやヤドカリ、イソギンチャク、クラゲなど様々な生き物が見つけれられました。



見つけた生き物について、ゲストティーチャーの方から詳しく説明していただきました。

海洋教育推進モデル校学習交流会



1 目的

海洋教育推進モデル校である天領小学校、みなと小学校、天の原小学校の児童が顔を合わせ、各校のこれまでの取り組みや今後の計画を交流することで、児童が主体的に実践を行い、3校が協力して海洋教育を進めていくことができるようにする。

2 日時 令和元年7月16日(火) 13時40分～16時05分

3 会場 大牟田文化会館 小ホール

4 参加児童

○大牟田市立みなと小学校6年生 43名 ○大牟田市立天の原小学校6年生36名
○大牟田市立天領小学校6年生 65名

5 指導者

○大牟田市海洋教育モデル校職員(各校の海洋教育推進協議会ワーキンググループ委員、6年担任)
○「世界文化遺産『三池港』と有明海を学ぶ会」会員の方々
○東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター主幹研究員 及川幸彦 先生
○東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター特任研究員 川上真哉 先生
※大牟田市教育委員会学校教育課指導室 指導主事

6 日程

13:40 はじめの言葉(天領小学校 代表児童) 来賓紹介(天領小学校 主幹教諭)
13:45 講話(東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター 及川 主幹研究員)
・講師紹介(天領小学校 校長)
・講師による講話
14:20 休憩
14:35 日程及び趣旨説明(天領小学校 主幹教諭)
14:40 交流会及・海洋クイズ
①アイスブレイキング(15分間)：自己紹介 → 誕生日順並び替えゲーム → グループじゃんけん
②海洋クイズ(20分間)(「世界文化遺産『三池港』と有明海を学ぶ会」の方々による進行)
③各校の取組紹介(15分間) ※各校5分 代表がステージ上で行う
④感想交流(5分間) ※各グループで
15:35 講評(東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター 川上 特任研究員)
16:00 謝辞(天の原小学校 校長)
16:03 おわりの言葉(天領小学校 代表児童)
16:05 後片付け(ワーキンググループ委員)・帰校(引率:6年担任)

7 児童のグループ分け

○各校児童をそれぞれ12グループに分け、各校グループを合体させて3校混合の12グループを編成し、グループ内交流を行う。

8 準備物

児童:探検バック、水筒、発表提示資料
教師:救急用具、記録用カメラ

《外部連携及び事前準備等》

- 東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターへの講師依頼と打合せ
- 「世界文化遺産『三池港』と有明海を学ぶ会」へのゲストティーチャー依頼と打合せ
- 会場移動への貸切バスの手配
- 「大牟田文化会館」への会場・必要機器等の借用申請
- 保護者・地域への案内状の作成と配付
- 会場設営(横断幕, プロジェクター, パソコン, ポスター・案内等の掲示)

大牟田市海洋教育推進モデル校であるみなと小、天領小、天の原小の6年生が、大牟田文化会館に集まり、「海と人との共生」について今まで学んできたことやこれから取り組んでいくことについて発表・交流しました。

子ども達は、「世界文化遺産『三池港』と有明海を学ぶ会」の方々による有明海の生き物クイズを解いたり、講師の及川先生の話や各校の取組の発表を聞いたりしながら、楽しい雰囲気の中で交流を行い、これからの海を通した学習に意欲を高めていました。



①

大牟田文化会館小ホールに、みなと小学校、天領小学校、天の原小学校の6年生全員が集合し、学習交流会がスタート。



②

東京大学の及川先生から、大牟田で海洋教育の学習を行う意義や学習の進め方などについてお話をいただきました。



③

初めて出会った3校の6年生が、これから仲良く交流できるように、3校混合グループで楽しくゲームをしました。



④

「世界文化遺産『三池港』と有明海を学ぶ会」の方々から、海の環境や生き物についてのクイズを出してもらいました。



⑤

各学校の海洋教育の取組についてお互いに発表し合い、グループで取組についての感想を交流しました。



⑥

最後に及川先生から、各校の取組の特色やよさ、これからの学びの可能性などについてお話をいただきました。

「三池港」見学・クルーズ



1 目的

海の環境や船舶を用いた人や物の輸送・災害と海など「海を知る・守る・活用する」観点から、三池港とその成り立ちについて実際に学ばせるとともに、海洋教育推進協力校の児童がともに学ぶ機会をもち、互いの親交を深めさせる。

2 日時 令和元年11月18日(月) 13時20分～16時00分

3 会場 天領小学校 及び 三池港

4 参加児童

- 大牟田市立天の原小学校4年生 42名 ○大牟田市立みなと小学校5年生 40名
- 大牟田市立天領小学校6年生 66名

5 指導者

- 国土交通省九州地方整備局博多港湾・空港整備事務所職員 ○大牟田市役所職員 2名
- 大牟田市立みなと小学校 5年生担任2名 主幹教諭1名 校長1名
- 大牟田市立天領小学校 6年生担任2名 主幹教諭1名 校長1名
- 大牟田市立天の原小学校 4年生担任2名 主幹教諭1名 校長1名

6 日程

○講話（進行：天領小主幹）

- (1) 始めの言葉（司会）
- (2) 学校長あいさつ（天領小学校長）
- (3) 講話「有明海と災害」

国土交通省 九州地方整備局 博多港湾・空港整備事務所

- (4) 質疑・応答
- (5) 終わりの言葉（司会）

○三池港見学

《 見学組み合わせ 》

Aグループ 73名 (1号車)	天領小6年1組 33名
	みなと小5年生 40名
	上記の73名を3つのグループに分ける A1 25名(天領小11名+みなと小14名) A2 24名(天領小11名+みなと小13名) A3 24名(天領小11名+みなと小13名)
Bグループ 75名 (2号車)	天領小6年2組 33名
	天の原小4年生 42名
	上記の73名を3つのグループに分ける A1 25名(天領小11名+天の原小14名) A2 25名(天領小11名+天の原小14名) A3 25名(天領小11名+天の原小14名)

《 見学順 》

	Aグループ	Bグループ
14:00	A1 あいあい広場 見学	三池港内クルーズ
?	A2 三池港閘門 説明	
15:00	A3 清掃船「海煌」 見学	
15:00	三池港内クルーズ	B1 あいあい広場 見学
?		B2 三池港閘門 説明
16:00		B3 清掃船「海煌」 見学

7 準備物

- 児 童:探検バック、赤白帽子、筆記用具
- 教 師:救急用具

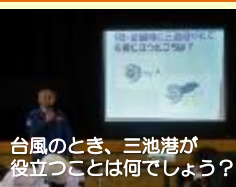
《 外部連携及び事前準備等 》

- 国土交通省九州地方整備局博多港湾・空港整備事務所への出前講座依頼
- 参加児童のグループ分け(港湾事務所の計画による)
- 目的地移動への貸切バスの手配

みなと小学校、天領小学校、天の原小学校の子どもたちが、海洋教育の学習の一環として、世界文化遺産「三池港」の見学・クルーズを行いました。この三池港見学・クルーズは、国土交通省九州地方整備局博多港湾・空港整備事務所の方々に「三池港のひみつ探検」というプログラムを組んでいただき、三池港が作られた歴史的な背景やその働き、現在の三池港の施設や海運における働きなどについて実際に見学しながら学ばせてもらうものです。クルーズ船による海からの三池港見学、海洋環境整備船「海輝」の乗船見学などを通して、子ども達は、三池港について多くのことを学ぶことができました。



世界文化遺産「三池港」は、今も現役で使われている港です！運ばれる荷物は…



台風のと看、三池港が役立つことは何でしょう？



大雨のときは、多くの人が漂流ゴミを清掃しました。

はじめに、みなと小・天の原小・天領小の子ども達が天領小学校に集まり、国土交通省の方から、三池港や有明海についてクイズを交えながら楽しく教えていただきました。



そして
三池港へ



「あいあい広場」

三池港のくつろぎスペース「あいあい広場」で、三池港の歴史や港の働きについてお話を聞きました。



「海洋環境整備船「海輝」」

有明海の環境調査や海遊ゴミ回収をしている海洋環境調査船「海輝」に乗船し見学させていただきました。



「三池港クルーズ」

クルーズ船に乗って、三池港を海から見学しました。三池港の水位を一定に保つための閘門（こうもん）は、1908年の開港当時から110年後の現在まで、同じ機械で開閉されているそうです。間近で見る閘門はとても迫力がありました。灯台まで続く防砂堤（港の外から海砂が入るのを防ぐ堤）の長さは2400mもあるそうです。遠浅で干満の差が大きい有明海の特徴に合わせた様々な港の仕組みに驚かされました。



海洋教育こどもテレビ会議

1 目的

テレビ会議を活用した交流授業を通し、それぞれの学校の取組を交流することにより、海の環境保全、三池港の利用の仕方などについて地域の特性を活かした学習活動について理解を深める。

2 日時 令和元年11月29日(金) 10時45分～11時35分

3 会場 みなと小学校(音楽室) 天領小学校(音楽室) 天の原小学校(音楽室)

4 参加児童

○大牟田市立みなと小学校6年生 43名 ○大牟田市立天の原小学校6年生36名
○大牟田市立天領小学校6年生 65名

5 指導者

○大牟田市立みなと小学校 6年生担任2名 主幹教諭1名
○大牟田市立天領小学校 6年生担任2名 主幹教諭1名
○大牟田市立天の原小学校 6年生担任1名 主幹教諭1名

6 日程

10:00 テレビ会議ネット回線の確認(各校 主幹教諭)
10:45 あいさつと本時学習のめあての確認(天の原小学校 主幹教諭)
テレビ会議の進め方、視聴・交流の観点の確認(天の原小学校 主幹教諭)
10:50 ①みなと小学校の発表(天の原小学校 6年児童)
1・2学期の学習内容の発表
他学年の学習内容の発表
11:00 ②天の原小学校の発表(天領小学校 6年児童)
1・2学期の学習内容の発表
他学年の学習内容の発表
11:10 ③天領小学校の発表(みなと小学校 6年児童)
1・2学期の学習内容の発表
他学年の学習内容の発表
11:20 質疑応答(各校 6年児童)
①みなと小→天の原小 ②天の原小→天領小 ③天領小→みなと小
11:25 他校の取組への感想発表(各校 6年児童)
①みなと小→天領小 ②天領小→天の原小 ③天の原小→みなと小
11:30 本時学習のまとめとあいさつ(天の原小学校 主幹教諭)
11:45 テレビ会議ネット回線の切断(各校 主幹教諭)

7 児童のグループ分け

○各校で、自校の取組についての発表者、他校への質問者、他校の取組についての感想の発表者を決めておき、時間の効率化を図る。

8 準備物

児童:自校の取組発表に使うフリップ等
教師:会場設営 テレビ会議システム接続(9:00接続確認)

《外部連携及び事前準備等》

- テレビ会議システム研修(2週間前:各校 主幹教諭):「有明ネットコム」へ説明依頼、当日の接続補助協力依頼
- 発表資料(各校の取組内容の概要)の他校への送付(2週間前:各校6年担任)
- テレビ会議システム事前接続確認(1週間前:各校 主幹教諭)
- テレビ会議での質問事項の他校への連絡(1週間前:各校6年担任)
- 会場設営(大型テレビ、パソコン、スピーカー・マイク、ポスター掲示)、「有明ネットコム」の接続補助協力

みなと小学校・天領小学校・天の原小学校の6年生が、インターネットを通じて「海洋教育こどもテレビ会議」を行いました。

子ども達は、各学校における海洋教育の学習や取組についてお互いに紹介し、もっと知りたいことを質問したり、感想を交わし合ったりしました。

このテレビ会議を通して、3校の子どもたちが、お互いの取組のよさを理解するとともに、他校の取組のよさを自分たちのこれからの学びや取組の参考にすることができました。

1

はじめに、身近にある「有明海」や「三池港」について、3年生から6年生が学んできたことや取組んできたことについて、モニターに映し出された他校の子どもたちに伝えました。



2

他校における海についての学習や取組についての発表を聞き、もっと聞いてみたいことについて質問をしました。自分たちの学校とは異なった内容や方法での学びがあることに気づきました。



3

他校の発表や質問への答えを聞いて、それぞれの学校の特色や取組のよさが分かりました。最後に、今回のテレビ会議で学んだことや他校の取組のよさをお互いに伝え合いました。



テレビ会議で他校の子どもたちと学びを共有したことで、子どもたちは、今後さらに「海と人との共生」についての学びを深めていってくれることでしょうか。1月17日に開催される「海洋教育こどもサミット」での子どもたちの報告が、ますます楽しみになりました。

「海まつり」で学習交流



1 目的

有明海の干潟観察を一緒に行った天領小・みなと小の3年生が、有明海の自然や生き物について自分たちが調べたことをお互いに発表し合ったり、海をテーマにしたゲームを行ったりすることにより、身近にある有明海の自然について知り、海に進んでかかわろうとする児童を育てるとともに、海について共に学んでいる児童間の交流を深める。

2 日時 令和元年12月12日(木) 9時30分～11時30分

3 会場 大牟田市立天領小学校 体育館

4 参加児童

- 大牟田市立みなと小学校 3年生
- 大牟田市立天領小学校 3年生

5 指導者

- 大牟田市立みなと小学校 3年生担任 1名 主幹教諭 1名
- 大牟田市立天領小学校 3年生担任 3名 主幹教諭 1名

6 日程

- 9:00 みなと小学校3年生 学校出発
天領小学校3年生 「海まつり」会場準備
- 9:20 みなと小学校3年生 みなと小到着, 荷物整理
- 9:25 全体挨拶(天領小3年生担任)
- 9:30 「うみ祭り」開始
 - ※ 進行(天領小3年生代表児童)
 - ① はじめの言葉(天領小3年生代表児童)
 - ② 先生より(天領小3年生担任)
 - ③ 学習発表: ポスター発表(天領小3年生児童→みなと小3年生児童)
 - ④ 交流の説明(天領小3年生代表児童)
 - ⑤ 交流タイム(各校の小グループでゲームやクイズ、工作等のコーナーを企画運営)
 - ⑥ 海についての劇((天領小3年生児童)
 - ⑦ ふり返り・先生のお話(天領小3年生担任、みなと小3年生担任)
 - ⑧ おわりの言葉(天領小3年生代表児童)
- 11:30 みなと小学校3年生 天領小出発
天領小学校3年生 「うみ祭り」会場片付け
- 11:45 みなと小学校3年生 帰校

7 児童のグループ分け

○両校児童は、ゲーム・新聞発表など、コーナーごとにグループ分けを行い、グループ内をさらに2グループに分けて、発表・世話と他のコーナー見学を前半・後半で行えるようにしておく。

8 準備物

- 児童: 作成した新聞やゲームに使用する道具、掲示用プログラム(招待する側)
探検バック、水筒、赤白帽子、上靴(招待される側)
- 教師: 音楽合唱のCD、CDプレイヤー、放送設備、会場案内板(招待する側)
救急用具(招待される側)

≪外部連携及び事前準備等≫

- 実施期日の調整と日程確認(各校の担任・主幹教諭) ※年度当初の打合せが必要
- 実施内容の決定と児童の役割分担(実施校の担任)
- 実施当日の日程詳細と児童グループ分けの打合せ(各校の担任)

有明海の自然に親しみ、海に進んでかかわろうとする子どもたちを育てるために、みなと小・天領小・天の原小では、3年生の子どもたちが有明海の自然や生き物について調べています。1学期に有明海の干潟観察をした天領小・みなと小の3年生は、自分たちが有明海について学んだことを発表し合い、お互いの交流を深めていくために、天領小で「海まつり」を開きました。子どもたち手づくりによる「海まつり」は、調べたことをまとめたポスター発表や海の生き物に関する楽しいゲーム、学校で育てている有明海の生き物の展示、海の環境についてのビデオ視聴などがあり、楽しく交流しながら海についての学びをさらに深めるものになりました。



天領小体育館に立派な「海まつり」会場がつくられ、巨大なムツゴロウ（天領小3年生制作）が、みんなを迎え入れてくれました。

海についての学習発表



有明海の生き物について自分たちが調べて分かったことをまとめ、天領小・みなと小の3年生がお互いに発表し合いました。

交流タイム



海に関わるゲームや学習コーナー、生き物展示コーナーなど子どもたちのアイデアいっぱいの企画で、みんな楽しく交流し合いました。

九州・沖縄海洋教育連絡協議会「博多会議」

1 目的

九州・沖縄における「海洋教育パイオニアスクール」各校の学校間交流を通して、さらなる海洋教育の充実を期する。

2 日時 令和元年7月2日(火) 15時00分～17時00分

3 会場 「リファレンス駅東ビル」 会議室 (福岡県福岡市博多区博多駅東1-16-14)

4 参加者

○東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター

特任教授	日置 光久
主幹研究員	及川 幸彦
特任研究員	川上 真哉
チームリーダー	中嶋 竜生
リーダー	守友 鉄平
	勝俣 創介

○日本財団海洋事業部海洋チーム

海洋事業企画部	西田 泉
海洋事業研究部	中村 修子
総括指導主事	中村 敏明
校長	古賀 正広
校長	古賀 信弘
校長	高口 直喜
校長	濱弓場 一誠
副学園長	樋渡 正
校長	田中久美子
校長	原口 毅
教頭	尾崎 裕樹
教諭	白山 浩也
校長	居原田 晃

○笹川平和財団海洋政策研究所

○大牟田市教育委員会学校教育課指導室

○大牟田市立みなと小学校

○大牟田市立天領小学校

○大牟田市立天の原小学校

○鹿児島県南さつま市坊津学園

○佐賀県玄海町玄海みらい学園

○佐賀県唐津市立大志小学校

○佐賀県唐津市立佐志小学校

○鹿児島県与論町立与論小学校

○鹿児島県与論町立与論中学校

○沖縄県竹富町立上原小学校

5 日程

15:00 開会

15:15 各学校より本年度の取組について

16:00 講話

「九州における海洋教育に期待すること」

東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター



特任教授	日置 光久
主幹研究員	及川 幸彦
特任研究員	川上 真哉

17:00 閉会

6 準備物

各校の海洋教育に関する取組の概要が分かる資料(各校10部)

《事前準備等》

○東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターへの出席依頼と日程調整及び依頼状の送付

○九州・沖縄地区の海洋教育パイオニアスクールへの出欠確認と日程調整及び案内状の送付

○会議場の確保(九州各地からの交通の便を考慮し、福岡市博多区博多駅近辺が望ましい)

海洋教育 こどもサミット2020 in おおむた

1 目的

九州・沖縄地区の海洋教育推進モデル校(海洋教育パイオニアスクール)の児童が一堂に会し、これまでの海洋教育に関する学習の成果を交流することにより、「海と人との共生」についての理解及び考え方を深める。

2 日時 令和2年1月17日(金) 13時30分～16時30分

3 会場 大牟田文化会館 小ホール

4 参加児童

- | | | | | | |
|---------------|-----|--------|-----------------|-----|-----|
| ○大牟田市立みなと小学校 | 6年生 | 45名 | ○鹿児島県南さつま市立坊津学園 | 5年生 | 19名 |
| ○大牟田市立天の原小学校 | 6年生 | 36名 | ○佐賀県玄海町玄海みらい学園 | 5年生 | 4名 |
| ○大牟田市立天領小学校 | 6年生 | 66名 | ○佐賀県唐津市立大志小学校 | 5年生 | 8名 |
| ○沖縄県糸満市立高嶺小学校 | 5年生 | 2名、6年生 | 5名 | | |
| ○沖縄県竹富町立上原小学校 | 3年生 | 1名、4年生 | 1名 | | |

5 指導者及び参加者

- 東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター
 - ・センター長 田中智志 氏
 - ・特任准教授 丹羽淑博 氏
 - ・特任研究員 高倉美帆 氏
 - ・特任教授 日置光久 氏
 - ・特任研究員 川上真哉 氏
 - ・特任研究員 梶川 萌 氏
 - ・主幹研究員 及川幸彦 氏
 - ・特任研究員 信士淳平 氏
- 公益財団法人日本財団海洋事業部海洋チーム
 - ・チームリーダー 中嶋竜生 氏
 - ・リーダー 守友鉄平 氏
 - ・勝俣 創介 氏
- 九州・沖縄地方海洋教育促進拠点の海洋教育推進モデル校(海洋教育パイオニアスクール)教職員
- 大牟田市教育委員会 教育長・教育委員
- 大牟田市教育委員会学校教育課 課長・指導室長・指導主事
- 糸満市教育委員会指導部 指導部長・学校教育課長
- ※「世界文化遺産『三池港』と有明海を学ぶ会」会員の方々 ※児童保護者・地域住民

6 日程

- 13:15 受付開始
- 13:25 参加者紹介
- 13:30 開会行事
 - ・開会の言葉(天の原小学校 校長)
 - ・主催者挨拶(大牟田市教育委員会 教育長 ・ 天領小学校 校長)
- 13:35 ポスターセッション
 - ・学校紹介と発表概要説明 ・ポスターセッション
- 15:00 パネルディスカッション
 - ・参加校代表児童による意見交換
- 15:45 指導助言 東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター主幹研究員 及川幸彦 氏
- 16:05 総括講評 東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター長 田中智志 氏
- 16:25 閉会行事
 - ・閉会の挨拶(公益財団法人日本財団海洋事業部 海洋チームリーダー 中嶋竜生 氏)
 - ・閉会の言葉(みなと小学校 校長)
- 16:30 後片付け(大牟田市海洋教育推進協議会委員・WG)・帰校(引率:6年担任)

7 準備物

- 児童:探検バック、水筒、発表提示資料
- 教師:発表展示資料、展示用具、救急用具、記録用カメラ

《外部連携及び事前準備等》

- 東京大学海洋教育センター、日本財団、各教育委員会等への共催・後援依頼、及び講師依頼と打合せ
- 大牟田市外参加校の会場までの交通手段と到着・出発時刻の確認、及び控え室・昼食等の準備
- 大牟田市内各校から会場までの貸切バスの手配
- 「大牟田文化会館」への会場・必要機器等の借用申請
- 保護者・地域・関係団体等への案内状の作成と配付
- 会場設営(横断幕、プロジェクター、パソコン、ポスター・案内等の掲示)

海洋教育 こどもサミット2020 in おおむた

海洋教育に取り組む九州・沖縄地区の子どもたちが、それぞれの学校や地域での取組を発表・交流し合う「海洋教育こどもサミット」が大牟田文化会館で開催されました。ポスターセッションでは、自分たちの地域の自然や文化の特徴を生かした海洋教育の取組について、ポスターや図表・模型などを使って分かりやすく他校の子どもたちや参加された方々に伝え、質問や意見を交わしました。また、パネルディスカッションでは、これまでの取組やポスターセッションでの意見交流をもとに、「海と人との共生」のために自分たちにできることは何かについて話し合い、お互いの学びや交流を深めていきました。

各校の紹介と取組概要説明

こどもサミットに参加した8校の代表児童が、各学校の紹介と海洋教育の取組の概要について説明をしました。



ポスターセッション

各学校が、それぞれのブースにわかれ、学校や地域での取組について説明し、参加者の質問を受けたり、意見交換を行ったりしました。

みなと小学校

『有明海とともに生きる』

みなと小学校では、校区に接する有明海について、有明海に住む固有の生物や環境問題、三池港の役割、海との共生に関する学習を行っています。

6年生は、有明海の漁獲量が減少している事実から、その原因や具体的な変化の様子を、三里漁業協同組合の漁師さんと荒尾干潟水鳥・湿地センターのセンター長さんに尋ねました。その中で、人間の陸での生活が、海底の貧酸素化や干潟の面積減少など、大きな影響を与えていることを学びました。サミットでは、学習の過程とともに、これからも人間と海とのバランスを保ち、海と共生していくために、どのように行動すればいいか考えたことについて説明しました。



天領小学校

『有明海の魅力を生かしたまちづくりプラン』

天領小学校では、3学年からの学習を通して、有明海固有の生物や世界遺産になった三池港などの有明海の魅力について知りました。

現在、大牟田市には人口の減少や空家の増加など解決すべき課題があります。そこで6年生では、国語科「町の幸福論」の学習と関連させて、有明海の魅力を生かした大牟田の町づくりプランを考えました。その中で、大牟田市と同じような課題をもった市町村がどのような取り組みを行うことで解決したのかインターネットを利用して調べました。その事例をもとに、有明海の魅力を活用して、人口の減少・空家の増加などの課題を解決するためのオリジナルのプランを作成し、これから自分たちにできることを考えました。



天の原小学校

『大牟田の環境問題について調べよう』

天の原小学校では、有明海と校区にある野間川、そして森林とのつながりを調べ、そこから分かった環境問題について学習しています。まず、3年生では、有明海で生き物調査を行い、海に親しみました。4年生では、三池港を海から見学し、海にあるゴミの処理の仕方を学びました。また、有明海の清掃活動も行いました。5年生では、まず、有明海に流れ込む野間川の環境保全について学びました。次に、川に繋がる森林に目を向けるために、リフレス大牟田で海の豊かさを守るための森林の役割について学びました。

これらの学習を受けて、6年生では海洋の環境保全について学習し、自分たちにできることを考え、取り組んでいます。



玄海みらい学園

『玄海町を元気にするGen Gen プロジェクト』



わたしたちは、昨年度、一昨年度の2年間、先輩たちが学んできた5年生の海洋学習の上に、今年度の5年生であるわたしたちがどんなことを積み上げられるか、ということから学習をスタートしました。

「ふるさと・玄海町の魅力を多くの人に知ってほしい」「町民の思いや願い、町の美しい風景やそこで育まれる自然の恵みを多くの人に伝えたい!」という思いから、様々なことを計画・実行したり、学んだりしてきました。

うまくいったこともそうでないこともありましたが、これまでに学んだことを、わたしたちなりの言葉で一息懸命伝えました。

大志小学校

『TieSea (たいっしー) ～私たち自慢の唐津の海～』



大志小学校は海の近くにあり、「TieSea (たいっしー) 学習」として海洋教育に取り組んでいます。全校では、「海辺の集会」を行い、砂の彫刻を作ります。各学年では、ヨットやカヌーの体験を行い海に親しんでいます。

これらの活動を行っている「西の浜」について調べると、以前と比べてゴミが増え、水も濁ってきており、生き物の数も減ってきていることが分かりました。

そこで、西の浜の自然を守っていくために、わたしたちがこれまでにやってきた活動について紹介しました。

坊津学園

『魅力あふれる坊津の海 ～生まれ育てる豊かな海～』



私たちは、社会科の学習を通して水産業の現状について知りました。それは、漁獲量が少なくなり、水産資源の食糧自給率が低下しているというものでした。

私たちの住む坊津は、海に面して昔から海との関わりが深い場所です。そこで、坊津で行われているマグロ・車エビの養殖の様子を見学して分かったことやこれから私たちにできることは何か考えたことを発表しました。

高嶺小学校

『豊かな海と共に生きる未来への提案』



高嶺小学校では、生活科や総合的な学習の時間で「海と親しむ」「海を食す」「海を知る」「海を守る」体験活動を行って3年目となります。

6年生は、これまでに民俗資料館を訪ね漁業の歴史を学んだり、沖縄水産高等学校でシラヒゲウニの人工授精を行ったりしてきました。まとめとなる海洋教育発表会の中では、水産資源の減少や地球温暖化、ごみ問題といった課題に対して、豊かな海を守っていくにはどうすればよいか考えたことを「豊かな海と共に生きる 未来への提案」としてまとめました。各グループから「生活習慣病を予防するために魚を食べよう」という提案や「魚の住処となる珊瑚を守ろう」などの提案が出されましたが、中でも、沖縄の魚料理やウニの人工授精、ビーチクリーン、サバニ体験を取り上げて今回発表しました。

上原小学校

『海の達人 ～海を守り、海を活かす～』



西表島は島全体が海に囲まれ、海の恩恵を受けながら様々な動植物が共生しています。そのような環境の中で本校が取り組んでいる学習活動が「海の達人」です。一つは「ビーチクリーン作戦」です。海岸にある漂着ゴミを拾い、海を守る活動を行っています。また、漂着ゴミのペットボトルのバーコードからこの国から流れ着いたものであるか調べ、自分たちにできることを考える活動を行っています。二つ目は「魚まき集会」です。全校児童で追い込み漁をして、獲った魚を捌いて調理までします。事前学習では、海の危険生物や珊瑚についての学習もしています。命を頂く事で自然の恩恵を受けることに感謝することができます。これらの体験活動から学んだこと、現在や未来の自分たちにできることについて発表を行いました。

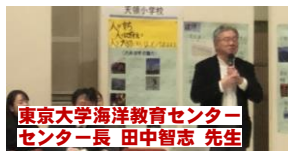
パネルディスカッション

「海と人との共生」のために、自分たちにできること、これから取り組んでいきたいことについて意見交換しました。



東京大学の先生方から

東京大学海洋教育センター長の田中先生や主幹研究員の及川先生から、各校の取組の価値づけや今後に向けてのアドバイスをいただきました。



東京大学海洋教育センター
センター長 田中智志 先生



東京大学海洋教育センター
主幹研究員 及川幸彦 先生

第7回全国海洋教育サミット

全国で海洋教育に取り組んでいる小・中・高等学校や関係機関・団体の500名を超える人たちが一堂に会して、それぞれの実践や取組について交流し合い、これからの「海洋と人類との共生」について共に考える「第7回全国海洋教育サミット」が、東京大学で開催されました。みなと小学校・天領小学校・天の原小学校の各校代表の子どもたちも、このサミットに参加し、各校の海洋教育の取組や自分たちの考えを、ポスターセッションで全国から訪れた海洋教育に携わっている方々に発表しました。



今回の海洋教育サミットは、「気候変動と海洋リテラシー」のテーマのもと、午前中に、海洋教育に取り組む全国の学校・自治体、社会教育施設等が各々の実践や研究の成果をポスター形式で発表するポスターセッションが行われ、午後からは、海洋科学の現状や海洋リテラシー構築に向けた海洋教育の実践についての発表や協議が行われました。

子どもたちは、ポスターセッションで自分たちの取組や考えを発表するとともに、全国各地での取組について発表を聞いたり、質問をしたりしながら海についての学びを深めました。

ポスターセッション



みなと小学校



天領小学校



天の原小学校



気仙沼市立気仙沼小学校



羅臼町立羅臼小学校



竹富町立古見小学校

ポスター・セッションでは、海洋教育に取り組む全国の学校・団体から、前半・後半に分かれて63もの発表がありました。大牟田市の海洋教育推進モデル校の代表の子ども達も、それぞれの学校の特色ある取組について堂々と全国の方々に発表しました。

推進協議会 会長

- | | | |
|-------------|-----|-------|
| ○ 大牟田市教育委員会 | 教育長 | 安田 昌則 |
|-------------|-----|-------|

推進協議会 委員

- | | | |
|-------------------------------|--------|-------|
| ○ 大牟田市教育委員会 | 指導室長 | 荒木 秀敏 |
| ○ 大牟田市教育委員会 | 総括指導主事 | 中村 敏明 |
| ○ 大牟田市立みなと小学校 | 校長 | 古賀 正広 |
| ○ 大牟田市立天領小学校 | 校長 | 古賀 信弘 |
| ○ 大牟田市立天の原小学校 | 校長 | 高口 直喜 |
| ○ 東京大学大学院教育学研究科
附属海洋教育センター | 主幹研究員 | 及川 幸彦 |

ワーキンググループ 委員

- | | | |
|-------------------------------|--------------|-------|
| ○ 大牟田市立みなと小学校 | 教 頭 | 馬籠 秀典 |
| | 主幹教諭 | 下地 徹 |
| | 研究主任 | 荒川 正明 |
| | 海洋教育担当者 | 石橋 剛志 |
| ○ 大牟田市立天領小学校 | 教 頭 | 溝上 尚子 |
| | 主幹教諭 | 森 洋祐 |
| | 研究主任・海洋教育担当者 | 奥園 信宏 |
| ○ 大牟田市立天の原小学校 | 教 頭 | 堤 さゆり |
| | 主幹教諭 | 樋口 広一 |
| | 研究主任 | 柿園 綾香 |
| | 海洋教育担当者 | 住吉 主堂 |
| ○ 東京大学大学院教育学研究科
附属海洋教育センター | 特任研究員 | 川上 真哉 |

～・～・～・～・～・～・～ おわりに ～・～・～・～・～・～

2016年、スイスのダボスで行われた世界経済フォーラムでは、「2050年には海洋プラスチックゴミの量が海にいる魚の量を上回る」というショッキングな予測が発表されました。私たちの身近には、日本有数の干潟をもつ宝の海「有明海」があります。児童が「ふるさと大牟田の海「有明海」や川、自然や文化を大切にし、守りたい」という思いをもち、自分たちの生活の中でできることを主体的に実行し、広く海や地球環境について考えていくようになってほしい。このような思いで、大牟田市立みなと小学校、天領小学校、天の原小学校の3校は、平成29年度より大牟田市海洋教育推進モデル校として海洋教育に取り組んで参りました。

3校は学校の立地環境が異なりますが、それぞれの立場で森と川と海をつなげた流域での海洋教育を行い、学習交流を行うことでより深い学びにつながり、多角的な視点で海と人との共生について考える子どもたちを育成しています。

みなと小学校は、世界文化遺産「三池港」を校区に有し、三池港を軸に海の環境を守るために自分たちにできることを考えたり、調べた三池港のよさや魅力を他校や地域に発信したりして学習を展開しました。子どもたちは、100年以上も前に考えられ現在も使われている閘門がある三池港に、誇りと親しみを感じていきました。

天領小学校は、有明海に注ぐ諏訪川に隣接し、川から海を見る視点で学習を進めました。自分たちの学校や校区が干拓でできたものであることを知り、先人の苦労や工夫を体験を通して調べていきました。諏訪川や有明海の自然を守るために自分たちにできることは何か、ふるさとの川や海を将来どのような姿に発展させ、どう守っていくのか現実的なまちづくりの未来設計について考え、発信しました。

天の原小学校は、生活排水が海に与える影響や上流の森の落葉が海を豊かにしたりすることを学習したことで、校区を流れる小さな野間川も海につながっていることを実感しました。子どもたちは様々な人の力を借りて調べ、森も川も海も守りたいという思いを強くしました。身近な生活を、環境を守る視点で改善していくことを、子ども達自身から家庭、地域へと発信し、地域と一体となって取組む姿が見られました。

3校の異なった環境での活動や学びを、学習交流会やテレビ会議、子どもサミット等で、他校の児童と交流することを通し、森・川・海の繋がりを深く捉え、自分達の学校で自分達にできることを考える学習へと発展しました。大牟田市における海洋教育の実践も3年以上となり、持続可能な社会の創り手となる素地が育ってきました。

今後は、資質・能力を明確にしたカリキュラムマネジメントを進め、SDGs 14「海の豊かさを守ろう」の達成を目指し、「海と人との共生」を実現する子どもの育成に努めて参ります。

最後になりましたが、東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターをはじめ、3校の学習を支えていただいたゲストティーチャーやすべての皆様に心から感謝いたします。

令和2年3月

大牟田市立みなと小学校 教頭 馬籠 秀典
大牟田市立天領小学校 教頭 溝上 尚子
大牟田市立天の原小学校 教頭 堤 さゆり



有明海の干潟



三池港の夕日

大牟田市教育委員会 大牟田市海洋教育推進協議会
大牟田市立みなと小学校 大牟田市立天領小学校 大牟田市立天の原小学校

海洋教育パイオニアスクールプログラム
Ocean Education Pioneer School Program

日本財団/東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター/笹川平和財団海洋政策研究所

